

目次

第 1 章	Autodesk インストレーションの概要と FAQ	1
	2014 インストレーション ガイドの新しい点	1
	インストールの概要	1
	インストールの準備	2
	インストールの種類を選択する	3
	製品の言語を変更する	4
	ライセンスを指定する	5
	環境設定とインストール	6
	製品のアクティベーションを行う	7
	配置を作成する	7
	よくある質問と回答	8
	シリアル番号やプロダクト キーを紛失するとどうなりますか?	9
	なぜ、製品のインストール後にアクティベーションが必要なのですか?	9
	Web サイトからオートデスク製品をインストールできますか?	9
	試用ライセンスは、製品スイートまたはバンドルでどのように動作するのですか?	9
	どうすれば、ライセンスの種類を変更できますか?	10

	インストールのあと、製品のライセンス情報はどこで確認できますか?	10
	インストールのあと、どうすれば製品の環境設定を変更したり、製品を修復またはアンインストールできますか?	11
第 2 章	Autodesk ネットワーク管理者用ガイド	13
	ネットワーク管理と配置	13
	2014 ネットワーク管理者用ガイドの新しい点	13
	概要 - 配置	14
	言語パックの配置	15
	配置の準備作業を確認する	15
	Windows 8 の .NET 3.5 サポートを確認する	17
	インストレーションの種類を決定する	17
	ライセンス サーバ モデルを決定する	18
	個々の製品を環境設定する	19
	追加のソフトウェアを含める	20
	Service Pack を含める	20
	ネットワーク共有を作成する	22
	配置を作成する	23
	32 ビットと 64 ビットの結合配置を作成する	25
	配置を修正する	26
	ユーザに管理イメージを通知する	26
	配置された製品をアンインストールする	27
	代替配布法	27
	配置方法の概要	27
	配置のバッチ ファイル	28
	配置のグループ ポリシー	31
	配置の Microsoft SCCM	37
	配置用にソフトウェアのディスク イメージを作成する	44
	インストールに関する質問	47
	ライセンスの疑問	47
	配置とネットワークの疑問	48
	アンインストールとメンテナンスの疑問	51
	用語集	53
第 3 章	Autodesk ライセンス ガイド	55
	はじめに	55
	2014 ライセンス ガイドの新しい点	55
	ライセンスの種類	56
	アクティベーション	57
	登録	58

簡素化されたライセンス	58
スタンドアロン ライセンス	59
スタンドアロン ライセンスの概要	59
マルチシート スタンドアロン ライセンス	59
スタンドアロン ライセンスを管理する	60
スタンドアロン ライセンスを転送する	62
スタンドアロン ライセンス エラーのトラブルシューティング	67
ネットワーク ライセンス	70
ネットワーク ライセンス管理を計画する	70
ネットワーク ライセンスとは	76
Network License Manager を実行する	86
ネットワーク ライセンスの他の機能を使用する	96
ネットワーク ライセンスに関するよくある質問と回答	113
第 4 章	
Autodesk Navisworks 2014 のインストールの補足情報	117
動作環境	117
概要 - Language Pack	119
Language Pack をアンインストールする	120
ファイル エクスポータ	120
Autodesk Navisworks のアンインストールに関する情報	121
索引	123

Autodesk インストール シヨンの概要と FAQ

1

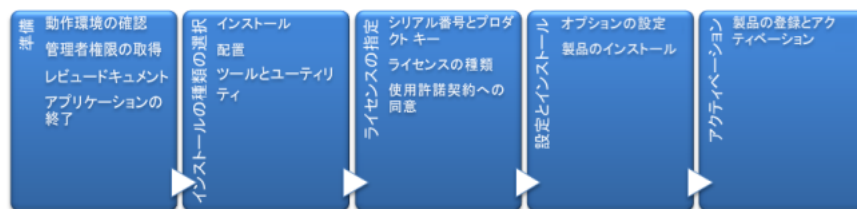
2014 インストール シヨンの新しい点

『インストール シヨンの概要と **FAQ**』は、統合された『インストール ヘルプ』オンライン ドキュメントに統合されました。『インストール ヘルプ』には、『ネットワーク管理者用ガイド』、『ライセンス ガイド』、および製品固有の補足も含まれています。この新しい構造によって、より簡単に使用および管理できるようになります。

製品のインストーラは、[Autodesk アンインストール ツール]をインストールするようになりました。このツールを使用することにより、スイートや複数の製品を 1 回の操作で非常に簡単にアンインストールすることができます。この [FAQ トピック](#) (11 ページ)でアンインストール ツールの詳細を読むことができます。

インストールの概要

次の図は、インストール処理の主要部分を示しています。



詳細は、以降のセクションに示します。

インストールの準備

インストールを開始する前に、次の事項を確認してください。

- ご使用のコンピュータが最低限の動作環境を満たしていることを確認してください。不安がある場合は、インストーラウィンドウの一番下に表示されている[動作環境]をクリックしてください。
- インストールする製品またはスイートに対する認定および推奨コンピュータハードウェアを確認してください。詳細は、<http://www.autodesk.com/hardware> にアクセスしてください。
- インストールの種類(スタンドアロンまたはネットワーク)やインストールする製品などの詳細を把握するには、製品のドキュメントを参照してください。ドキュメントには、インストーラの左下コーナーのリンクからアクセスできます。

インストレーション ヘルプ | 動作環境 | Readme

- インストールするユーザのユーザ名が、アプリケーションをコンピュータまたはネットワークにインストールするために必要な管理者の権利を持っていることを確認してください。
- インストールするすべての製品のシリアル番号とプロダクトキーを入手します。これらは製品のパッケージに記載されているか、ソフトウェアをダウンロードしたときに提供されます。
- インストーラを実行する準備ができたなら、実行しているすべてのアプリケーションを終了します。

Windows 8 と .NET 3.5 の要件

一部のオートデスク製品は、Microsoft DirectX および Microsoft .NET Framework を必要とします。しかし、Windows 8 環境では、ローカル メディアから .NET 3.5 以前をインストールすることはできません。このため、Windows Update で .NET Framework をインストールまたは有効にするには、インターネットへのアクセスが必要になります。

Autodesk インストーラで .NET 3.5 以前を Windows 8 にインストールできない場合は、次のメッセージが表示されます。

Windows コンポーネントをインストールには、インターネット接続が必要です。 インターネットに接続し、インストーラを再起動してください。

次の条件下では .NET はインストールできません。

- インターネットに接続できない。
- コンピュータが Windows Update ではなく Windows Server Update Services (WSUS)を使用するように設定されている。
- マイクロソフト セキュリティ アドバイザリ([2749655](#))の Windows 8 Update がインストールされていない。

これらの条件をどれか 1 つでも解決できない場合は、システム管理者またはユーザが手動で個々の Windows 8 コンピュータで .NET 3.5 を有効にしてから、Autodesk インストーラを起動する必要があります。詳細な手順については、次の [MSDN 記事](#)を参照してください。

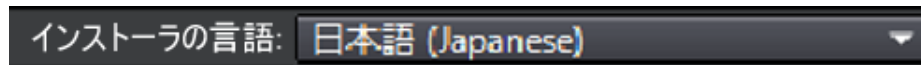
インストールの種類を選択する

ここには、正しい方針の選択に役立つ基本的な情報が記載されています。

- **[インストール]**は、個人ユーザまたは小規模なグループに適しています。重要な点は、それぞれのコンピュータに対して、インストール作業を繰り返すこととなる点です。これは、スタンドアロンライセンスにとっては唯一の有効なインストールの種類です。しかし、マルチシートスタンドアロンやネットワーク ライセンスで使用することもできます。
- **[配置を作成]**は、マルチシート スタンドアロンまたはネットワーク ライセンスを使用するネットワーク管理者に適しています。配置の作成処理では、インストールは 1 度だけ環境設定され、ネットワーク上に保存されます。その後、ユーザのコンピュータに効率的に配布されます。
配置の詳細は、「[配置を作成する](#)」(7 ページ)または『ネットワーク管理者用ガイド』を参照してください。
- **[ツールとユーティリティ]**は、スイートまたは製品に関連するツールやユーティリティをインストールするために使用します。オートデスク製品のネットワーク ライセンスを所有している場合、ユーザが製品を実行できるようにするには、このオプションを使用して Network License Manager をインストールする必要があります。使用できる有益なツールやユーティリティを見分けるには、ご使用のスイートまたは製品のドキュメントを参照してください。

インストーラの言語を選択する

インストーラの最初の画面で、右上のこのコントロールを使用して、インストーラの画面に表示される言語を選択することができます。

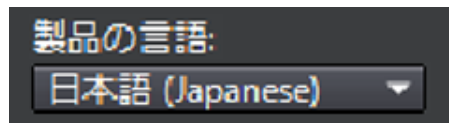


いくつかのオートデスク製品では、インストール作業の後半に、インストールする製品の言語を選択することができます。詳細は、「[製品の言語を変更する](#)」(4 ページ)を参照してください。

製品の言語を変更する

重要: 以下の記述は、個別のメディアで提供されるそれぞれの言語バージョンのオートデスク製品には適用されません。これらの製品では、言語を変更することはできず、購入時に製品の言語を指定する必要があります。

AutoCAD などいくつかのオートデスク製品では、インストーラのドロップダウンメニューを使用して、インストール時に製品の言語を選択することができます。



言語選択メニュー

このメニューに希望の言語がない場合、使用可能なオプションはオートデスク製品によって異なります。一部の製品(Inventor など)では、言語パックを使用して追加の言語に対応することができます。

言語の選択には次の条件が適用されます。

- 各スイートのインストールは、1 つの言語を使用します。1 つまたは複数の製品を異なる言語でインストールする必要がある場合は、別々にインストールする必要があります。
- すべての配置は、1 つの言語でなければなりません。1 つの管理イメージが異なる言語の配置に対応することはできませんが、それぞれの配置は 1 つの言語のみに対応します。

- 複数の製品をインストールし、いくつかの製品で対応していない言語を選択した場合、それらの製品では既定の言語が使用されます。
- インストーラの[製品情報]ページから出ると、言語を選択するまたは言語パックを追加するメニューが無効となります。後から言語を変更するまたは言語パックを追加することにしても、[製品情報]ページに戻り、これらのメニューを使用することはできません。このため、インストールをキャンセルし、再度インストーラを起動して、[製品情報]ページで適切な言語を選択する必要があります。

概要 - 言語パック

言語パックは、ユーザ インタフェースとドキュメントで使用される言語を変更するために、オートデスク製品に追加できるソフトウェア モジュールです。言語パックを追加することにより、製品ソフトウェアの 1 つのインスタンスが複数の言語に対応できるようになります。各言語パックは特定のオートデスク製品に対応し、インストーラを含んでいます。言語パックをインストールする前に、オートデスク製品をインストールする必要があります。各言語パックをインストールすると、Windows の[スタート]メニューに [Inventor - French (Francais)] というような別のアイコンが作成され、このアイコンを使用して、その言語で製品を起動することができます。製品によっては、製品メディアまたは Web サイトから言語パックを使用できます。

言語パックのインストーラには、特定の製品の言語パックの配置を作成するオプションがあります。言語パックの配置は、関連製品をインストールした後に、複数のコンピュータにインストールして、別の言語バージョンを追加できます。

ライセンスを指定する

以下の説明は、一般的な概要です。詳細は、ご使用の製品の『ライセンス ガイド』を参照してください。

ライセンスの種類

ほとんどのオートデスク製品は、インストールして、製品を評価するために 30 日間試用することができます。ライセンスを購入すると、ライセンスはユーザ固

有の番号を使用して、スタンドアロンまたはネットワークとして環境設定されます。これらのライセンスの種類を、以下に簡単に説明します。

- **スタンドアロンライセンス**は、1人のユーザの使用を目的としています。ライセンスを受けた製品は、同時に実行しない限り、複数台のコンピュータにインストールすることができます。
- **マルチシート スタンドアロン ライセンス**は、決められた最大数のユーザをサポートすることを目的としていますが、容易にアクセスできるように、より多くのコンピュータにインストールすることができます。
- **ネットワークライセンス**は、ネットワークに接続されたユーザの決められた最大数をサポートします。ユーザへのライセンスの配布を管理するには、ネットワーク上の1台または複数台のサーバに Network License Manager をインストールします。

ネットワーク ライセンス サーバ モデル

ネットワーク ライセンスを使用している場合、ライセンスの購入時に指定した Network License Manager のサーバ環境設定を選択することができます。

- **シングル ライセンス サーバ**
1台のサーバがネットワーク上のすべてのライセンスを管理します。
- **分散ライセンス サーバ**
ライセンスは、ネットワーク内の複数台のサーバのプールに分散されます。プール内のそれぞれのサーバの名前を入力します。
- **冗長ライセンス サーバ**
3台のサーバがそれぞれのライセンスを認証できます。3台のサーバの名前を入力します。

環境設定とインストール

インストールパス

このパスは、製品がインストールされる場所を示します。場所を変更する場合は、インストールパスで有効な ASCII 文字のみを使用します。

環境設定

ほとんどの製品には、いくつかの環境設定があります。[インストール > インストールの環境設定] ページで、インストール対象として選択した製品に、環境設定パネルにアクセスするための三角形のコントロールが表示されます。



環境設定パネルを表示するには、製品ボックスの任意の場所をクリックします。多くの製品では、インストールの種類として、既定の環境設定を受け入れる**標準**と、設定を確認して修正するかどうかを決定できる**カスタム**のいずれかを選択できます。ご使用の製品の環境設定の詳細は、『**インストール ヘルプ**』の製品補足に記載されている可能性があります。必要に応じて環境設定を行ったら、三角形をクリックして環境設定パネルを閉じます。

製品のアクティベーションを行う

オートデスク製品を初めて実行すると、アクティベーション処理によって、ライセンスが有効であるかどうかを確認され、コンピュータにライセンスが関連付けられます。インターネットに接続されている場合、ご使用のコンピュータとオートデスクが直接通信を行い、アクティベーション処理が完了します。

ご使用のコンピュータがインターネットに接続されていない場合、後で接続したときに製品のアクティベーションを行うことができる Web サイトのアドレスが表示されます。Web サイトのアドレス、製品名、シリアル番号、プロダクトキー、リクエスト コードを記録してください。製品のアクティベーションを行うには、Web ページでこのデータを入力する必要があります。アクティベーションの詳細については、[Autodesk ライセンス ガイド](#)にアクセスし、FAQ リンクをクリックしてください。

配置を作成する

効率的な方法を使用して複数のコンピュータにオートデスク製品をインストールするには、配置を作成します。

管理イメージ

配置プロセスで管理イメージを作成します。これは、プログラムの一貫した環境設定をそれぞれのコンピュータにインストールするために使用するインストール ション ファイルのセットです。その他の設定:

- **管理イメージのパス:** ネットワーク上の共有の場所で、フル コントロールの権利がある場所を指定します。プログラムをインストールするために、ユーザはこの場所にアクセスします。
- **プラットフォームの種類:** 配置を使用するコンピュータのオペレーティング システムに応じて、32 ビットまたは 64 ビットのいずれかを選択します。
- **この配置環境設定に必要な製品のみを含める:** オンにすると、将来、追加の製品を含めるために配置を修正することができなくなります。オフにすると、管理イメージには可能なすべての製品が含まれ、将来、任意の方法で管理イメージを修正することができます。

インストール設定

- **サイレントモード**は、ユーザ入力なしに、インストールがバックグラウンドで実行されます。

重要: サイレント モードでは、インストール完了時に警告は表示されず、ユーザのコンピュータは自動的に再起動されます。

- **ログ ファイル**には、それぞれのコンピュータのインストール データが記録されます。
- **ネットワーク ログ ファイル**は、配置を実行したすべてのコンピュータのインストールデータの主要な記録を保持します。これは、作成する配置と同じ名前で、ユーザが変更の権利を持っている共有フォルダに置く必要があります。これにより、ユーザのコンピュータはログ ファイルに書き込めるようになります。

よくある質問と回答

ここで扱われていない事項についてアドバイスや支援が必要な場合は、[製品サポート情報](#) にアクセスし、ご使用の製品名をクリックして、ご使用の製品のナレッジベースで検索してください。

シリアル番号やプロダクトキーを紛失すると どうなりますか？

可能な場合は、製品のパッケージまたは購入記録を調べてください。または、[オートデスク カスタマー サービス](#)に連絡してください。

なぜ、製品のインストール後にアクティベーションが必要なのですか？

アクティベーションは、オートデスクのため、およびライセンス所有者であるユーザのために、オートデスク製品が有資格のコンピュータにインストールされたことを確認します。アクティベーション処理は、ライセンスの安全確保と管理を改善します。たとえば、マルチシート ライセンスが許可されたユーザ数を超えて使用されることを確実に防止します。

Web サイトからオートデスク製品をインストールできますか？

サブスクリプション、教育機関向け、オンライン ストア、マイ アカウント、体験版サイトなど、複数のオートデスク Web サイトから製品をダウンロードできます。ダウンロードが可能な各サイトでは、各自の動作環境に合ったダウンロード方法を選択できます。ご使用のコンピュータに直接製品をインストールする場合は、[今すぐインストール]オプションを使用します。後で製品をインストールしたり配置を作成するためにファイルをダウンロードする場合は、ダウンロードマネージャをお勧めします。または、ブラウザ ダウンロードを使用することもできます。詳細は、ダウンロード Web サイトを参照してください。

試用ライセンスは、製品スイートまたはバンドルでどのように動作するのですか？

1 つの試用期間、通常は 30 日間、がスイートまたはバンドルに含まれるすべてのオートデスク製品に適用されます。最初の製品を起動したときに、すべての製

品の試用期間が開始します。試用期間が終了する前に製品の1つでもアクティベーションしなかった場合、どの製品にもアクセスできなくなります。試用期間の終了後にアクティベーションコードを入力すると、再び製品にアクセスできるようになります。

どうすれば、ライセンスの種類を変更できますか?

製品のインストーラを実行しており、単に間違って正しくないライセンスの種類(ネットワークまたはスタンドアロン)を選択した場合は、[戻る]ボタンを使用して[製品情報]ページに戻り、ライセンスの種類を変更します。

インストールした製品のライセンスの種類を変更したい場合は、オートデスク販売パートナーまたはライセンス サプライヤーに問い合わせ、仕事のすべての要件を検討して、新しいライセンスと新しいシリアル番号を入手します。次に、製品をアンインストールして新しくインストールを実行し、ライセンスの種類を変更して新しいシリアル番号を入力します。

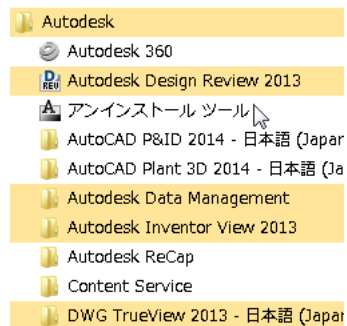
Media & Entertainment 製品(3ds Max、Maya、MotionBuilder、Mudbox、Softimage)では、スタンドアロン ライセンスとネットワーク ライセンスを切り替えることが可能です。操作手順については、『**Autodesk** インストレーション ヘルプ』のこれらの製品に対する補足に記載されています。

インストールのあと、製品のライセンス情報はどこで確認できますか?

[ヘルプ]メニュー ▶ [バージョン情報]または[<製品名>バージョン情報]を選択します。ご使用の製品が[情報センター]を使用している場合は、[ヘルプ]メニューと同じ場所にあります。

インストールのあと、どうすれば製品の環境設定を変更したり、製品を修復またはアンインストールできますか?

複数の製品やスイート全体をアンインストールするには、Autodesk アンインストール ツールの使用をお勧めします。このツールは、お使いのコンピュータの製品リストから起動することができます。



製品リストへのアクセス方法は、Windows のバージョンによって異なります。

- **Windows 7 または XP:** [スタート]メニュー ► [すべてのプログラム]をクリックします。
- **Windows 8:** スタート画面を右クリック ► [すべてのアプリ]。

ツール ウィンドウで、アンインストールする製品を選択します。選択した製品の 1 つをアンインストールすると他の製品が正常に操作できなくなる場合、関連製品のアンインストールに関する警告メッセージが表示されます。[アンインストール ツール]は、サービス パックやローカルにインストールされたヘルプ ファイルをアンインストールしません。

アンインストール操作によっては、[アンインストール ツール]から行うより、個々の製品で行う方が良い場合もあります。たとえば、関連する言語パックを削除せずに製品をアンインストールする場合です。製品固有の操作は次のとおりです。

- 1 Windows の[コントロール パネル]に進みます。
 - **Windows XP:** [スタート]メニュー ► [設定] ► [コントロール パネル] ► [プログラムの追加と削除]をクリックします。

- **Windows 7:** [スタート]メニュー ➤ [コントロール パネル] ➤ [プログラム]/[プログラムのアンインストール]をクリックします。
 - **Windows 8:** スタート画面を右クリック ➤ [すべてのアプリ] ➤ [コントロール パネル]。
- 2** Windows の[コントロール パネル]で、製品名をクリックし、次に[アンインストールと変更] (Windows 7 または 8)または[変更と削除] (Windows XP)をクリックします。
- インストーラがメンテナンス モードで開かれ、処理の過程で操作方法が示されます。

ネットワーク管理と配置

2014 ネットワーク管理者用ガイドの新しい点

『ネットワーク管理者用ガイド』は、統合された『インストレーション ヘルプ』オンライン ドキュメントに統合されました。『インストレーション ヘルプ』には、『インストレーションの概要と FAQ』、『ライセンス ガイド』、および製品固有の補足も含まれています。この新しい構造によって、より簡単に使用および管理できるようになります。

その他の改善点は次のとおりです。

- **配置パスの長さの検証。** Windows で作成された配置は、フォルダ構造内で深くネストされている場合、オペレーティング システムのパスの最大長を超えることがあります。この制限を超える可能性を減らすために、オートデスクは多くの配置フォルダの名前を短縮し、パスが長すぎる場合はユーザに警告と文字数を表示するパス長チェック機能を実装しました。
- **32 ビットと 64 ビットの結合配置。** ネットワークに 32 ビットと 64 ビット コンピュータの両方が含まれている場合、ネットワーク管理者は、コンピュータの種類を判断して適切なバージョンの製品を自動的にインストールする結合配置を作成することができます。詳細は、「[32 ビットと 64 ビットの結合配置を作成する](#) (25 ページ)」を参照してください。
- **配置に追加のソフトウェアを含める。** 配置に含めるオートデスク製品を選択するとき、サードパーティの製品、App Store のアドイン、言語パック、その他

の .MSI または .EXE パッケージを含めることもできます。詳細は、「[追加のソフトウェアを含める](#) (20 ページ)」を参照してください。

- スクリプト化されたアンインストール ファイル。それぞれの配置には、配置の全部または一部を自動的にアンインストールできるバッチファイルが含まれるようになりました。詳細は、「[配置された製品をアンインストールする](#) (27 ページ)」を参照してください。

概要 - 配置

配置は、複数のコンピュータに 1 つまたは複数のオートデスク製品を標準の環境設定でインストールする有効な手段を提供します。インストレーション プロセスに必要なファイルが、ネットワーク上のすべてのユーザが共有アクセスできるフォルダ内の管理イメージに格納されます。製品をインストールするには、ユーザは配置フォルダに移動し、インストーラのショートカット(.LNK ファイル)をダブルクリックします。

注: このガイドで説明するインストーラは、Windows オペレーティング システムにのみ該当します。ただし、いくつかの概念と手順は、Linux または Mac OS X ネットワーク上のオートデスク製品にも適用できます。

配置に関するいくつかの基本的な事項を次に示します。

- 配置は、ネットワーク ライセンスまたはマルチシート スタンドアロン ライセンス用に作成できます。
- 同じフォルダに異なる環境設定の複数の配置を置くことができ、これらの配置は同じ管理イメージを共有できます。
- 各配置は、1 つの言語で製品をインストールします。別の言語で製品をインストールする必要がある場合は、言語ごとに別の配置が必要になります。言語パックをサポートする製品の場合は、追加の言語パックを配置に含めることができます。
- 異なる環境設定で別の配置を作成する場合、既存の配置に基づいて作成できます。
- 配置は、各インストレーションのログ ファイルを作成するように環境設定できます。ネットワーク管理者は、問題解決のためにこれらのログ ファイルを使用できます。
- 各配置はサブフォルダ **<配置名>*SMS_SCCM scripts** を作成します。このサブフォルダには、Microsoft Systems Management Server(SMS)および System

Center Configuration Manager(SCCM)を使用して配置を配布する際に役立つ2つのドキュメント **SMS_SCCM_ReadMe.txt** および **<配置名>_SCCM.txt** が含まれています。**SMS_SCCM scripts** フォルダには、配置内の一部または全部の製品のアンインストールを自動化するバッチファイルの作成に役立つ2つのファイルも含まれています。2つのファイルは、**<配置名>_Uninstall.txt** と **Product_Uninstall_ReadMe.txt** です。

言語パックの配置

Inventor や Revit など、一部のオートデスク製品は、別個の言語パックを使用して、インストール済みの製品に1つまたは複数の追加の言語バージョンを追加できます。各言語パックは、特定の言語のユーザインタフェース文字列、メッセージテキスト、ドキュメントを提供します。製品ソフトウェアはコピーされません。オートデスク製品の複数のインスタンスに特定の言語バージョンを配布する場合、各言語パックに同梱されているインストーラを使用して、言語パックの配置を作成できます。複数の言語または複数の製品の言語パックを配置する必要がある場合は、バッチファイルを作成して、一連の言語パックを各コンピュータにインストールできます。

配置の準備作業を確認する

このチェックリストには、ネットワーク配置を作成する前に完了しておく準備作業や、収集する情報、決めておくべき事項を記載しています。

ヒント: 製品の環境設定の詳細など配置設定を確認する場合は、テスト用の配置を作成できます。配置の作成プロセスを習得した後は、テスト用の配置を削除できます。

配置のチェックリスト



インストーラで[動作環境]リンクをクリックして、動作環境を確認します。ネットワーク、サーバ、クライアントコンピュータがこれらの動作環境を満たしていることを確認します。

配置のチェックリスト

- ☐ 購入したライセンスの種類の一般的なインストール手順を理解します。ネットワークライセンスの配置では、ライセンスサーバ名と、ライセンス購入時に指定されたライセンスサーバモデルの種類を知っておく必要があります。
- ☐ ネットワーク管理者ツールおよびユーティリティをインストールし、アクティブにします。たとえば、ネットワークライセンスを使用する場合は、インストーラから Network License Manager をインストールします。
- ☐ Windows 8 コンピュータの場合、Microsoft .NET 3.5 フレームワークのインストールが可能であること、または配置する前に手動で有効にできることを確認します。
- ☐ 製品のシリアル番号とプロダクトキーを確認します。これらは、製品パッケージの外側に記載されているか、オートデスクから製品をダウンロードまたはアップグレードした場合は電子メールに記載されています。
- ☐ 配置を格納するネットワークの場所を決め、配置を格納する共有フォルダを作成します。
- ☐ 製品に言語オプションがある場合は、各配置に使用する言語を決定します。

注: 言語は、最初に配置を作成するときや、新しい配置環境設定を作成するときに含めることはできますが、配置の修正時に含めることはできません。

- ☐ 個々のコンピュータ、配置フォルダ、またはその両方にログファイルを作成するかどうかを決定します。
- ☐ サイレントモードでインストールを実行するかどうかを決定します。

注: サイレントモードで製品をインストールすると、インストール完了時に警告が表示されずにユーザのシステムが自動的に再起動します。

- ☐ 定義された検索パス、サポートファイルの場所、Service Pack を自動的にインストールするかどうかなど、設定する環境設定オプションを確認します。

Windows 8 の .NET 3.5 サポートを確認する

一部のオートデスク製品は、Microsoft DirectX および Microsoft .NET Framework を必要とします。しかし、Windows 8 環境では、ローカル メディアから .NET 3.5 以前をインストールすることはできません。このため、Window Update で .NET Framework をインストールまたは有効にするには、インターネットへのアクセスが必要になります。

Autodesk インストーラで .NET 3.5 以前を Windows 8 にインストールできない場合は、次のメッセージが表示されます。

Windows コンポーネントをインストールするには、インターネット接続が必要です。インターネットに接続し、インストーラを再起動してください。

次の条件下では .NET はインストールできません。

- インターネットに接続できない。
- コンピュータが Windows Update ではなく Windows Server Update Services (WSUS)を使用するように設定されている。
- マイクロソフト セキュリティ アドバイザリ([2749655](#))の Windows 8 Update がインストールされていない。

これらの条件をどれか1つでも解決できない場合は、システム管理者またはユーザが手動で個々の Windows 8 コンピュータで .NET 3.5 を有効にしてから、Autodesk インストーラを起動する必要があります。詳細な手順については、次の [MSDN 記事](#)を参照してください。

インストールの種類を決定する

配置をセットアップするときに、適用先のプラットフォームごとにインストールの種類と、ライセンスの種類を選択する必要があります。

適用先のプラットフォーム

配置を使用するコンピュータのオペレーティング システムに応じて、32 ビットまたは 64 ビットプラットフォームを指定します。オートデスク製品の中には、64 ビットのオペレーティング システム上に 32 ビットバージョンをインストールできるものもあります。詳細は、各製品のドキュメントを参照してください。

ライセンスの種類

購入したライセンスの種類に基づいて、インストーラで次の種類のライセンスのいずれかを指定します。

ネットワーク ライセンス このタイプのライセンスでは、製品が 1 台または複数台のサーバの Network License Manager (NLM) と通信するうえで必要となるファイルおよびレジストリ エントリとともに、製品をネットワーク上のコンピュータにインストールします。NLM の環境設定も定義します。クライアント コンピュータでオートデスク製品を起動すると、NLM にライセンスを要求し、製品を停止するとライセンスを返却します。ネットワーク インストールで製品を実行するコンピュータは、個別にアクティベーションを行う必要はありません。

ネットワーク ライセンスの主な利点は、購入したライセンス数以上のシステムに製品をインストールできることです(たとえば、25 のライセンスを購入し、40 台のコンピュータにインストールできます)。製品は、購入したライセンス数分のコンピュータで同時に実行できるため、本格的なフローティング ライセンスとして使用できます。

スタンドアロン ライセンス このタイプのライセンスは、1 つのシリアル番号とプロダクト キーを使用して複数台のコンピュータに製品をインストールするマルチシート スタンドアロン インストールで使用します。このタイプのライセンスでは、製品ライセンスの管理に NLM を使用しません。代わりに、インストール、登録、アクティベーションは各コンピュータ上で行います。コンピュータで一度マルチシート スタンドアロンのシリアル番号とプロダクトキーのアクティベーションを行うと、その後はこの配置を使用して、インターネットに接続されているすべての他のコンピュータで自動的にアクティベーションが行われます。

ライセンス サーバ モデルを決定する

ネットワーク ライセンス オプションを選択する場合、製品ライセンスの配布に使用されるライセンス サーバ モデルを知っておく必要があります。モデルとして、ライセンスの購入時に次のいずれかを指定します。

- **シングル ライセンス サーバ モデル:** Network License Manager (NLM) が 1 台のサーバにインストールされるため、ライセンスの管理と動作は、このサーバに制限されます。1 つのライセンス ファイルに、サーバ上の使用可能なライセンスの合計数が記録されます。

- **分散ライセンス サーバ モデル:** ライセンスは複数のサーバに分散されます。サーバごとに、一意のライセンス ファイルが必要になります。分散ライセンス サーバを構築するには、分散サーバ プールの一部である各サーバ上で NLM を実行する必要があります。
- **冗長ライセンスサーバモデル:** 3 台のサーバが各ライセンスを認証できます。この環境設定を使用すると、少なくとも 2 台のサーバが稼動している限り、ライセンスの監視と発行が継続されます。3 台すべてのサーバ上で同じライセンス ファイルを使用し、それぞれのサーバ上で NLM を実行する必要があります。

詳細は、『[ライセンスガイド](#)』の「[ライセンス サーバ モデルとは](#) (70 ページ)」を参照してください。

個々の製品を環境設定する

配置を作成するときに、インストールするために選択した製品の既定の設定をそのまま使用することも、それらの設定を環境設定してカスタム配置を作成することもできます。異なる製品の環境設定の詳細は、『[インストレーションヘルプ](#)』の製品の補足に記述されています。それらの補足を確認し、配置で各製品に対する正しい設定を決定することをお勧めします。

製品の設定を環境設定するには、インストーラの[配置を作成]ページで、インストールする製品を選択していることを確認し、製品名をクリックします。環境設定パネルが開きます。

重要: 選択した環境設定は、配置からインストールされる製品のすべてのインスタンスに適用されます。配置を作成した後は、配置を修正することによってのみこれらの設定を変更できます。

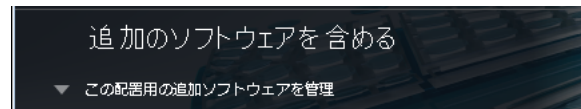
ほとんどの製品でインストレーションの種類を選択できます。最も一般的なオプションを選択する場合は[標準]を選択し、より詳細にオプションを検討する場合は[カスタム]を選択します。

一般的な製品のその他の設定のいくつかを次に示します。

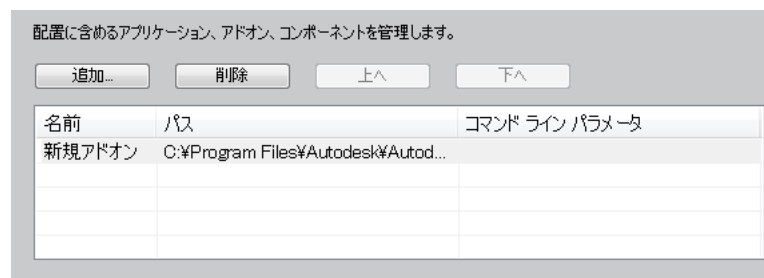
- 製品の動作に関するユーザ設定
- サポート ファイル(マテリアル ライブラリなど)のインストレーション
- オンライン リソースへのアクセス

追加のソフトウェアを含める

配置の作成時、インストーラの製品リストの末尾には、イメージに追加のソフトウェアを含めるためのオプションが表示されます。



このオプションを使用すると、言語パック、apps.exchange.autodesk.com から入手したコンテンツ、その他のサードパーティ製ソフトウェアを含めることができます。追加のソフトウェアは、自己解凍型の実行可能ファイル(.exe)または .msi 形式にパッケージ化する必要があります。このオプションは、Vault または他のオートデスク製品をインストールするためには使用できません。このオプションを選択した場合、テーブルを使用して追加のソフトウェアを管理します。



配置を作成する前に、すべての追加のソフトウェアを、わかりやすい 1 つの場所に格納します。配置にソフトウェアを追加するには、[追加]をクリックしてファイルの場所に移動し、ファイルをクリックします。ファイル名とパスが、管理テーブルに追加されます。テーブルに複数のファイルが含まれていると、ファイルを削除するボタンや、リスト内でファイルを上下に移動するボタンが使用できるようになります。テーブルのサイズがウィンドウより大きい場合は、水平および垂直スクロールバーが表示されます。

Service Pack を含める

ほとんどの製品には、配置に Service Pack を含めるオプションが用意されています。オートデスクの **Web** サイトから Service Pack をダウンロードしたり、ローカルハードドライブまたはネットワーク上の場所に保管されている Service

Pack を使用することができます。どちらの場合も、Service Pack は、メイン製品のインストール後に適用されます。

[**Autodesk.com** にある Service Pack を含める] ボタンを選択すると、Service Pack は自動的にダウンロードされます。MSP ファイルを展開する必要はありません。

Service Pack がローカルに保管されている場合にのみ、配置に複数の Service Pack を追加することができます。**autodesk.com** からダウンロードする場合、それはできません。

注: メイン製品の配置処理がキャンセルされたり失敗した場合、Service Pack のインストールは、自動的にキャンセルされます。

配置に Service Pack を含めるときに使用可能なオプションは、次の 2 つです。

- **Service Pack をこの配置に追加する:** Service Pack を追加すると、Service Pack は現在の配置にのみ適用されます。複数の Service Pack を 1 つの配置に追加できます。Service Pack ファイルは配置に含まれており、製品が配置されてから適用されます。
- **Service Pack を管理イメージの MSI ファイルに合成する:** このオプションを使用すると、Service Pack は管理イメージに合成されます。いったん合成すると、Service Pack を管理イメージから除去できなくなります。

Service Pack から Microsoft Installer Patch (MSP) ファイルを解凍するには

- 1 ご使用の製品のサポートサイトから Service Pack をダウンロードします。
- 2 Service Pack の **Readme** ファイルを読んで、パッチの使用に関する注意を確認します。
- 3 Windows のコマンド プロンプトを開き、パッチ ファイル名、/e スイッチ、ターゲットファイル名を入力します。次に一般的なコマンド形式を示します。

```
<ローカル_ドライブ:>¥<パッチ名>.exe /e <ローカル_ドライブ:>¥<パッチ名>.msp
```

次に例を示します。

```
C:¥ProductSP1.exe /e ./ProductSP1.msp
```

ここで、**ProductSP1.exe** はダウンロードしたパッチ ファイルの名前です。**ProductSP1.msp** は解凍されるファイルの名前です。解凍されるファイル名の前に "./" を付けることによって、ダウンロードした自己解凍形式

のパッチ ファイルと同じフォルダに解凍されます。"e" コマンド ライン スイッチは、実行形式から MSP ファイルを解凍します。

Service Pack を配置に含めるには

Service Pack を配置に含めるには、ダウンロードした Service Pack ファイルから MSP ファイルを展開する必要があります。

- 1 [Service Pack]領域で、[追加]ボタンをクリックします。
- 2 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、配置に含める Service Pack を検索します。
- 3 MSP ファイルを選択して[開く]をクリックします。
- 4 Service Pack を配置に追加するか、Service Pack を管理イメージに合成するかを指定します。
- 5 [次へ]をクリックします。

ネットワーク共有を作成する

配置を作成する準備が完全に整ったら、ネットワーク上の共有の場所からオートデスク製品のセットアップと配布の準備を行います。ネットワーク共有は、すべてのユーザのコンピュータがアクセスできるインストール用のフォルダです。ネットワーク共有に配置を作成し、プログラムのインストール用として、ユーザにこの場所を知らせます。ネットワーク共有フォルダ内のサブフォルダは、すべて自動的に共有フォルダになります。

重要: 配置フォルダを階層の深いサブフォルダに置くと、Windows オペレーティング システムのパスの長さ制限を超える危険性があります。

##serverXX#Deploymentsのように、ドライブのトップフォルダかその付近の場所に配置を置くことにより、この可能性を回避することができます。

ネットワーク ログ ファイルを作成するオプションを選択した場合、ユーザのコンピュータはインストール中にネットワーク共有内のログ ファイルに項目を書き出します。そのため、このオプションを選択した場合、ユーザがネットワーク共有に読み書きアクセスできるようにする必要があります。

配置作成プロセス中に、ネットワーク共有に配置フォルダを作成できます。同じ製品またはスイート製品の複数の配置を作成し、異なるユーザ グループ用に環境設定する場合、これらの配置は同じ管理イメージを共有でき、ショートカット

は同じフォルダに置くことができます。ただし、別の製品またはスイート製品の配置を作成する場合は、ネットワーク共有に別々の製品フォルダを作成してから、配置の作成を開始することをお勧めします。

ネットワーク共有の作成方法については、ご使用のオペレーティング システムのドキュメントを参照してください。

配置を作成する

インストーラから新しい配置を作成するには、次に示す手順を使用します。このプロセスでは、インストールされる各製品の既定の環境設定を受け入れて**既定の配置**を作成したり、配置内の 1 つまたは複数の製品の環境設定をカスタマイズして**カスタム配置**を作成できます。

配置を作成するには

- 1 コンピュータで実行中のアプリケーションをすべて閉じます。
- 2 インストーラを起動します。
- 3 最初のページで言語を選択できる場合は、配置プロセスで使用する言語を選択し、[配置を作成]をクリックします。
- 4 [配置を作成 > 環境設定<名前>]ページの**[管理イメージ]**領域で、次のデータを指定します。

- a ユーザ グループを識別する配置の名前、プラットフォーム、または他の配置と区別するその他の属性を入力します。
- b 管理イメージを作成して格納する共有ネットワーク フォルダへのパスを入力するか、[参照]ボタンを使用して指定します。

重要: 配置フォルダを階層の深いサブフォルダに置くと、Windows オペレーティング システムのパスの長さ制限を超える危険性があります。**¥¥serverXX¥Deployments** のように、ドライブのトップ フォルダかその付近の場所に配置を置くことにより、この可能性を回避することができます。

ユーザは、この場所からプログラムをインストールします。

- c 適用先のオペレーティング システムが 32 ビットか 64 ビットかを選択します。

- d この環境設定に必要な製品のみを含めるかどうかを指定します。
 - オンにすると、今後、配置を修正して追加の製品を含めることはできなくなります。
 - オフにすると、管理イメージにすべての製品を含めることができるようになるため、現在の配置を多少なりとも修正できるようになります。
- 5 **[インストール設定]**領域で、次の 1 つまたは複数のオプションをオンにします。
- **サイレントモード**はバックグラウンドでインストールが実行され、ユーザに入力を要求しません。

注: サイレントモードでは、インストール後に警告を表示せずに、ユーザのコンピュータを自動的に再起動できます。
 - **各ワークステーションのログ ファイル**で、ユーザはインストレーションを確認したり、問題を解決できるようになります。
 - サーバの場所の**ネットワーク ログ ファイル**で、ネットワーク管理者はすべてのインストレーションのデータを確認できるようになります。

注: ネットワーク ログ ファイルは、配置のユーザが読み書きアクセスできる共有フォルダに格納する必要があります。共有フォルダにない場合、ユーザのインストレーションのログ データはログ ファイルに書き出されません。
- 6 オートデスク ソフトウェア使用許諾契約を確認し、同意します。
- 7 [製品情報]ページで、ライセンスの種類を選択し、シリアル番号とプロダクトキーを入力します。このデータが有効な場合、緑のチェックマークが表示されます。
- 8 製品情報が正しいことを確認したら、[次へ]をクリックします。
- 9 [配置を作成] > [環境設定]で、配置に含める製品を選択します。
- 10 製品の環境設定が必要な場合は、製品名をクリックして環境設定パネルを開くと、設定を確認したり変更することができます。
- 重要:** 選択した環境設定は、配置からインストールされる製品のすべてのインスタンスに適用されます。配置を作成した後は、配置を修正することによってのみこれらの設定を変更できます。
- 環境設定の設定は、製品によって大きく異なります。詳細は、製品の「インストレーション ヘルプの補足」を参照してください。

- 11 [作成]をクリックして、配置を作成します。
配置が作成されると、[配置環境設定の完了]ページが開き、新しい配置へのパスと、製品をオンライン登録するためのリンクが表示されます。
- 12 この画面を使用し終わったら、[完了]をクリックします。

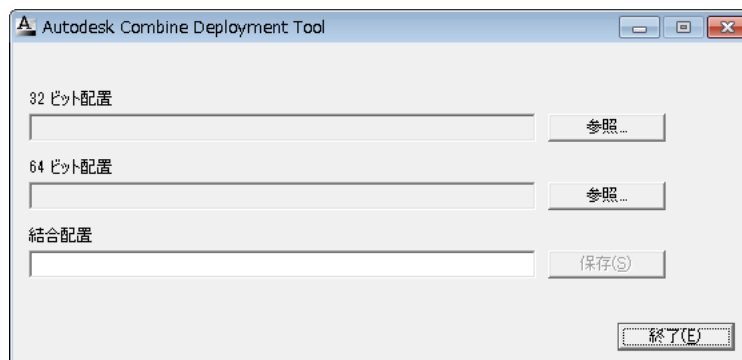
32 ビットと 64 ビットの結合配置を作成する

32 ビット コンピュータと 64 ビット コンピュータの両方を含むネットワーク上に製品を配置する場合、コンピュータの種類を検出して適切な配置を配布する結合配置の作成を検討してください。結合配置を作成する前に、まず 32 ビット配置と 64 ビット配置を個別に作成します。

重要: この手順を開始する前に、配置内のすべての製品が 32 ビット オペレーティング システムをサポートしていることを確認します。

結合配置を作成するには

- 1 製品のインストーラで 32 ビット配置と 64 ビット配置を個別に作成し、同じ配置フォルダに格納します。配置名に '32' または '64' のいずれかを含め、種類を明確に示します。
- 2 配置の[Tools]フォルダで、**CombineDeploy.exe** ツールをダブル クリックします。



- 3 ツールのパネルで、32 ビット配置と 64 ビット配置を指定し、結合配置にわかりやすい名前を入力します。

結合配置は、32 ビットおよび 64 ビット配置と同じフォルダに保存されます。

配置を修正する

各配置フォルダ内には[配置を作成または修正]というショートカット(.LNK ファイル)を含む Tools フォルダがあります。このショートカットを使用して次のことが行えます。

- 新しい配置環境設定を作成する
- 既存の配置をテンプレートとして使用して新しい配置環境設定を作成する
- 既存の配置環境設定を修正する

新しい配置を作成するときと同様に、インストーラの各ページで、環境設定を行います。配置環境設定で、元の管理イメージが、必要な製品のみを含めるように設定されている場合、配置の作成または修正が制限されます。特に、元の管理イメージに含まれない製品を配置に追加することはできません。逆に、元の管理イメージが、必要な製品のみを含めるように設定されていなければ、すべての製品のファイルが元の管理イメージに含まれています。その結果、この配置を修正したり、新しい配置環境設定を作成するときに、製品を追加できます。

配置を修正するには

- 1 配置が格納されている共有ネットワーク フォルダを開きます。
- 2 Tools フォルダで、[配置を作成または修正]ショートカットをダブルクリックします。
インストーラの[配置を修正]ページが表示されます。
- 3 配置環境設定の各ページで、必要なオプションをクリックして選択します。
- 4 [作成]ボタンをクリックします。

ユーザに管理イメージを通知する

配置の作成を終了すると、ユーザは、管理イメージと一緒に配置フォルダに格納されているショートカット(.LNK ファイル)を使用して、プログラムをインストールできるようになります。ショートカットの名前は、配置の作成時に指定した配置の名前と同じです。ユーザにショートカットの名前と場所を通知します。ショー

トカットをダブルクリックしてインストレーションを開始するようユーザに指示します。 配置がサイレント モードを使用している場合、製品のインストール後にユーザのコンピュータが自動的に再起動するので、インストール中は他のアプリケーションを終了しておくようユーザに助言します。

配置された製品をアンインストールする

それぞれの配置にはバッチ ファイルが含まれており、それを使用して配置内の一部またはすべての製品を自動的にアンインストールすることができます。そのファイルに加えて、ユーザの使用に合わせてバッチ ファイルをカスタマイズする方法が記載されたテキスト ドキュメントがあります。そのファイルは **<配置名>¥SMS_SCCM scripts** フォルダにあり、ファイル名は次のとおりです。

- **<配置名>_Uninstall.txt**
- **Product_Uninstall_ReadMe.txt**

簡単に説明すると、.TXT ファイルを ANSI エンコードの .BAT ファイルに変換し、次にいくつかの行のコメントを解除し、アンインストールする各製品のコマンド行 `::call :funcUninstall` の先頭の文字 `::` を削除します。

代替配布法

配置方法の概要

標準の配置のほかに、次に示す別の方法を使用して Windows プラットフォーム上にオートデスク プログラムを配布できます。

- バッチ ファイル
- グループ ポリシー オブジェクト(GPOs)
- Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM)
- ディスク イメージ作成ソフトウェア

それぞれの方法については、このガイドの個別のトピック セットで説明されています。

- [配置のバッチ ファイル](#) (28 ページ)
- [配置のグループ ポリシー](#) (31 ページ)

- [配置の Microsoft SCCM \(37 ページ\)](#)
- [配置のディスク イメージ作成ソフトウェア \(44 ページ\)](#)

配置のバッチ ファイル

バッチ ファイルは、1 セットのコマンドを実行します。インストレーション バッチ ファイルは、ネットワークに接続されているコンピュータへのスタンドアロンまたはネットワーク ライセンス プログラムのインストールに便利です。このようなファイルは、Service Pack、Extensions、Object Enabler をネットワークにインストールする場合にも便利です。

バッチ ファイルは、1 つまたは複数のコマンド、オプションを指定するコマンド スイッチ、オプションを変更するフラグで構成されています。インストレーション スクリプトにはパス名も含まれます。

インストレーション スクリプトは、製品の **setup.exe** ファイルの場所を指定します。必ず、インストレーション メディアまたはネットワーク上の場所の **setup.exe** を指定してください。

オートデスク製品を正しく実行するには、プログラムがインストールされるコンピュータの管理者権限を持っている必要があります。

サンプル インストレーション バッチ ファイル

このセクションのサンプル バッチ ファイルは、スタンドアロンまたはネットワーク ライセンス バージョンの AutoCAD を標準設定でインストールします。このサンプル バッチ ファイルをコピーして、パーソナル情報に書き換えやすくするために、変数には一貫して同じ名前が使用されています。

注:

<mediaDriveLetter> は、メディアがセットされているまたは **setup.exe** ファイルが格納されているドライブを表す文字です。

ここで使用されるインストール オプションは、/t (セットアップはスクリプトによって実行される) および /qb (標準的なユーザ インタフェースを表示) などです。その他は、Microsoft Msiexec コマンド ラインに対しては /w (非フェイタル警告をログ) が定義され、MS TechNet Web サイトで文書化されるなどです。

<SerialPrefix> は、シリアル番号の最初の 3 桁です。

<SerialPostFix> は、シリアル番号の最後の 8 桁です。

<ProdKey> はプロダクト キーです。

<lang> は、IETF 言語タグです(例: 英語 - アメリカ合衆国の場合は en-US) 。

<eula_lang> は、国名の ISO 3166-1 alpha-2 標準です(例: アメリカ合衆国の場合は US)。

スタンドアロン ライセンス

```
<mediaDriveLetter>%setup.exe /t /qb /language <lang> /c
ACAD: INSTALLDIR="%programFiles%\Autodesk\AutoCAD 2014"
ACADSERIALPREFIX=<SerialPrefix>ACADSERIALNUMBER=<SerialPostfix>
```

```
ADLM_PRODKEY=<ProdKey> ADLM_EULA_COUNTRY=<eula_lang>
InstallLevel=5
```

Example:

```
C:%setup.exe /t /qb /language en-us /c
ACAD: INSTALLDIR="%programFiles%\Autodesk\AutoCAD 2014"
ACADSERIALPREFIX=123 ACADSERIALNUMBER=12345678
ADLM_PRODKEY=001E1 ADLM_EULA_COUNTRY=US InstallLevel=5
```

シングル ネットワーク ライセンス

```
<mediaDriveLetter>%setup.exe /t /qb /language <lang> /c
ACAD: INSTALLDIR="%programFiles%\Autodesk\AutoCAD 2014"
ACADSERIALPREFIX=<SerialPrefix>ACADSERIALNUMBER=<SerialPostfix>
```

```
ADLM_PRODKEY=<ProdKey> ADLM_EULA_COUNTRY=<eula_lang>
InstallLevel=5
ACADSTANDALONENETWORKTYPE="3" ACADLICENSESERVERTYPE="Single
Server License"
ACADLICENSETYPE="Network License"
ACADSERVERPATH="<FlexLicenseServer> 000000000000"
```

注:

ネットワーク ライセンスの場合、ACADSTANDALONENETWORKTYPE によってインストール中のライセンスのタイプが識別されます。これには、ネットワークとスタンドアロンの両方の場合の 0、スタンドアロンの場合の 1、ネットワークの場合の 3 の 3 つの値があります。

<FlexLicenseServer> は、ネットワーク ライセンス サーバです。

分散ネットワーク ライセンス

```
<mediaDriveLetter>%setup.exe /t /qb /language <lang> /c
ACAD: INSTALLDIR="%programFiles%\Autodesk\AutoCAD 2014"
ACADSERIALPREFIX=<SerialPrefix>ACADSERIALNUMBER=<SerialPostfix>

ADLM_PRODKEY=<ProdKey> ADLM_EULA_COUNTRY=<eula_lang>
InstallLevel=5
ACADSTANDALONENETWORKTYPE="3"
ACAD_LICENSESERVER_DISTRIBUTED="1"
ACADLICENSESERVERTYPE="Distributed Server License"
ACADLICENSETYPE="Network License"
ACADSERVERPATH="@<server1>;@<server2>;@<server3>;"
```

注:

<server1> から <serverN> まだが、有効なネットワーク ライセンス サーバです。

冗長ネットワーク ライセンス

```
<mediaDriveLetter>%setup.exe /t /qb /language <lang> /c
ACAD: INSTALLDIR="%programFiles%\Autodesk\AutoCAD 2014"
ACADSERIALPREFIX=<SerialPrefix>ACADSERIALNUMBER=<SerialPostfix>

ADLM_PRODKEY=<ProdKey> ADLM_EULA_COUNTRY=<eula_lang>
InstallLevel=5
ACADSTANDALONENETWORKTYPE="3"
ACADLICENSESERVERTYPE="Redundant Server License"
ACADLICENSETYPE="Network License"
ACADSERVERPATH="<server1> 000000000000 27005;<server2>
000000000000 27005;<server3> 000000000000 27005;"
```

注:

<server1> から <server3> まだが、冗長ライセンスを持つ有効なネットワーク ライセンス サーバです。

バッチ ファイルを実行する

バッチ ファイルを作成した後、ファイルをサーバ、ドライブ文字が割り当てられたネットワークドライブ、UNC(universal naming convention)パスのいずれかに移動します。バッチ ファイルをユーザが実行するためにサーバ上に配置する場合は、サーバに共有フォルダを作成します。次に、ユーザに適切な権限を与えて、ネットワーク共有にユーザを追加します。バッチ ファイルを実行するだけのユーザには、共有フォルダに対する読み取りアクセス権が必要です。

次に、サーバの他の場所に、インストールする各製品のフォルダを作成します。製品メディアからこのフォルダにインストールファイルのコピーします。Service Pack(Update)、拡張機能(Subscription Advantage Pack)、独自のカスタマイズ ツールなどのフォルダも必要に応じて作成します。

次のいずれかの方法を使用して、インストール バッチ ファイルを実行します。

- 個々のコンピュータで、バッチ ファイルを手動で実行します。インストールを実行するために、[ファイル名を指定して実行]ダイアログ ボックスにバッチ ファイル名を貼り付けるか、Windows コマンド プロンプトでバッチ ファイルを実行します。
- バッチ ファイルを実行する各ユーザに、UNC パスと必要な指示を記載した電子メールを送信します。
- 各ユーザにバッチ ファイルと使用方法を電子メールで送ります。
- バッチ ファイルをログイン時に実行するようにセットアップします。

配置のグループ ポリシー

グループ ポリシーを使用して、特定のコンピュータに配置を割り当てることで、プログラムをアドバタイズおよびインストールできます。通常、複数のユーザが共有するコンピュータに配置を割り当てます。コンピュータに割り当てられた配置は、そのコンピュータの任意のユーザが使用できます。

注: オートデスク製品は、コンピュータにインストールされ、そのコンピュータにログオンした任意のユーザが製品を実行できるように設計されています。配置をコンピュータにではなく、特定のユーザに割り当てた場合、2人目のユーザがプログラムをインストールまたはアンインストールしようとする、問題が発生することがあります。

グループ ポリシー使用の長所と短所の概要を次に示します。

長所

- 配置機能と一緒に動作します。
- 配置にカスタム ファイルを追加できます。
- ユーザに配置するのではなく、コンピュータに配置します。

短所

- MSI 実行ファイルにコマンドライン パラメータを渡すことができません。代わりに、スクリプトを使用する必要があります。
- 配置を作成するときに設定した内容以外に、アプリケーションの設定をカスタマイズすることはできません。

通常、オートデスク製品には、オートデスク製品をサポートするためにコンピュータにインストールしなければならないソフトウェア要件があります。特に、Microsoft .NET Framework 4.0、Fusion、Fusion plug-in は、グループ ポリシーを使用する前にインストールしなければなりません。製品を配布する前に、各製品の「動作環境」を検討し、プログラムをインストールするコンピュータにそれらがインストールされていることを確認します。

グループ ポリシーを使用するプログラムの配布には、次の 3 つの主要な段階があります。

- 1 **アプリケーション配布ポイント(管理イメージ)を作成します。** アプリケーション配布ポイントは、配置の作成時に作成されます。
- 2 **コンピュータに配置を割り当てます。** 詳細は、「[グループポリシーを使用してコンピュータに配置を割り当てる](#) (33 ページ)」を参照してください。
- 3 **インストレーションを確認します。** プログラムが正しくインストールされているか確認します。詳細は、「[グループ ポリシー配置を確認する](#) (36 ページ)」を参照してください。

グループポリシーを使用してコンピュータに配置を割り当てる

グループ ポリシー管理コンソール(GPMC)がインストールされていて、Active Directory サーバにアクセスできる Windows 7 または 8 コンピュータ、Windows 2003、2008、または 2012 サーバから、次の手順を実行します。

注: 詳細は、[Microsoft TechNet](#) で "Group Policy Management Console" を検索してください。

配置をコンピュータに割り当てるには

- 1 グループ ポリシー管理コンソール(*gpmc.msc*)を開始します。
- 2 グループ ポリシー オブジェクト(GPO)を作成する組織単位を右クリックします。次に、[GPO の作成およびリンク]を選択し、グループ ポリシーの名前を指定します。
- 3 ポリシーを編集します。
- 4 [グループ ポリシー オブジェクト エディタ]ダイアログ ボックスの[ソフトウェアの設定]ノードで、[ソフトウェア インストール]を右クリックし、[新規作成] ➤ [パッケージ]を選択します。
- 5 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、配置プロセスで作成した管理イメージの場所に移動します。 *Img*<プロセッサの種類><製品名フォルダ>を指定します。プロセッサの種類は、配置で作成したプロセッサの種類に応じて、x86 か x64 のどちらかです。

例

x86 配置の場合:

*server123Deployment\Img*x86<製品名>

x64 配置の場合:

*server123Deployment\Img*x64<製品名>

- 6 <製品名>-<配置名>.msi という名前の MSI (Windows インストーラ パッケージ)ファイルを選択します。[開く]をクリックします。

製品が AutoCAD で配置の名前が "Design 2014 64 bit" の場合、配置の MSI ファイルの名前は、**acad-Design 2014 64 bit.msi** となります。

- 7 [ソフトウェアの展開]ダイアログ ボックスで、[詳細設定]を選択し、[OK]をクリックします。
- 8 [プロパティ]ダイアログ ボックスの[変更]タブで、[追加]をクリックします。
- 9 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、<製品名>-<配置名>.mst という名前の転送パッケージ ファイルを選択します。[開く]をクリックします。
- 10 [プロパティ]ダイアログ ボックスの[変更]タブで、[追加]をクリックします。
- 11 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、<deployment location>%Tools に移動し、**gpo.mst** という名前の Transform Package ファイルを選択します。
- 12 [OK]をクリックし、パッケージを完成させます。

Language Pack を追加する

製品が Language Pack(言語パック)を使用する場合、パッケージに言語パックを追加する必要があります。

Language Pack(言語パック)を追加するには

- 1 [グループ ポリシー オブジェクト エディタ]ダイアログ ボックスの、[ソフトウェアの設定]の下で、同じオブジェクトに対して[ソフトウェア インストール]を右クリックし、[新規作成] ► [パッケージ]をクリックします。
- 2 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、配置の作成時に指定した管理イメージの場所に移動します。Img%<プロセッサの種類>%<地域>%<製品名>%<製品名>lp.msi を選択します。[開く]をクリックします。
<地域> は、たとえば日本語には **ja-jp** を使用します。

例

x86 配置の場合: %server123%Deployment%Img%x86%ja-jp%<製品名>

x64 配置の場合: %server123%Deployment%Img%x64%ja-jp%<製品名>

- 3 [ソフトウェアの展開]ダイアログ ボックスで、[詳細設定]を選択し、[OK]をクリックします。

- 4 [<製品名>のプロパティ]ダイアログ ボックスの[変更]タブで、[追加]をクリックします。
- 5 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、*Img*<プロセッサの種類>*acad*にある <製品名>-<配置名>.mst という名前の転送パッケージ ファイルを選択します。[開く]をクリックします。
- 6 [<製品名>のプロパティ]ダイアログ ボックスの[変更]タブで、[追加]をクリックします。
- 7 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、<deployment location>*Tools* に移動し、**gpo.mst** という名前の Transform Package ファイルを選択します。
- 8 [OK]をクリックし、パッケージを完成させます。

製品固有のパッケージを追加するには

- 1 [グループ ポリシー オブジェクト エディタ]ダイアログ ボックスの、[ソフトウェアの設定]の下で、同じオブジェクトに対して[ソフトウェア インストール]を右クリックし、[新規作成] ► [パッケージ]をクリックします。
- 2 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、配置の作成時に指定した管理イメージの場所に移動します。*Img*<プロセッサの種類><地域><製品名>*ps.msi* を選択します。[開く]をクリックします。

次の例で使用されている <地域> は、日本語を表す *ja-jp* です。

例

x86 配置の場合: *server123DeploymentImgx86ja-jp<製品名>*

x64 配置の場合: *server123DeploymentImgx64ja-jp<製品名>*

- 3 [ソフトウェアの展開]ダイアログ ボックスで、[詳細設定]を選択し、[OK]をクリックします。
- 4 [<製品名>のプロパティ]ダイアログ ボックスの[変更]タブで、[追加]をクリックします。
- 5 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、*Img*<プロセッサの種類><製品名>にある *acad*-<配置名>.mst という名前の転送パッケージ ファイルを選択します。[開く]をクリックします。
- 6 [<製品名>のプロパティ]ダイアログ ボックスの[変更]タブで、[追加]をクリックします。

- 7 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、<deployment location>\Tools に移動し、***gpo.mst*** という名前の Transform Package ファイルを選択します。
- 8 [OK]をクリックし、パッケージを完成させます。

これで、作成した GPO の組織単位のメンバーになっているすべてのコンピュータに、GPO が割り当てられました。組織単位内のコンピュータを次に再起動すると、プログラムがインストールされ、コンピュータのすべてのユーザが使用可能になります。グループ ポリシーが正しく作成されたことを確認するには、「[グループ ポリシー配置を確認する](#) (36 ページ)」を参照してください。

グループ ポリシー配置を確認する

この配置が正しくコンピュータに割り当てられたことを確認するには、作成したグループ ポリシーの組織単位に含まれるコンピュータを再起動します。ログオン プロンプトが表示される前に、プログラムのインストールが開始されます。オペレーティング システムによって、グループ ポリシー メッセージが表示されます。これには、管理ソフトウェアのインストールを示すメッセージも含まれます。

インストールを終了し、プログラムを開始するには、ログオン後、デスクトップに表示されているプログラム アイコンをダブルクリックします。

注: 問題が発生した場合は、[イベント ビューア]の[アプリケーション]にイベントが記録されます。

Revit Interoperability を配置するための GPO の要件

以下の説明は、Revit Interoperability コンポーネントを、3ds Max、3ds Max Design、Inventor、または Showcase と一緒にグループ ポリシー オブジェクト (GPO)配置を行う場合に該当します。製品固有の MSI ファイルは次のとおりです。

- ***RXM2014.msi*** (3ds Max または 3ds Max Design 用)
- ***RXI2014.msi*** (Inventor 用)
- ***RXS2014.msi*** (Showcase 用)

メイン GPO トランスフォーム ファイル(**gpo.mst**)以外に、Revit Interoperability コンポーネントを含む配置には、次のいずれかの製品固有のトランスフォーム ファイルを含める必要があります。

- **RXM2014.mst** (3ds Max または 3ds Max Design 用)
- **RXI2014.mst** (Inventor 用)
- **RXS2014.mst** (Showcase 用)

これらの MST ファイルは、**¥Img¥<プロセッサの種類>¥RX2014** フォルダにあります。

配置が製品を既定のパス(**C:¥Program Files¥Autodesk**)にインストールしない場合は、Orca (Windows SDK で使用可能)などのツールを使用して、プロパティ テーブルの INSTALLDIR プロパティを変換する必要があります。

INSTALLDIR プロパティを変更するには:

- 1 Orca を実行し、お使いの製品(たとえば、Inventor 用 RXI2014.msi)の Revit Interoperability MSI ファイルを開きます。
- 2 [Transform]メニュー ➤ [New Transform]を選択します。Orca は、インストール テーブルのセルに対して行われたすべての変更を追跡します。
- 3 左ペインで選択した[Property]テーブルで、[Tables] ➤ [Add Row]をクリックします。
- 4 [Property]テーブルに INSTALLDIR 行を追加し、インストール パスを入力します。パスの末尾には、円記号(¥)が必要です(例: C:¥Inventor¥)。
- 5 [Transform] ➤ [Generate Transform]を選択し、MST ファイルを保存します。
- 6 **gpo.mst** および Revit Interoperability MSI 用トランスフォーム ファイルに加え、この MST ファイルを含めます。

配置の Microsoft SCCM

Microsoft System Center Configuration Manager(SCCM)を使用すると、選択した適用先システムへのソフトウェアの配布を、リモート処理で管理できます。このトピックの詳細は、[Microsoft TechNet](#) で "System Center Configuration Manager" を検索してください。

各配置には <配置名>**SMS_SCCM scripts** フォルダが含まれ、このフォルダには SCCM を使用しての配置や製品のアンインストールに役立つ次の 4 つのドキュメントが含まれています。

- **SMS_SCCM_ReadMe.docx**
- <配置名>_SCCM.txt
- **Product_Uninstall_Readme.txt**
- <配置名>_Uninstall.txt

詳細は、「[配置された製品を SCCM を使用してアンインストールする](#) (42 ページ)」を参照してください。

注: SCCM を使用してオートデスク製品を配布する前に、それぞれの配布先コンピュータに、Microsoft .NET Framework 4.0 がインストールされている必要があります。製品によっては、SCCM 配置でインストールできる .NET 4.5 が必要です。

SCCM を使用してオートデスク製品を配置するには

- 1 ソフトウェアパッケージを受け取るターゲットコンピュータのコレクションを特定するか作成します。
- 2 インストーラの[配置を作成]プロセスを使用して、ソース フォルダを作成します。詳細は、「[SCCM のソース フォルダをセットアップする](#) (38 ページ)」を参照してください。
- 3 SCCM パッケージを作成してターゲットシステムに配置し、ソフトウェアパッケージが使用可能であることをユーザに通知します。詳細は、「[SCCM ソフトウェア配布パッケージを作成する](#) (39 ページ)」を参照してください。

SCCM のソース フォルダをセットアップする

オートデスク製品の配置に SCCM を使用するときは、インストーラの[配置を作成]プロセスを使用してソース フォルダをセットアップします。

[配置を作成]プロセスにより管理イメージが作成され、SCCM はこの管理イメージを使用して、オートデスク製品を目的のコンピュータに配布します。管理イメージの場所が、パッケージ ソース フォルダです。

オートデスク ソフトウェアの配置とソース フォルダの設定の詳細は、「[概要 - 配置 \(14 ページ\)](#)」を参照してください。

注: SCCMを環境設定して製品を配置する前に、配置をテストし、製品が正常にインストールできるか確認することをお勧めします。

配置をテストするには

- 1 管理者権限を持つユーザとして、Windows コンピュータにログオンします。
- 2 管理イメージが作成されたソース フォルダに移動します。
- 3 配置プロセスによって作成された配置のショートカットをダブルクリックします。

プログラムがインストールされるか、エラー情報が %temp% のログ ファイルに書き出されます。

SCCM ソフトウェア配布パッケージを作成する

配置プロセスを使用してソース フォルダを作成した後、SCCM ソフトウェア配布パッケージを作成します。SCCM パッケージには、ソフトウェアを配布したり、ユーザにパッケージをアドバタイズするためのファイルと命令が含まれます。配置プロセスで独自のファイルと命令が作成されますが、SCCM は、SCCM の配布用ファイルを使用するように環境設定する必要があります。

SCCM を使用してソフトウェア配布パッケージを作成するには

- 1 [スタート]メニュー ➤ [プログラム]または[すべてのプログラム] ➤ [Microsoft System Center] ➤ [Configuration Manager 2007] ➤ [ConfigMgr Console]を選択します。
- 2 [Configuration Manager Console]ウィンドウで、[Software Distribution]を展開します。
- 3 [Packages]を右クリック ➤ [Distribute] ➤ [Software]を選択します。
- 4 [Distribute Software]ウィザードで、[Next]をクリックします。
- 5 [Package]ダイアログ ボックスで、[Create a New Package and Program without a Definition File]を選択します。[Next]をクリックします。

- 6 [Package Identification]ダイアログ ボックスで、名前、バージョン、配布者、言語、任意のコメントなどの情報を入力します。[Next]をクリックします。
- 7 [Source Files]ダイアログ ボックスで、SCCM がファイルを取得する場所と、それらの管理方法を選択します。[Always Obtain Files from a Source Directory]を選択します。[Next]をクリックします。
- 8 [Source Directory]ダイアログ ボックスで、ソース フォルダの場所を指定します。[Next]をクリックします。
- 9 [Distribution Points]ダイアログ ボックスで、配布ポイントを選択します。これは、ターゲット コンピュータに配置するソフトウェア パッケージの場所です。[Next]をクリックします。
- 10 [Program Identification]ダイアログ ボックスで、プログラムの名前を入力します。この名前は、[コントロール パネル]の[プログラムの追加と削除]に表示されます。[Command Line]フィールドに、**.\\img%setup.exe /W /Q /I .\\img%<配置名>.ini /language ja-jp** と入力します。たとえば、配置名が Adsk-2014 の場合、**.\\img%setup.exe /W /Q /I .\\img%Adsk-2014.ini /language ja-jp** と入力します。[Next]をクリックします。

注: この例では、インストールする言語パックは日本語(JA Japanese)です。/W は SMS および SCCM のフラグ、/Q はサイレントインストール、/I は配置インストレーションを示します。

- 11 [Program Properties]ダイアログ ボックスの[Program Can Run]ドロップダウンリストで、プログラムのインストール方法を選択します。次のいずれかを選択します。
 - Only When a User is Logged On
 - Whether or Not a User is Logged On
 - Only When No User is Logged On
- 12 [After Running]ドロップダウン リストで、プログラムがインストールされた後に必要な動作を選択します。次のいずれかを選択します。
 - No Action Required
 - Program Restarts Computer
 - ConfigMgr Restarts Computer
 - ConfigMgr Logs User Off

注: 一部の製品は、インストール後にシステムを再起動する必要があります。

[Next]をクリックします。

- 13 [Advertise Program]ダイアログ ボックスで、[Yes]を選択してプログラムをユーザにアドバタイズします。[Next]をクリックします。
 - 14 [Select a Program to Advertise]ダイアログ ボックスで、アドバタイズするパッケージを選択します。[Next]をクリックします。
 - 15 [Select Program] ► [Advertisement Target]ダイアログ ボックスで、アドバタイズするユーザのコレクションを選択するか、新しいコレクションを作成します。
 - 16 [Select Program] ► [Advertisement Name]ダイアログ ボックスで、アドバタイズの名前を入力、または変更します。アドバタイズを説明するための任意のコメントを記入します。[Next]をクリックします。
 - 17 [Select Program] ► [Advertisement Subcollection]ダイアログ ボックスで、次のオプションのいずれかを選択します。
 - Advertise this Program to an Existing Collection
 - Create a New Collection and Advertise this Program to It
 - 18 [Next]をクリックします。
 - 19 [Select Program] ► [Advertisement Schedule]ダイアログ ボックスで、必要に応じて、指定した日時にプログラムをアドバタイズするオプションを設定したり、期限を設定します。[Next]をクリックします。
 - 20 [Select Program] ► [Assign Program]ダイアログ ボックスで、次のオプションのいずれかを選択します。
 - インストレーションプロセスが必須の場合は、[Yes, Assign the Program]を選択します。
 - インストレーションプロセスが省略可能な場合は、[No, Do Not Assign the Program]を選択します。
- [Next]をクリックします。
- 21 [Summary]ダイアログ ボックスで、アドバタイズ情報を確認します。訂正するには、[Back]ボタンを使用します。[Next]をクリックして完了します。

配置された製品を SCCM を使用してアンインストールする

次の操作手順を行う前に、<配置名>***SMS_SCCM scripts** フォルダに移動し、**Product_Uninstall_Readme.txt** ファイルの説明に従って ANSI エンコードのアンインストール バッチ ファイルを作成します。次の操作手順では、作成したバッチ ファイル <配置名>**_Uninstall.bat** を使用します。

SCCM を使用してソフトウェア アンインストール パッケージを作成するには

- 1 [スタート]メニュー ➤ [プログラム]または[すべてのプログラム] ➤ [Microsoft System Center] ➤ [Configuration Manager 2007] ➤ [ConfigMgr Console]を選択します。
- 2 [Configuration Manager Console]ウィンドウで、[Software Distribution]を展開します。
- 3 [Packages]を右クリック ➤ [Distribute] ➤ [Software]を選択します。
- 4 [Distribute Software]ウィザードで、[Next]をクリックします。
- 5 [Package]ダイアログ ボックスで、[Create a New Package and Program without a Definition File]を選択します。[Next]をクリックします。
- 6 [Package Identification]ダイアログ ボックスで、名前、バージョン、配布者、言語、任意のコメントなどの情報を入力します。[Next]をクリックします。
- 7 [Source Files]ダイアログ ボックスで、SCCM がバッチ ファイル(<配置名>**_Uninstall.bat**)を取得する場所と、その管理方法を選択します。[Always Obtain Files from a Source Directory]を選択します。[Next]をクリックします。
- 8 [Source Directory]ダイアログ ボックスで、ソース フォルダの場所を指定します。[Next]をクリックします。
- 9 [Distribution Points]ダイアログ ボックスで、配布ポイントを選択します。これは、ターゲット コンピュータに配置するソフトウェア パッケージの場所です。[Next]をクリックします。
- 10 [Program Identification]ダイアログ ボックスで、プログラムの名前を入力します。これは、[コントロール パネル]の[プログラムの追加と削除]に表示される名前です。[Command Line]フィールドに、***<配置名>_Uninstall.bat** と入力します。[Next]をクリックします。

- 11 [Program Properties]ダイアログ ボックスの[Program Can Run]ドロップダウンリストで、プログラムの実行方法を選択します。次のいずれかを選択します。
- Only When a User is Logged On
 - Whether or Not a User is Logged On
 - Only When No User is Logged On
- 12 [After Running]ドロップダウン リストで、プログラムが実行された後に必要な動作を選択します。次のいずれかを選択します。
- No Action Required
 - Program Restarts Computer
 - ConfigMgr Restarts Computer
 - ConfigMgr Logs User Off

注: 一部の製品は、実行後にシステムを再起動する必要があります。

[Next]をクリックします。

- 13 [Advertise Program]ダイアログ ボックスで、[Yes]を選択してプログラムをユーザにアドバタイズします。[Next]をクリックします。
- 14 [Select a Program to Advertise]ダイアログ ボックスで、アドバタイズするパッケージを選択します。[Next]をクリックします。
- 15 [Select Program] ➤ [Advertisement Target]ダイアログ ボックスで、アドバタイズするユーザのコレクションを選択するか、新しいコレクションを作成します。
- 16 [Select Program] ➤ [Advertisement Name]ダイアログ ボックスで、アドバタイズの名前を入力、または変更します。アドバタイズを説明するための任意のコメントを記入します。[Next]をクリックします。
- 17 [Select Program] ➤ [Advertisement Subcollection]ダイアログ ボックスで、次のオプションのいずれかを選択します。
- Advertise this Program to an Existing Collection
 - Create a New Collection and Advertise this Program to It
- 18 [Next]をクリックします。
- 19 [Select Program] ➤ [Advertisement Schedule]ダイアログ ボックスで、必要に応じて、指定した日時にプログラムをアドバタイズするオプションを設定したり、期限を設定します。[Next]をクリックします。

- 20 [Select Program] ► [Assign Program]ダイアログ ボックスで、次のオプションのいずれかを選択します。
- インストレーション プロセスが必須の場合は、[Yes, Assign the Program]を選択します。
 - インストレーション プロセスが省略可能な場合は、[No, Do Not Assign the Program]を選択します。
- [Next]をクリックします。
- 21 [Summary]ダイアログ ボックスで、アドバタイズ情報を確認します。訂正するには、[Back]ボタンを使用します。[Next]をクリックして完了します。

配置用にソフトウェアのディスクイメージを作成する

Norton™ Ghost™ などのディスク イメージ作成ソフトウェアを使用してマスター イメージを作成し、オートデスク製品を配布できます。マスター イメージを作成したら、ユーザの責任で他のコンピュータに移し替えることができます。

重要: オートデスクは、ディスク イメージ作成ソフトウェアを使用した製品の配布をお勧めしません(サポートの対象ではありません)。しかし、この方法で配布を予定している場合は、以下の説明を注意深くお読みください。

ディスク イメージ作成ソフトウェアを使用すると、製品のライセンスに矛盾が生じたり、インストールが不完全に終了したり、アクティベーションで問題が発生することがあります。

注: SATA RAID 環境でライセンスが不安定になったことがある場合、ディスク イメージ作成ソフトウェアを使用してオートデスク製品を配布すると、製品をアクティベーションするときに、たとえば「アクティベーション コードが制限を超える」という問題が発生する可能性があります。

マルチシート スタンドアロン製品を配布する

マスター イメージを使用してマルチシート スタンドアロン製品を複数のコンピュータに配布できます。

注: Norton Ghost を使用する場合は、**-ib** スイッチを使用して、作成するマスター イメージにブート セクタを含める必要があります。ブート セクタをマスター イメージの一部に含める方法についての詳細は、ご使用のディスク イメージ作成ソフトウェアを参照してください。

マスター コンピュータで一度でもオートデスク製品を実行した場合は、マスター イメージを作成しないでください。システムのクリーンアップが必要です。詳細は、「[マスター コンピュータをクリーンアップしてオペレーティング システムを復元する](#) (46 ページ)」を参照してください。

マスター イメージを使用して、マルチシート スタンドアロン製品を複数のコンピュータに配布するには

- 1 マルチシート スタンドアロン製品に対するネットワーク配置を作成します。詳細は、「[配置を作成する](#) (23 ページ)」を参照してください。
- 2 配置からマスター コンピュータにオートデスク製品をインストールします。
- 3 マスター コンピュータで、ブート セクタを含むマスター イメージを作成します。製品を配布する前に、マスター コンピュータ以外のコンピュータで製品をテストします。他のコンピュータで製品を起動し、次に登録とアクティベーションを行います。製品には登録およびアクティベーションまでの試用期間が設けられています。
- 4 マスター イメージを目標のコンピュータに適用します。

ネットワーク ライセンス製品を配布する

マスター イメージを使用して、ネットワーク ライセンス製品を配布できます。

マスター イメージを使用してネットワーク ライセンス製品を複数のコンピュータに配布するには

- 1 ネットワーク ライセンス製品に対するネットワーク配置を作成します。詳細は、「[配置を作成する](#) (23 ページ)」を参照してください。
- 2 配置からマスター コンピュータに製品をインストールします。

注: 製品がライセンスを取得するには、ライセンス サーバが実行され、各コンピュータがネットワークに接続されていなければなりません。

- 3 製品をインストールした後、ディスクイメージ作成ソフトウェアを使用して、コンピュータのハードドライブのマスターイメージを作成します。
- 4 マスターイメージを目標のコンピュータに適用します。

マスターイメージを復元する

次の手順は、コンピュータを再フォーマットする前に、各コンピュータの **AdLM** フォルダ(および、存在する場合は **Product Licenses** フォルダ)のコピーが、他のコンピュータまたは外部ドライブに保存されていることを前提としています。

マスターイメージを使用して製品を復元するには

- 1 実行しているすべてのアプリケーションを終了します。ここに示す手順が完了するまで、アプリケーションを再実行しないでください。
- 2 Windows エクスプローラで、**AdLM** フォルダを、次に示すパスから、復元するディスク以外の場所にコピーします(Windows XP の例)。
%programdata%\FLEXnet
- 3 コンピュータを再フォーマットし、マスターイメージを復元します。

注: ハードドライブの簡易フォーマットは実行しないでください。

- 4 手順2で作成した **AdLM** フォルダを、再フォーマットしたコンピュータの元の場所にコピーします。

注: ディスクイメージを復元すると、変更されたすべてのファイルが元の状態に戻され、再び使用することができるようになります。ライセンスファイルは保護され、製品のアクティベーションを再度行う必要はありません。

マスターコンピュータをクリーンアップしてオペレーティングシステムを復元する

マスターコンピュータでオートデスク製品を既に実行している場合は、マスターイメージを作成する前に、マスターコンピュータを完全にクリーンアップする必要があります。

マスター コンピュータをクリーンアップし、オペレーティング システムを復元するには

- 1 ブート セクタを含め、ハード ドライブをクリーンアップします。
たとえば、Norton の GDISK ユーティリティを使用している場合は、次のコマンドを使用します。
gdisk 1 /diskwipe
ここで、**1** はクリーンアップするハード ディスクです。

注: Norton Ghost 以外のユーティリティを使用する場合は、必ずブートセクタもクリーンアップしてください。さもないと、オートデスク製品をアクティベーションできなくなります。
- 2 新しいパーティションを作成し、復元用ディスクまたは製品メディアを使用して、オペレーティング システムをインストールします。

インストールに関する質問

このセクションでは、インストールと配置に関するよくある質問を紹介します。その他のアドバイスとサポートについては、[オートデスク サポート](#) にアクセスし、製品名を選択してから、製品のナレッジベースで検索してください。

ライセンスの疑問

スタンドアロン ライセンスとネットワーク ライセンスの違いは何ですか?

スタンドアロン ライセンスは、個々のユーザに対して 1 つまたは複数のオートデスク製品をサポートします。同様に、マルチシート スタンドアロン ライセンスは、一定数のユーザをサポートします。ソフトウェアを複数のコンピュータにインストールできますが、同時に使用できるユーザの最大数はライセンスによって指定されています。

ネットワーク ライセンスは、ネットワークに接続された複数のコンピュータに対し、指定された最大数の同時使用ユーザをサポートします。ソフトウェアユーティリティの Network License Manager(NLM)は、購入したライセンスの最大

数までコンピュータにライセンスを発行します。現時点では、購入ライセンス数を超えるコンピュータでは、ライセンスがNLMに返却されるまではオートデスク製品を実行できません。

ネットワーク ライセンス バージョンのソフトウェアを使用するメリットは何ですか？

大きな製図/設計組織や教室など多数のユーザをサポートする必要がある環境では、ネットワーク ライセンスを使用すると、ライセンスの管理が容易になります。Network License Manager でライセンスの登録、アクティベーション、ユーザへの配布など、ライセンスを集中的に管理できます。ネットワーク ライセンスの主な利点の 1 つは、購入したライセンス数以上のコンピュータに製品をインストールできることです。たとえば、25 のライセンスを購入し、利便性をよくするために 40 台のコンピュータにインストールできます。製品は、購入したライセンス数分のコンピュータで同時に実行できます。つまり、本格的なフローティングライセンスとして使用できます。また、ネットワーク ライセンス システムでは、ユーザは有効期間中であれば、ネットワークに接続していないコンピュータでライセンスを借用して使用できるように環境設定することもできます。

SAMreport-Lite とは何ですか？

SAMreport-Lite は、FLEXnet™ を使用する製品のネットワーク ライセンスの使用状態をモニタするためのレポート作成ソフトウェアです。SAMreport-Lite はオートデスク製品とともに配布されませんが、オートデスクから入手できます。SAMreport-Lite を使用すると、ソフトウェア ライセンスの管理に役立ちます。詳細は、[SAMreport-Lite](#) を参照してください。

配置とネットワークの疑問

配置はどこに格納すればよろしいですか？

ドライブのトップ フォルダに、配置を格納するネットワーク共有フォルダ、たとえば `\\serverXX#Deployments` を作成します。この場所にすると、配置パス

が Windows オペレーティング システムのパスの長さ制限を超える危険性はまずありません。共有フォルダを作成したら、製品の配置を反映したサブフォルダ名を追加することができます。同じ製品またはスイート製品の複数の配置を作成し、異なるユーザ グループ用に環境設定する場合、これらの配置は同じ管理イメージを共有でき、ショートカットは同じフォルダに置くことができます。共有フォルダ内のサブフォルダは、すべて自動的に共有フォルダになります。

ネットワーク共有の詳細は、「[ネットワーク共有を作成する \(22 ページ\)](#)」を参照してください。

管理イメージに対して、どの時点ですべての製品を選択すればよいですか? また、後で製品を追加できますか?

すべての製品を配置に含めると、管理イメージが大きくなりますが、配置の修正や新しい配置の作成について制限がなくなります。[この配置環境設定に必要な製品のみを含める]チェックボックスをオンにすると、配置には使用可能な製品のサブセットが含まれるようになります。この配置に対する修正や、最初の配置に基づく追加の配置は、同じ製品セット以下に制限されます。

異なる製品を含むこの管理イメージから複数の配置を作成する予定があり、再度インストレーション メディアを使用したくない場合は、選択可能なすべての製品を含めることをお勧めします。しかし、明らかに配置不要な製品がある場合や、追加の配置を作成する予定がない場合は、製品のサブセットを選択してください。

後で別の配置を作成して追加の製品を含めることはできますが、これを行うには、インストレーション メディアから新しい管理イメージを作成する必要があります。

ユーザ基本設定のプロファイルとは何ですか?

プロファイルは、AutoCAD または他のオートデスク製品のユーザ設定の集合です。プロファイルをすべての製品が使用することはありません。配置プロセス中に[ユーザ設定]領域でプロファイルを指定すると、その配置を使用して製品をインストールするすべてのコンピュータの標準の環境設定になります。

プロファイルには、図面ベースのシステム変数だけでなく、大部分の環境設定が含まれます。たとえば、サポート パス、グリップ設定、印刷設定などが含まれます。プロファイルは、製品の[オプション]ダイアログ ボックスの[プロファイル]タブで作成します。

Service Pack を追加したり合成するとどうなりますか?

Service Pack を追加すると、Service Pack は現在の配置にのみ適用されます。Service Pack ファイルは配置に含まれており、Service Pack は製品が配置されてから適用されます。

Service Pack を合成すると、Service Pack は管理イメージに合成されます。いったん合成すると、Service Pack を管理イメージから除外できなくなります。

配置の作成時に、製品の環境設定パネルから Service Pack を追加または合成できます。

Service Pack が自分のソフトウェアで利用できるかどうかを確認するにはどうしたらよろしいですか?

パッチまたは Service Pack が使用可能かどうかを確認するには、<http://www.autodesk.co.jp/ss> にアクセスします。

MSP ファイルはどうやって解凍するのですか?

このトピックは、Windows プラットフォームにのみ該当します。Microsoft パッチ(MSP)ファイルは、通常、ご使用の製品のサポート Web サイトからダウンロードできる実行可能形式の Service Pack に含まれています。実行ファイルから、MSP ファイルを解凍するには、**/e** スイッチを使用して Windows コマンド プロンプトから、パッチ プログラムを実行します。構文は次のとおりです。

```
<ローカル_ドライブ:>¥<パッチ名>.exe /e<ローカル_ドライブ:>¥<パッチ名>.msp
```

ファイルが解凍される場所に注意してください。パッチ ファイルを使用する方法については、パッチの **Readme** ファイルを参照してください。

ファイアウォールに対して、ネットワークのライセンスをどのように環境設定すればよろしいですか？

ライセンス サーバとクライアント コンピュータの間にファイアウォールが存在する場合は、ライセンス関連の通信のために、いくつかの TCP/IP ポートを開く必要があります。**adskflex** のためにポート 2080 を、**lmgrd** のためにポート 27000 から 27009 を開いてください。

アンインストールとメンテナンスの疑問

どうすれば、既定のインストレーションの内容を確認できますか？

インストール手順に従って、[インストールの環境設定] ページに進みます。そこで選択されている製品が、既定のインストレーションでインストールされます。選択した製品をクリックして環境設定パネルを開くと、サブコンポーネントと機能の既定の設定を確認できます。

機能を追加または削除するときに、インストレーション フォルダを変更できますか？

製品をインストールした後は、インストレーション パスを変更することはできません。機能を追加するときにパスを変更すると、プログラムが破損することがあるので、変更はできません。

どうすれば、製品をインストールした後に、ツールとユーティリティをインストールできますか？

ダウンロードしたパッケージまたは製品メディアから再度インストーラを実行し、最初の画面で[ツールとユーティリティ]をクリックします。インストーラで、ツールとユーティリティの選択、環境設定、インストールを行います。

製品を修復するのではなく再インストールするのは どんなときですか？

プログラムで必要なファイルを誤って削除したり変更した場合に、製品を再インストールします。失われたファイルや変更されたファイルは、製品のパフォーマンスに悪影響を与えます。また、コマンドの実行やファイルの検索を試みたときにエラーメッセージが表示される原因になります。

インストールの修復に失敗した場合は、次善の策として再インストールがあります。

製品を再インストールする場合、製品メディアは必要ですか？

はい、必要です。ただし、[今すぐインストール]または[今すぐダウンロード]オプションを使用してオートデスクの Web サイトから製品をインストールした場合を除きます。製品を再インストールするときに、製品メディアを挿入するように求められます。製品がネットワーク配置からインストールされた場合は、後で Service Pack が追加されるなどして変更されたものではない元の配置にアクセスする必要があります。

ソフトウェアをアンインストールするとき、システムにはどのようなファイルが残りますか？

製品をアンインストールすると、作成または編集したファイル(たとえば、図面やカスタム メニュー)など、一部のファイルがコンピュータに残ります。

また、ライセンス ファイルもコンピュータに残ります。同じコンピュータに再インストールする場合、ライセンス情報は有効なままなので、再度製品のアクティベーションを行う必要はありません。

用語集

Service Pack 一般に多数のコード修正を含む重要なアプリケーション パッチに対するオートデスク用語。

アクティベーション オートデスク ソフトウェア登録手続きの一部で、これにより、製品のエンドユーザ ライセンス使用許諾同意書に基づいて製品を実行することが許可されます。

インストレーション イメージ 1 つまたは複数の MSI ファイルとその関連データ ファイル、関連するトランスフォーム、追加のユーザ固有のカスタム ファイル、プロファイル、レジストリ設定からなる配置。

管理イメージ 配置プロセスにより作成された共有ファイルリソースのコレクションで、プログラムをネットワーク コンピュータにインストールするために使用されます。

言語パック インストールされるファイルのセットで、一部のオートデスク製品で使用されます。ユーザは言語パックで指定された言語を使用して、アプリケーションで作業できるようになります。

言語ファミリ 通常は地理的な分類に基づいて、一緒に配布される言語のセット (中核製品と言語パック)。すべてのオートデスク製品についてこの方法で言語が配布されるわけではありません。

サイレント モード 一切のユーザ入力が必要なインストール。ユーザの関与を必要とするダイアログ ボックスはまったく表示されません。

ネットワーク ライセンス インストレーション 複数のコンピュータに製品をインストールし、ライセンスの配布は Network License Manager で処理されるインストール。

配置 ネットワーク上の 1 つまたは複数のコンピュータにオートデスク製品をインストールする処理。

パッチ アプリケーションを更新するソフトウェア。

ホット フィックス 少数のコード修正を含むマイナーなアプリケーション パッチに対するオートデスク用語。

マルチシート スタンドアロン インストレーション 1 つのシリアル番号を使用して、製品の複数のスタンドアロン シートをインストールするインストール。

ライセンス転送ユーティリティ オートデスク・サーバを使用して、コンピュータ間でオートデスク製品のスタンドアロンライセンスの転送に使用されるツール。転送元と転送先のコンピュータの両方でインターネット接続が必要です。

Autodesk ライセンス ガイド

3

はじめに

2014 ライセンス ガイドの新しい点

『ライセンス ガイド』は、統合された『インストレーション ヘルプ』オンラインドキュメントに統合されました。『インストレーション ヘルプ』には、『インストレーションの概要と **FAQ**』、『ネットワーク管理者用ガイド』、および製品固有の補足も含まれています。この新しい構造によって、より簡単に使用および管理できるようになります。

その他の改善点は次のとおりです。

- Network License Manager が FLEXnet 11.11 対応に更新されました。
- 新しいトピックでは、ネットワーク ライセンスの「[ライセンスの共有とカスケード](#) (77 ページ)」、および期間限定ライセンスの「[簡素化されたライセンス](#) (58 ページ)」を説明します。
- ネットワーク ライセンス ファイルの例が更新されました。
- 期間限定ライセンス ユーザをサポートするために、新しいトピック「[期間限定ライセンスを管理する](#) (62 ページ)」と「[期間限定ライセンスへのアクセスを復元する](#) (69 ページ)」が追加されました。

ライセンスの種類

オートデスクは主要な 2 種類のライセンスを用意しています。

- **スタンドアロンライセンス**は、個々のユーザに対して 1 つまたは複数のオートデスク製品をサポートします。この種類のライセンスには、指定された数のユーザをサポートするマルチシートバージョンも含まれます。ソフトウェアを複数のコンピュータにインストールできますが、同時にインストールできるユーザの数に制限があります。
- **ネットワークライセンス**は、ネットワークに接続されているコンピュータ上で、指定された最大数のユーザをサポートします。Network License Manager(NLM)というソフトウェアユーティリティが、購入したライセンス数に達するまで、オートデスク製品を起動する各ユーザにライセンスを発行します。ユーザがすべてのオートデスク製品を閉じると、通常は、ライセンスが NLM に返却され、他のユーザが使用できるようになります。ただし、NLM は、ユーザがライセンスを借用し、指定した返却期限が来るまでネットワークからの接続を切った状態で使用できるように設定することができます。借用したライセンスは、返却期限に NLM に返却されるだけですが、ユーザが期限前に返却することを選択した場合は、期限より早く返却できます。

オートデスクは、ユーザの使用目的に応じたライセンス状態とライセンス様式をサポートしています。あるライセンス状態、ライセンス様式の製品を購入したときに、オートデスク製品のアンインストールや再インストールを行わなくても、後でライセンス状態や様式を変更することができます。

ライセンスの状態

注: 学生版ライセンス以外のどのライセンスも、スタンドアロンとネットワークが使用可能です。学生版はスタンドアロンのみ使用可能です。

コマーシャル 市販用製品のライセンス。

非売品 非売用製品(非再販品)のライセンス。

教育機関限定製品 教育機関専用のライセンス。

学生版 学校教育の一環としてオートデスク製品を使用する学生用のライセンス。

ライセンス様式

試用中 製品またはスイートを指定された期間、通常は 30 日間、個々に試用モードで使用することを許可するライセンス。試用期間は、製品を最初に起動したとき、またはスイート内の製品の 1 つを最初に起動したときから始まります。試

用期間の前後で、いつでもライセンスのアクティベーションおよび登録を行うことができます。

無期限 無期限にオートデスク製品を使用できます。

延長可能 限られた期間、オートデスク製品を使用できます。期間はいつでも延長できます。

期間限定 限られた期間、オートデスク製品を使用できます。期間を延長することはできません。

ライセンス モデル

標準 アクティベーションされたスタンドアロン ライセンスに適用します。

時間ベース 使用目的に応じたライセンスに適用します。このモデルでは、ユーザは実際に製品を使用する時間に応じて料金を支払います。

期間限定 期間限定ライセンスを適用します。このモデルでは、指定された期間の料金を支払います。期間を延長することもできます。期間限定ライセンスには、名前の付いたユーザが必要です。

アクティベーション

アクティベーションは、オートデスク製品のシリアル番号とプロダクト キーを確認し、特定のコンピュータ上で実行するために製品のライセンスを設定するプロセスです。このプロセスは、初めて製品を起動したときに発生します。

シリアル番号とプロダクト キーの組み合わせが無効な場合や、コンピュータがインターネットに接続されていない場合、アクティベーションは行われません。このような場合はオートデスクに問い合わせ、状況を解決する必要があります。インターネットに接続されていない間、延長された期限(通常は 30 日間)まで、試用モードで製品を実行したり、オフライン アクティベーションの手順に従うことができます。通常、この手順は次の 4 段階で行います。

- 1 製品名、シリアル番号、プロダクト キー、リクエスト コードを記録します。
- 2 指定されたオートデスク Web サイトにオンライン接続し、製品データを入力します。
- 3 オートデスクからアクティベーション コードを受け取ります。
- 4 製品の画面で、アクティベーション コードを入力します。

製品を旧バージョンからアップグレードした場合、以前のシリアル番号を入力しなければならないことがあります。アクティベーションの詳細については、[Autodesk ライセンス ガイド](#)にアクセスし、FAQ リンクをクリックしてください。

注: デュアルブート オペレーティング システムの両方のオペレーティング システムにオートデスク製品をインストールして使用することはお勧めできません。それでもこの方法を取るのであれば、それぞれのオペレーティング システムに対して個別のアクティベーション コードを取得してください。

登録

ご使用の製品に応じて、登録は任意または必須です。必須の場合、個々のアカウントまたは会社のアカウントと関連付けるオートデスクのユーザ ID を作成するように求められます。登録が任意の場合は、登録するように定期的に促されますが、すぐに登録しないでおくことも可能です。オートデスクの製品登録 Web サイトは、<https://registeronce.autodesk.com> です。

簡素化されたライセンス

教育機関の学生を含む期間限定スタンドアロン ライセンスを使用する一部のお客様に対するライセンス発行プロセスが簡素化されました。ライセンスは事前に登録されているため、お客様がシリアル番号とプロダクト キーを入力したり、アクティベーション プロセスに従う必要はありません。これらのお客様には、オートデスクの Web サイトから、[今すぐインストール]オプションを使用して製品をダウンロードすることをお勧めします。製品は、お使いのコンピュータに自動的にインストールされます。

教育機関の学生は、Autodesk Education Community Web サイト (students.autodesk.com)からオートデスク製品の無償コピーをダウンロードする資格があります。製品は、3 年間の期間限定スタンドアロン ライセンス付きで完全に機能します。

スタンドアロン ライセンス

スタンドアロン ライセンスの概要

スタンドアロン ライセンスは、指定された製品を 1 人のユーザが使用できるようにオーソライズします。製品は複数のコンピュータにインストールできます。しかし、同じ製品の複数のインスタンスを、異なるコンピュータで同時に実行することはできません。

スタンドアロン ライセンスでは、使用開始してから指定された期間、通常は 30 日間、オートデスク製品を試用モードで使用することができます。製品スイートの場合、試用モードの使用期限の計算は、最初に製品を使用したときから開始されます。それがスイートに含まれるすべてのオートデスク製品に適用されます。試用期間の前後で、いつでもライセンスのアクティベーションを行うことができます。

ライセンスの許可時に、ライセンスファイルが作成されるとともに、コンピュータのファイル システムに若干の変更が加えられます。この変更は、製品をアンインストールした後も保持されます。同じコンピュータにオートデスク製品を再インストールしても、ライセンス情報は変化しません。アクティベーションを再度行う必要はありません。

マルチシート スタンドアロン ライセンス

マルチシート スタンドアロン ライセンスは、1 つのシリアル番号とプロダクト キーを使用して、指定した数のコンピュータ上で 1 つまたは複数のオートデスク製品を実行できるようにします。シングル スタンドアロン ライセンスと同様、インターネット接続が可能な場合に、シリアル番号とプロダクト キーの組み合わせがオートデスクにより正しく登録されると、製品は最初に起動したときに自動的にアクティベーションが行われます。

マルチシート スタンドアロン ライセンスは、インストーラの[配置を作成]オプションを使用して作成したイメージから、ネットワーク上の複数のコンピュータに効率的に配布できます。

マルチシート スタンドアロン インストールと配置の詳細は、ご使用の製品の『ネットワーク管理者用ガイド』または www.autodesk.com/licensing-jpn を参照してください。

スタンドアロン ライセンスを管理する

製品のライセンス情報を確認する

ご利用中のオートデスク製品に関する詳細情報(シリアル番号、ライセンスのタイプ、様式など)を表示することができます。

製品のライセンス情報を確認するには

- 1 オートデスク製品を開始します。
- 2 [ヘルプ] ► [バージョン情報]、または[<製品名> バージョン情報]を選択します。
- 3 [バージョン情報]ウィンドウで、[製品情報]または[製品ライセンス情報]をクリックします。

ライセンス情報をテキスト ファイルに保存する

ご利用中のオートデスク製品および製品ライセンスの詳細情報(シリアル番号、ライセンスのタイプ、様式など)を表示することができます。この情報は、後で参照するためにテキスト ファイルに保存することができます。

ライセンス情報をテキスト ファイルに保存するには

- 1 オートデスク製品を開始します。
- 2 [ヘルプ] ► [バージョン情報]、または[<製品名> バージョン情報]を選択します。
- 3 [バージョン情報]ウィンドウで、[製品情報]または[製品ライセンス情報]をクリックします。
- 4 [製品のライセンス情報]ダイアログ ボックスで、[名前を付けて保存]ボタンをクリックします。
- 5 [名前を付けて保存]ダイアログ ボックスで、ファイルの名前を入力して、ファイルを保存する場所を選択し、次に[上書き保存]をクリックします。
- 6 [製品のライセンス情報]ダイアログ ボックスで、[閉じる]をクリックします。

シリアル番号を更新する

通常は、ライセンスの種類または様式を変更するために新しいライセンスを購入すると、スタンドアロン ライセンスのシリアル番号を更新します。たとえば、教育機関限定ライセンスをコマーシャル ライセンスに変更したり、期間限定ライセンスの使用期限を延長する場合に、シリアル番号を更新します。ライセンスを更新するとき、製品をアンインストールして再インストールする必要はありません。新しいライセンスには、[製品のライセンス情報]ダイアログ ボックスに入力する新しいシリアル番号が含まれています。

シリアル番号は、製品パッケージの外側に記載されているか、製品をオンラインで購入または更新したときは、オートデスクから送付された更新とライセンス情報に関する電子メールに記載されています。

製品を登録してアクティベーションを行うとき、インターネット接続できる場合は、シリアル番号がインターネットを介してオートデスクに送信されます。

1つのシリアル番号を使用する製品スイートの場合、登録してアクティベーションを行う最初の製品にのみ、更新されたシリアル番号が表示されます。他の製品で表示されるシリアル番号は、[ヘルプ]メニューから更新する必要があります。

シリアル番号を更新するには

- 1 オートデスク製品を開始します。
- 2 [ヘルプ] ► [バージョン情報]、または[<製品名> バージョン情報]を選択します。
- 3 [バージョン情報]ウィンドウで、[製品情報]または[製品ライセンス情報]をクリックします。
- 4 [製品のライセンス情報]ダイアログ ボックスで、[更新]をクリックします。
- 5 [シリアル番号の更新]ダイアログ ボックスで、製品のシリアル番号を入力します。

注: シリアル番号を紛失した場合は、www.autodesk.co.jp/contactus にアクセスしてください。

- 6 [アクティベーション]をクリックします。更新後の新しいシリアル番号が表示されます。

注: 新しいシリアル番号を表示するには、製品を再起動する必要がある場合もあります。

- 7 [製品のライセンス情報]ダイアログ ボックスで、[閉じる]をクリックします。

期間限定ライセンスを管理する

Autodesk 期間限定ライセンス契約は、期間終了日と許可されたユーザを識別します。ユーザは、Autodesk My Accounts ポータルにログインし、契約で規定されている製品をダウンロードします。期間限定ライセンスの管理者の場合、ポータルにアクセスし、名前の付いたユーザのリストを提出して、製品をダウンロードしてインストールするようユーザに案内を送信します。ライセンス エラーを回避するには、適格なユーザのグループに変更があった場合、このリストを更新する必要があります。

期間限定ライセンスが終了した場合、同じ製品の新しい契約を購入することができます。新しい契約の名前の付いたユーザの一人が製品を起動した場合、製品のシリアル番号を変更する手順に従ってライセンスの再アクティベーションを行い、新しい契約に関連付けます。シリアル番号の変更は、契約が及ぶそれぞれの製品ごとに行う必要があります。

スタンドアロン ライセンスを転送する

ライセンス転送ユーティリティの概要

ライセンス転送ユーティリティは、スタンドアロン ライセンスでのみ使用されます。ライセンス転送ユーティリティは、製品ライセンスをコンピュータ間でオンライン転送します。製品は、ライセンスが存在するコンピュータでのみ使用できます。スイートライセンスを転送することもできます。その場合、インストールされているスイートのどの製品も、エクスポートしたコンピュータでは使用できなくなり、代わりにインポートしたコンピュータで使用できるようになります。

一部の Windows ベース製品の場合、インストーラの[ツールとユーティリティ]タブからライセンス転送ユーティリティをインストールすることができます。その他の場合は、インストーラの製品環境設定パネルで[ライセンス転送ユーティリティ]を選択します。

重要: ライセンスを転送するには、両方のコンピュータにオートデスク製品またはスイートがインストールされている必要があります。さらに、インターネット接続と、オートデスク ユーザ ID およびパスワードが必要です。ユーザ ID とパスワードを作成するには、Autodesk Register Once Web サイト (<https://registeronce.autodesk.com>) にアクセスしてください。

ライセンス転送ユーティリティは、カスタム スタンドアロン インストレーション オプションです。インストレーション時に、ショートカットが作成されます。ショートカットは、製品ごと、コンピュータごとに、一度インストールされます。

一時的または永久に、ライセンスを他のコンピュータに転送することができます。たとえば、一時的な転送を使用すると、メイン コンピュータを修理したり交換するときに、モバイル コンピュータでオートデスク製品を使用できるようになります。

ライセンスの転送は、製品のシリアル番号またはプロダクト キーに基づいて行われます。オートデスクのライセンスをエクスポートできるようにするには、その前に、シリアル番号とプロダクト キーを使用してアクティベーションしていなければなりません。ライセンスのインポートの間、先にアクティベーションされ、エクスポートされたライセンスは、同じシリアル番号を使用してインストールされた製品またはスイートにインポートされます。アクティベーションがインポート コンピュータに転送され、ライセンスの転送が完了します。

同時にエクスポートできるライセンスの最大数は、所有しているシート(使用権)の数と同じです。たとえば、ライセンスでカバーされているシートが 5 つの場合、最大 5 つのライセンスのエクスポートをいつでも実行できます。

オートデスク製品を更新すると、以前のライセンスのオンライン ライセンス転送は行えなくなります。

ライセンス転送ユーティリティを使用して製品ライセンスをコンピュータ間で転送できますが、ライセンス契約によって製品を 2 台以上のコンピュータにインストールすることが禁止されている場合もあります。ライセンス契約を調べ、ライセンス転送ユーティリティの使用が許可されているかどうかを確認してください。

ライセンスをエクスポートする

ライセンス転送ユーティリティによって、製品のライセンスがコンピュータからオンライン オートデスク サーバに移動されたときに、ライセンスはエクスポートされます。

ライセンスは、パブリックまたはプライベートとしてエクスポートすることができます。

- **パブリック:** 同じシリアル番号と独自のユーザ ID およびパスワードを持っている誰もがライセンスをインポートできます。
- **プライベート:** エクスポートしたユーザは自身のためにライセンスを確保します。ライセンスは、同じシリアル番号、同じユーザ ID、およびエクスポート時に使用されたパスワードを入力したときにのみインポートできます。

プライベート ライセンスがインポートされなかった場合、14 日後にパブリック ライセンスになります。

ライセンスをエクスポートするには

- 1 ライセンスをエクスポートするコンピュータで、ライセンス転送ユーティリティを開始します。
 - **Windows 7 または XP:** [スタート]メニュー ➤ [Autodesk] ➤ [**<製品名>**] ➤ [ライセンス転送ユーティリティ]をクリックします。
 - **Windows 8:** スタート画面を右クリック ➤ [すべてのアプリ] ➤ [ライセンス転送ユーティリティ - **<製品名>**]。
 - **Mac OS X:** [アプリケーション]/[Autodesk]/[**<製品名>**]/[ライセンス]/[ライセンス転送ユーティリティ]を開きます。
 - **Linux:** シェルを開き、次のコマンドを実行します。ここで
<productKey> は、スイートではなく、特定の製品のプロダクト キーです。

```
/opt/Autodesk/Adlm/R7/bin/LTU <productKey> 2014.0.0.F  
-d "SA"
```

注: オートデスク スイートの一部として Mac OS X または Linux にインストールされている製品については、アプリケーションと同じフォルダに LTU.sh などのシェル スクリプトが用意されています。このスクリプトは LTU を開始し、正しいプロダクト キーを表示します。このスクリプトはターミナルで実行します。実行後、ユーザ インタフェースの言語を選択し、以下の手順に従ってください。

[ライセンス転送ユーティリティ]に、オートデスク製品の名前とシリアル番号が表示されます。

- 2 [サインイン]をクリックします。
- 3 [ログイン]ページで、オートデスク ユーザ ID とパスワードを入力し、[ログイン]をクリックします。
- 4 [ライセンスのエクスポート]ページで、エクスポート情報を確認します。
- 5 パブリックインポートとして使用できるライセンスを作成する場合は、[ライセンスをパブリックインポートとして使用できるようにします]をクリックします。
- 6 [エクスポート]をクリックします。
- 7 [ライセンス エクスポートの確認]ページで、[完了]をクリックします。

ライセンスをインポートする

ライセンス転送ユーティリティによって、先にエクスポートされた製品のライセンスが、オンラインオートデスクサーバからコンピュータに移動されたときに、ライセンスはインポートされます。インポート アクションによってライセンス転送処理は完了し、製品のアクティベーションはインポートしたコンピュータに移動します。アクティブなライセンスの存在によって、そのコンピュータでのオートデスク製品の実行が可能になります。

ライセンスをインポートするには

- 1 ライセンスをインポートするコンピュータで、ライセンス転送ユーティリティを開始します。
 - **Windows 7 または XP:** [スタート]メニュー ➤ [Autodesk] ➤ [**<製品名>**] ➤ [ライセンス転送ユーティリティ]をクリックします。
 - **Windows 8:** スタート画面を右クリック ➤ [すべてのアプリ] ➤ [ライセンス転送ユーティリティ - **<製品名>**]。

■ **Mac OS X:** [アプリケーション]/[Autodesk]/[<製品名>]/[ライセンス]/[ライセンス転送ユーティリティ]を開きます。

■ **Linux:** シェルを開き、次のコマンドを実行します。ここで <productKey> は、スイートではなく、特定の製品のプロダクト キーです。

```
/opt/Autodesk/Adlm/R7/bin/LTU <productKey> 2014.0.0.F  
-d "SA"
```

注: オートデスク スイートの一部として Mac OS X または Linux にインストールされている製品については、アプリケーションと同じフォルダに LTU.sh などのシェル スクリプトが用意されています。このスクリプトは LTU を開始し、正しいプロダクト キーを表示します。このスクリプトはターミナルで実行します。実行後、ユーザ インタフェースの言語を選択し、以下の手順に従ってください。

[ライセンス転送ユーティリティ]に、オートデスク製品の名前とシリアル番号が表示されます。

注: 試用ライセンスを変更するためにライセンスを読み込んだ場合、シリアル番号とプロダクト キーを更新するためのダイアログ ボックスが表示されます。この場合、必要なデータを入力して[更新]をクリックします。

- 2 [ライセンスをインポート]ページで、[サイン イン]をクリックします。
- 3 [ログイン]ページで、オートデスク ユーザ ID とパスワードを入力し、[ログイン]をクリックします。
- 4 [ライセンス インポートの確認]ページで、[完了]をクリックします。

これでライセンスがコンピュータにインポートされ、そのコンピュータでオートデスク製品を実行することができます。ライセンスを他のコンピュータに転送する場合は、エクスポートとインポートの手順を繰り返します。

スタンドアロンライセンスエラーのトラブルシューティング

ハードウェアの変更時にライセンスを保持する

オートデスク製品のライセンスが存在するコンピュータを他のコンピュータに置き換えたり、ハードウェアの設定を変更すると、スタンドアロンライセンスが失敗し、製品が使用できなくなる可能性があります。

製品のライセンスへの悪影響を回避するには、ハードウェアを変更する前に、ライセンス転送ユーティリティを使用してライセンス ファイルをエクスポートします。ハードウェアを変更した後に、ライセンス ファイルをコンピュータに元どおりインポートすることができます。ライセンス転送ユーティリティの使用についての詳細は、「[ライセンス転送ユーティリティの概要](#)」(62 ページ)を参照してください。

注: ハードウェアを変更したときにライセンスエラーになった場合には、ライセンスの再アクティベーションを行う必要があります。詳細は「[アクティベーション](#)」(57 ページ)」を参照してください。

オペレーティング システムの再インストール

オートデスク製品のライセンスが与えられているコンピュータのオペレーティング システムを再インストールすると、ライセンスが無効になることがあります。結果として、製品が使用できなくなり、ライセンスの再アクティベーションを行う必要があります。次の手順を実行して、オペレーティング システムを再インストールしたときのライセンス エラーを防ぐことができます。詳細は「[アクティベーション](#)」(57 ページ)」を参照してください。

注: Windows オペレーティング システムの場合は、次の手順を行います。Mac OS X または Linux プラットフォームでオートデスク製品を実行している場合、詳細は『[インストール ヘルプ](#)』のご使用の製品の補足を参照してください。

オペレーティング システムを再インストールしたときのライセンス エラーを回避するには

注: Norton™ Ghost™ または他のディスク イメージ作成ユーティリティを使用している場合、マスター ブート レコードを含めないでください。

- 1 次のいずれかのフォルダのバックアップ コピーを作成します(Windows XP の例)。
 - (Windows XP) C:\Documents And Settings\All Users\Application Data\FLEXnet
 - (Windows 7、8、Server 2008 R2、2012 R2) C:\ProgramData\FLEXnet
- 2 オペレーティング システムを再インストールし、オートデスク製品を再インストールします。
- 3 手順 1 でコピーしたライセンス フォルダを、元と同じ場所にコピーします。
オートデスク製品を実行できるようになります。

システム クロックの変更

製品のライセンスを受けた後、システム クロックを現在の時刻から前後 2 日以内の時刻に変更できます。しかし、システム クロックを 2 日以上前後すると、次回製品を起動したときに、システム クロックを修正するよう求める注意が表示されます。システム クロックを修正しないと、ライセンス エラーが発生します。

ライセンス エラーを防ぐため、オートデスク製品をインストールしてアクティベーションを行うときには、コンピュータのシステム日時が正しいことを確認してください。

ソフトウェアイメージを複数のコンピュータに配布する

インストーラの[配置を作成]オプションを使用すると、製品のインストール イメージをサーバに作成し、それをコンピュータ ネットワーク上で利用することができます。このイメージを作成している間に、登録情報を求められます。登録

情報は、イメージとともに保存され、すべての製品のインストールに配布されます。詳細は、『ネットワーク管理者用ガイド』を参照してください。

オートデスク製品に含まれているインストール メディアを使用して、ソフトウェアを手作業で配布することもできます。しかし、コンピュータがインターネットに接続されていない場合、それぞれのコンピュータの登録データを正確に入力しなければなりません。登録データが間違っていると、アクティベーションは失敗します。

注: アプリケーションの配布にディスク コピーを使用することはお勧めできません。インストールが完了できなかったり、アクティベーションで問題が発生する可能性があります。

コンピュータのディスク初期化時にライセンスを保持する

ネットワーク ライセンス サーバでは、ライセンスはサーバ上で管理されます。ネットワーク ライセンスを保持するための特別な操作はありません。

スタンドアロン ライセンスの場合、コンピュータのハードディスクを初期化する前にライセンスをエクスポートする必要があります。ライセンス転送ユーティリティを使用して、ライセンスをオートデスクのサーバにエクスポートすることができます。ディスク初期化後、ライセンスを正しいコンピュータにインポートします。

期間限定ライセンスへのアクセスを復元する

期間限定ライセンスされたオートデスク製品へのアクセスが拒否される最も一般的な理由は次のとおりです。

- 入力されたユーザ ID が、正しいユーザのものではない。ライセンス管理者に問い合わせ、アクセス権を変更または確認してください。この状況では他に、正しいユーザのユーザ ID を入力するか、有効な契約に基づくユーザ ID に関連付けられた別のシリアル番号を入力するなどの選択肢があります。
- 期間限定契約の期限が切れた。ライセンス管理者に問い合わせ、契約を延長します。この状況では他に、有効な契約に基づくユーザ ID に関連付けられた他のシリアル番号を入力するという選択肢があります。

ネットワーク ライセンス

ネットワーク ライセンス管理を計画する

ライセンス サーバ モデルとは

このセクションでは、Network License Manager に対応している 3 種類のサーバ モデルについて説明します。サーバ ネットワークは、Windows、Mac OS X、Linux サーバの任意の組み合わせが可能です。それぞれのモデルの長所と短所は、どれがユーザにとって最適かを判断する材料になります。ネットワーク ライセンスを購入するときに、使用するサーバ モデルを指定します。

シングル ライセンス サーバ モデル

シングル ライセンス サーバ モデルでは、Network License Manager が 1 台のサーバにインストールされるため、ライセンスの管理と動作はこのサーバに制限されます。1 つのライセンス ファイルにより、サーバ上の使用可能なライセンスの合計数が定義されます。

シングル ライセンス サーバ モデルの長所

- すべてのライセンス管理が 1 台のサーバで行われるため、1 つの場所で管理できます。また、障害が発生するのも 1 つの場所です。
- 3 つのライセンス サーバ モデルの中で、メンテナンス作業が最も少なくて済みます。

シングル ライセンス サーバ モデルの短所

- シングル ライセンス サーバに障害が発生した場合、サーバがオンラインに戻るまではオートデスク製品を実行できません。

分散ライセンス サーバ モデル

分散ライセンス サーバ モデルでは、ライセンスを複数のサーバに分散します。サーバごとに、一意のライセンス ファイルが必要になります。分散ライセンス

サーバを構築するには、分散サーバ プールの一部である各サーバ上で Network License Manager を実行する必要があります。

分散ライセンス サーバ モデルの長所

- すべてのサーバを 1 つのサブネットに配置する必要がなく、広域ネットワーク(WAN)上に分散できます。
- 分散サーバプールの 1 台のサーバに障害が発生しても、他のサーバ上のライセンスを使用することができます。
- 分散サーバプールの 1 台のサーバを交換する必要が生じた場合でも、プール全体を再構築する必要はありません。
- サーバの交換が、冗長サーバ プールの場合より容易です。冗長サーバ プールのサーバを交換した場合は、プール全体を再度アクティベーションしなければなりません。

分散ライセンス サーバ モデルの短所

- 分散サーバプールの 1 台のサーバに障害が発生すると、そのサーバ上のライセンスは使用できなくなります。
- このモデルは、設定と管理に他のモデル以上の時間がかかります。

冗長ライセンス サーバ モデル

冗長ライセンス サーバ モデルでは、ライセンス ファイルの認証に 3 台のサーバ構成が使用されます。少なくとも 2 台のライセンス サーバが稼働している限り、ライセンスの監視と発行が継続されます。Network License Manager は、それぞれのサーバにインストールされ、それぞれのライセンス サーバのライセンス ファイルは同一です。

冗長ライセンス サーバ モデルでは、すべてのサーバが同じサブネットに存在し、一貫したネットワーク通信を行う必要があります(通信が低速、不安定になったり、ダイヤルアップ接続がサポートされない場合があります)。

冗長ライセンス サーバ モデルの長所

- 3 台のサーバのうち 1 台に障害が発生しても、そのサーバプールで管理されるライセンスはすべて使用できます。

冗長ライセンス サーバ モデルの短所

- 複数のサーバに障害が発生した場合、ライセンスは使用できなくなります。

- 3 台のサーバすべてが同じサブネット上に存在し、信頼できるネットワーク通信を行う必要があります。冗長サーバプールには、ネットワーク障害への対策が施されていません。
- 3 台のサーバのいずれかを交換した場合は、完全な冗長サーバプールを再構築する必要があります。
- オートデスク製品がライセンス借用機能をサポートしており、ライセンスが冗長ライセンスサーバプールから貸し出されている場合は、Network License Manager を停止した後にライセンスサーバを再起動する必要があります。

Windows での Network License Manager の動作環境

注: Network License Manager は、イーサネット ネットワーク環境のみに対応しています。

Network License Manager のハードウェア要件とソフトウェア要件

ハードウェア/ソフトウェア	要件
オペレーティング システム (各日本語版)	Windows® 8 32 ビットまたは 64 ビット ■ Windows 8 ■ Windows 8 Pro ■ Windows 8 Enterprise
	Windows 7 32 ビットまたは 64 ビット ■ Windows 7 Home Premium ■ Windows 7 Professional ■ Windows 7 Ultimate ■ Windows 7 Enterprise ■ Windows 7 Starter (32 ビット)
	Windows XP 32 ビットまたは 64 ビット。64 ビット システムでは SP2 以降、32 ビットでは SP3 以降。 ■ Windows XP Home (32 ビット)

Network License Manager のハードウェア要件とソフトウェア要件

ハードウェア/ソフトウェア	要件
	■ Windows XP Professional
	Windows Server 32 ビット または 64 ビット SP1 以降 ■ Windows 2012 Server ■ Windows 2008 Server R2 ■ Windows 2008 Server (SP2 以降) ■ Windows 2003 Server R2 ■ Windows 2003 Server
コンピュータ/プロセッサ	Intel® Pentium® III 以上 450 MHz (最低)
ネットワーク インタフェース カード	既存のイーサネット ネットワーク インフラストラクチャに準拠 注: Network License Manager は複数のネットワーク インタフェース カードに対応しますが、少なくとも 1 つはイーサネット カードでなければなりません。
通信プロトコル	TCP/IP 注: Network License Manager は TCP パケット タイプを使用します。
インターネット ブラウザ	Internet Explorer 7、8、9、10

Network License Manager のハードウェア要件とソフトウェア要件

ハードウェア/ソフトウェア	要件
FLEXnet	11.11.0.0

仮想マシン対応

ハードウェア	仮想化	仮想 OS
Intel PC 64	VMware® ESX 4.0 または 5.0 上で実行している Windows 2012、2008、または 2003 R2 サーバ (License Manager のみ)	Windows 8、Windows 7、Windows Server、または Windows XP。すべてのプラットフォームの 32 ビットまたは 64 ビット。

Linux での Network License Manager の動作環境

注: Network License Manager は、イーサネット ネットワーク環境のみに対応しています。

Linux の Network License Manager のハードウェア要件とソフトウェア要件

ハードウェア/ソフトウェア	要件
オペレーティング システム	Linux® 32 ビットまたは 64 ビット Red Hat® Enterprise Linux 5.0 WS (U4)
コンピュータ/プロセッサ	Intel Pentium 3 以上 450 MHz (最低)
ネットワーク インタフェース カード	既存のイーサネット ネットワーク インフラストラクチャに準拠 注: Network License Manager は複数のネットワーク インタフェース カードに対応しますが、少なくとも 1 つはイーサネット カードでなければなりません。

Linux の Network License Manager のハードウェア要件とソフトウェア要件

ハードウェア/ソフトウェア	要件
通信プロトコル	TCP/IP 注: Network License Manager は TCP パケット タイプを使用します。
インターネットブラウザ	Qt 4.7.2
FLEXnet	11.11.0.0

Mac OS X での Network License Manager の動作環境

注: Network License Manager は、イーサネット ネットワーク環境のみに対応しています。

Mac OS X の Network License Manager のハードウェア要件とソフトウェア要件

ハードウェア/ソフトウェア	要件
オペレーティング システム	Mac OS® X バージョン 10.5.3 以上
コンピュータ/プロセッサ	Intel Mac
ネットワーク インタフェース カード	既存のイーサネット ネットワーク インフラストラクチャに準拠 注: Network License Manager は複数のネットワーク インタフェース カードに対応しますが、少なくとも 1 つはイーサネット カードでなければなりません。
通信プロトコル	TCP/IP 注: Network License Manager は TCP パケット タイプを使用します。

Mac OS X の Network License Manager のハードウェア要件とソフトウェア要件	
ハードウェア/ソフトウェア	要件
インターネットブラウザ	Safari 4.0.x または 5.0.x
FLEXnet	11.11.0.0

ネットワーク ライセンスとは

ライセンスの動作方法

オートデスク製品を開始すると、TCP/IP ネットワークを介してライセンス サーバからライセンスが要求されます。ライセンスが使用可能な場合、Network License Manager はコンピュータにライセンスを割り当て、ライセンス サーバ上の使用可能なライセンス数を 1 減少させます。

製品を終了すると、ライセンスは Network License Manager に戻されます。同じコンピュータを使用している限り、1つのライセンスでオートデスク製品の複数のセッションを実行できます。最後のセッションが終了すると、ライセンスが解放されます。

次の 3 つの項目によって、ライセンスの配布と使用可能なライセンスを管理します。

- **ライセンス管理デーモン (*lmgrd* または *lmgrd.exe*)** アプリケーションとの最初の通信を処理し、次にその接続をベンダー デーモンに渡します。この手法により、1つの *lmgrd* デーモンを複数のソフトウェア ベンダーで使用してライセンスの認証を行うことができます。必要に応じて *lmgrd* デーモンは、ベンダー デーモンを開始および再開します。
- **オートデスク ベンダー デーモン (*adskflex* または *adskflex.exe*)** このデーモンは、チェックアウトされたライセンスと、そのライセンスがどのコンピュータで使用されているかを追跡します。ソフトウェア ベンダーごとに一意のベンダーデーモンがあり、ベンダー固有のライセンス処理を管理しています。

注: 何らかの理由で **adskflex** ベンダー デーモンが終了すると、**lmgrd** がベンダー デーモンを再起動するか、ベンダー デーモンを終了させた問題が解決されるまで、すべてのユーザがライセンスを失います。

- **ライセンスファイル**は、ベンダー固有のライセンス情報が記述されたテキスト ファイルです。

ライセンスの共有とカスケード

Network License Manager (NLM)を使用すると、同じコンピュータ上の複数のオートデスク製品が、必要ときにシングル ライセンスを共有できるようになります。たとえば AutoCAD を起動すると、NLM はコンピュータにシングル AutoCAD ライセンスを割り当てることができます。その後 Revit を起動した場合、Building Design Suite (BDS)の使用可能なライセンスがあれば、NLM は AutoCAD ライセンスを取り戻し、ユーザのライセンスを BDS ライセンスにアップグレードします。このライセンスは、AutoCAD、Revit、およびその他の BDS 製品の同時実行をサポートできます。次に Revit および他の BDS 製品を終了して AutoCAD のみを実行している状態にして、他のユーザがスイート ライセンスを必要としていても、NLM はスイート ライセンスをシングル AutoCAD ライセンスにダウングレードすることはできません。この場合、必要でなくても AutoCAD はスイート ライセンスを保持します。NLM にライセンスを返却する唯一の方法は、AutoCAD を終了することです。

ライセンスのカスケードとは、価値の階層に従って NLM がネットワーク ライセンスを自動的に切り替えるプロセスです。これは、ライセンスをアップグレードできるがダウングレードできないという制限を前提に、ユーザのグループにライセンスを最も効率よく配布するために行われます。基本的に、可能な限り低コストのライセンスが使用されます。ユーザが複数のスイート製品を実行した場合や、すべての低コスト ライセンスが使用されている場合のように、必要な場合にのみ高コスト ライセンスが使用されます。

NLM は、ライセンスの使用状況を 2 分ごとに調査します。可能な場合は、ユーザ間にライセンスを再配布し、許容アイドル時間またはタイムアウト期間を超えて不使用状態にあるライセンスを取り戻します。ライセンスのタイムアウトの詳細は、「[ライセンス タイムアウトをセットアップする](#) (112 ページ)」を参照してください。

ライセンスのカスケードは、NLM に配布可能な異なるライセンス タイプのプールがある場合に、大きなユーザ グループに対して最も効果的です。たとえば、プールに各種製品の製品固有のライセンス、標準スイートのいくつかのライセン

ス、および Ultimate スイートのいくつかのライセンスが含まれている場合、NLM には効率的なライセンス管理の多くのオプションがあります。個々の製品の開始時にシングル製品ライセンスを割り当て、ユーザが複数の製品を実行した場合はスイートライセンスに切り替え、ユーザが Ultimate スイートの製品が必要な高度な操作を呼び出した場合は標準スイートライセンスを Ultimate スイートライセンスにアップグレードすることができます。

詳細は、「サービス & サポート」のトピック「[オートデスク製品のカスケードライセンスとは](#)」を参照してください。

ライセンス ファイルの中身を理解する

オートデスクから取得したネットワーク ライセンス ファイルには、ネットワーク インストールに必要なライセンス情報が含まれています。ライセンス ファイル データは、オートデスク製品の登録時に取得します。

ライセンス ファイルには、ネットワーク サーバ ノードとベンダー デーモンに関する情報が含まれています。オートデスクがライセンス ファイルを生成するときに作成された暗号化されたデジタル署名も含まれています。

ライセンス ファイルによって、ライセンスを管理するネットワーク ライセンス サーバの環境設定が行われます。配置を作成するとき、どのサーバに接続すればライセンスが取得できるかをそれぞれの製品が認識できるように、ネットワーク ライセンス サーバ名を指定します。ネットワーク ライセンス サーバには、ネットワーク ライセンスを必要とする 1 つまたは複数の製品を実行するすべてのユーザがアクセスできなければなりません。

次の表に、ライセンス ファイルの各パラメータの定義を示します。詳細は、Network License Manager と一緒にインストールされている『ライセンス管理ガイド』を参照してください。

ライセンス ファイル パラメータの定義			
行	パラメータ	定 義	例
SERVER	Host Name	Network License Manager があるサーバの名称	LABSERVER
	Host ID	Network License Manager があるサーバのイーサネット アドレス	03D054C0149B

ライセンス ファイル パラメータの定義

行	パラメータ	定 義	例
USE_SERVER	なし		
VENDOR	Vendor Daemon	サーバ側のオートデスク ベンダー デーモンの名前	adskflex.exe
	Port Number	オートデスク ベンダー デーモンを 実行するオートデスク製品専用に割 り当てられているネットワーク ポー ト番号	port=2080
PACKAGE	Name	製品コード グループの名前	SERIES_1
	Version	内部バージョン番号の参照	1.000
	COMPONENTS	パッケージでサポートされる製品 コードのリスト	COMPONENTS= "526000REVIT_9_OF¥ 51200ACD_2013_OF¥ 513001INVBUN_11_OF"
	OPTIONS		OPTIONS=SUITE
	SUPERSEDE	同じライセンスサーバ上にある、定 義されている Issue Date 以前の日付 のライセンスファイルによりサポー トされている同じ製品コードの既存 の追加行を置き換えます	SUPERSEDE
	SIGN	ライセンス ファイルの属性を認証す るのに使用される、暗号化された署 名	SIGN=0 SIGN2=0
INCREMENT	Feature Code	ライセンスファイルによってサポー トされる製品	51200ACD_2013_OF

ライセンス ファイル パラメータの定義

行	パラメータ	定 義	例
	Expiration Date	ライセンスが使用可能な期間	permanent
	Number of Licenses	ライセンス ファイルによってサポートされるライセンスの数	25
	VENDOR_STRING	ライセンス ファイルがサポートしている製品のライセンス使用タイプとライセンス様式。	COMMERCIAL
	BORROW	同じ追加行で定義されているライセンスに対するライセンス借用期間の定義。 次の例では、ライセンスを借用できる最大期間は、他に明記されていない限り、4320 時間(180 日)です。 ライセンス ファイルでこのパラメータを指定していない場合は、ライセンス借用を使用できません。	BORROW=4320
	DUP_GROUP	1 台のホストで同じユーザが 1 つのライセンスを共有している場合に、複数ライセンスの定義が要求されます。	DUP_GROUP=UH
	ISSUED	オートデスクによってライセンス ファイルが生成された日付	15-jul-2012
	Serial Number	オートデスク製品のシリアル番号	123-12345678
	SIGN	ライセンス ファイルの属性を認証するのに使用される、暗号化された署名	SIGN=6E88EFA8D44C

ライセンスファイルの例

示されている例で明らかなように、オートデスク ネットワーク ライセンス ファイルの内容は、ライセンス サーバの環境設定とライセンス対象の製品を反映します。

製品に依存しないライセンスファイルの例

ライセンス ファイルの内容の例と、各行に関連付けられたパラメータを示します。

```
SERVER
ServerName HostID
USE_SERVER
VENDOR adskflex port=portnumber
INCREMENT feature_code Adskflex Version ExpDate
NumberofLicenses ¥
VENDOR_STRING=UsageType:Behavior BORROW=4320 SUPERSEDE ¥
DUP_GROUP=DupGrp ISSUED=IssueDate SN=SerialNumber SIGN= ¥
```

シングルライセンスサーバまたは分散ライセンスサーバのライセンスファイルの例

次に、シングル ライセンス サーバ モデルまたは分散ライセンス サーバ モデルの、完全なライセンス ファイルの例を示します。

```
SERVER SINSGH122SGJJ 183da2724cf4
USE_SERVER
VENDOR adskflex port=2080
INCREMENT 85730ACD_2012_OF adskflex 1.000 permanent 100 \
  VENDOR_STRING=nfr:permanent SUPERSEDE DUP_GROUP=UH \
  ISSUED=25-Jun-2012 BORROW=4320 SN=399-99999966 SIGN="1D58 0263 \
  29E9 78DD 2790 B0A9 2238 74BA 7E6D AED7 E11A D4FE 4581 420B \
  792A 12A2 59E5 7856 4AE2 B8E5 44AA 4AC7 9668 4C41 F978 52BD \
  C46D 256A 357F C7B3" SIGN2="11A6 8D57 8341 137E 339E A6C8 ECB7 \
  CEE8 71CB 59B7 1828 AF89 3225 7DC9 E03D 119B D75F 6A16 1863 \
  FEA1 7F54 5755 00A7 6C23 38D4 5BEE 75F6 AD2F C495 4C54"
```

冗長ライセンスサーバのライセンスファイルの例

次に、冗長ライセンスサーバモデルの完全なライセンスファイルの例を示します。

```
SERVER SINGSH122SGJJ 183da2724cf4 27005
SERVER asrdfxlicense2 2c27d733deee 27005
SERVER asrdfxlicense3 e83935466f9b 27005
USE_SERVER
VENDOR adskflex port=2080
INCREMENT 85730ACD_2012_OF adskflex 1.000 permanent 1 \
  VENDOR_STRING=nfr:permanent SUPERSEDE DUP_GROUP=UH \
  ISSUED=29-Oct-2012 BORROW=4320 SN=399-99999966 SIGN="06A8 BAB8 \
  EE47 32D3 71D0 9C92 9EB8 15E1 F726 F312 6865 D2D8 4E09 D03C \
  E6FD 114F C1B6 443F 897C 6945 4DAE 826E 32C7 A9B9 A989 D7CF \
  659D 3E8F 32DE 76BE" SIGN2="0814 5EF2 F731 F693 59C2 46B9 75A5 \
  D3AD E1AF 7F2F 80F8 AD10 B71E 3293 D27E 167E 8D0A CF29 93BB \
  9A6D EA28 4CC8 E9BC 653F 0F5B F040 CEBA 431A 4E0E A496"
```

注: 冗長サーバモデルには、さらにサーバごとにポート番号(既定は 27005)が必要になります。

複数製品バージョンを結合したライセンスファイルの例

同じオートデスク製品の複数バージョン向けに、または複数のオートデスク製品向けにライセンスファイルを結合することができ、1 台のライセンスサーバからすべての製品のライセンス管理を実行できます。

次に、AutoCAD 2012 および AutoCAD 2013 用に結合したライセンスファイルの内容の例を示します。

```
SERVER SINGSH122SGJJ 183da2724cf4
USE_SERVER
VENDOR adskflex port=2080
INCREMENT 85730ACD_2012_OF adskflex 1.000 permanent 100 \
  VENDOR_STRING=nfr:permanent SUPERSEDE DUP_GROUP=UH \
  ISSUED=25-Jun-2012 BORROW=4320 SN=399-99999966 SIGN="1D58 0263 \
  29E9 78DD 2790 B0A9 2238 74BA 7E6D AED7 E11A D4FE 4581 420B \
  792A 12A2 59E5 7856 4AE2 B8E5 44AA 4AC7 9668 4C41 F978 52BD \
  C46D 256A 357F C7B3" SIGN2="11A6 8D57 8341 137E 339E A6C8 ECB7 \
  CEE8 71CB 59B7 1828 AF89 3225 7DC9 E03D 119B D75F 6A16 1863 \
  FEA1 7F54 5755 00A7 6C23 38D4 5BEE 75F6 AD2F C495 4C54"
INCREMENT 85871ACD_2013_OF adskflex 1.000 permanent 1 \
  VENDOR_STRING=nfr:permanent SUPERSEDE DUP_GROUP=UH \
  ISSUED=29-Nov-2012 BORROW=4320 SN=399-99999966 SIGN="042D 792A \
  1ED0 EF3C EC47 8652 A99E 1203 4158 4610 75DA 2853 CD55 FBD8 \
  20E1 0277 C167 5A51 B81A 050C 51B6 7BCF B007 8CF8 E295 FCE1 \
  E2BC 0398 7184 4FC9" SIGN2="02F7 1B93 4AED 52BD 95E1 B82E BA37 \
  0F8B 8E9A 8628 1730 D0B5 0D62 B7E6 8050 070B C12C D328 7425 \
  8B10 E86D 8A42 2EA7 CD7A CA1E E533 B4FA 1D5C 8484 7456"
```

パッケージライセンスファイルの種類と例

オートデスクはパッケージライセンス ファイル オプションを提供しています。これにより、パッケージ化され、一緒に販売されている製品のスイートを使用することができます。パッケージ ライセンス ファイルには、ご使用のソフトウェアの4つの異なるバージョンに対するセット数のライセンスが含まれています。いずれかのバージョンのインスタンスを実行すると、パッケージ内の1つのライセンスが使用されます。パッケージライセンスファイルは、サブスクリプション ユーザの過去のバージョンにも対応しています。パッケージライセンス ファイルは、次のガイドラインに従います。

- パッケージ ライセンス ファイルは、ソフトウェアの現在のバージョンおよび同製品の過去3つのバージョンと一緒に提供されます。
- ライセンス ファイルは、別の製品のライセンス ファイルと結合することができます。ライセンス ファイルの結合の詳細は、「[複数のオートデスク製品バージョンを結合したパッケージ ライセンス ファイルの例 \(85 ページ\)](#)」を参照してください。
- パッケージライセンス ファイルは、パッケージに含まれている製品バージョンの非パッケージライセンスと結合することはできません。たとえば、オートデスク製品 2014 パッケージ ライセンス ファイルは、オートデスク製品 2013、2012、2011 の通常のライセンス ファイルと結合できません。
- ライセンス ファイルの PACKAGE と INCREMENT セクションの両方に、正常に動作するライセンスが必要です。ライセンス ファイルを結合する場合、これらのセクションが含まれていることを確認してください。
- ライセンス借用、オプション ファイル、およびライセンス カスケーディングは、パッケージライセンスに対しても、通常のライセンス ファイルに対する動作と同様に動作します。
- 古いライセンス ファイルは、新しいライセンス ファイルに置き換えます。

シングルライセンス サーバまたは分散ライセンス サーバのパッケージライセンス ファイルの例

次に、シングル ライセンス サーバ モデルまたは分散ライセンス サーバ モデルの、完全なパッケージ ライセンス ファイルの例を示します。

```

SERVER SINGH122SGJJ 183da2724cf4
USE_SERVER
VENDOR adskflex port=2080
PACKAGE 64300ACD_F adskflex 1.000 COMPONENTS="85871ACD_2013_OF \
85730ACD_2012_OF 85536ACD_2011_OF 71200ACD_2010_OF" \
OPTIONS=SUITE SUPERSEDE ISSUED=10-Oct-2012 SIGN="1A36 84F2 \
DEBD 4A0E 8A03 76E8 0977 4F8A 3B83 4FCB C7B5 9EC9 B9D7 EA3A \
FB49 0B7B 40E7 FD4D 57F3 6667 29EA BB1C 866A 4B76 5B35 31F0 \
B838 832A D49B 822D" SIGN2="1BF8 DD3A 1D6A 7843 D502 ADDA C9D1 \
BC89 9AB9 700D 72F6 B64A 3646 C0B8 0F9C 06CE 91E7 83C8 F236 \
2AC1 4EAA 08A2 B8C0 1ED9 3B77 09E6 B947 8D32 9AE7 93BE"
INCREMENT 64300ACD_F adskflex 1.000 permanent 100 \
VENDOR_STRING=nfr:permanent SUPERSEDE DUP_GROUP=UH \
SUITE_DUP_GROUP=UHV ISSUED=10-Oct-2012 BORROW=4320 \
SN=399-99999966 SIGN="095F 0CC1 48BF 7321 3F44 22F7 7A32 708C \
7A61 3D14 DE29 2863 E121 8E16 398F 14F1 EC82 7155 F271 F77D \
82D3 449D FCC5 E56B AB67 1643 C66A 93C4 7998 693B" SIGN2="0F4B \
DD07 5B6D 7402 60E8 7DA6 E651 8F71 BBC3 7E3F CA01 4DA4 7369 \
0561 18C1 1721 2736 E383 8D1F 43AF 8150 59E8 6AE5 8D63 785D \
BD33 302A EB8C B8B1 EFBF"

```

冗長サーバのパッケージライセンス ファイルの例

次に、冗長ライセンス サーバ モデルの完全なパッケージライセンス ファイルの例を示します。

```

SERVER SINGH122SGJJ 183da2724cf4 27005
SERVER asrdfslicense2 2c27d733deee 27005
SERVER asrdfslicense3 e83935466f9b 27005
USE_SERVER
VENDOR adskflex port=2080
PACKAGE 64300ACD_F adskflex 1.000 COMPONENTS="86063ACD_2014_OF \
85871ACD_2013_OF 85730ACD_2012_OF 85536ACD_2011_OF" \
OPTIONS=SUITE SUPERSEDE ISSUED=29-Nov-2012 SIGN="1EDE 3467 \
FE15 71AE 9ED9 11E4 D963 C97C A82F 15AC 740D D149 208D EA8D \
C8AB 166B 97F3 626C FD82 FEAA F2C2 062F 5B50 CEC3 1072 FC43 \
2649 FC74 751D 39E4" SIGN2="0D33 5BF3 3037 D67E A182 3AEE F915 \
B56C 25BD 8E7F 07F4 079C E27B A85C 487E 0AEC 9D91 7468 FBB8 \
2B9D BC81 B674 5E41 08DD 62B5 98F4 F0BF 6896 B93D D64D"
INCREMENT 64300ACD_F adskflex 1.000 permanent 1 \
VENDOR_STRING=nfr:permanent SUPERSEDE DUP_GROUP=UH \
SUITE_DUP_GROUP=UHV ISSUED=29-Nov-2012 BORROW=4320 \
SN=399-99999966 SIGN="1491 93E4 5C65 9F5B 33B0 8202 49F4 3489 \
C2D5 B1FD 8AD2 B417 E523 00FC 7642 1A8D F42E FAA6 A25E 2CBC \
14B8 4206 DD0C 1ECC 575E 474A 4057 4933 C2BD C8B0" SIGN2="1B68 \
9217 C0B9 00BF 63ED 88E2 A1D2 263C 9CAD E9D1 9E08 1D1F 8C2F \
0C26 03D6 0F61 ACCA 705B 3B63 E0E2 DFB8 EFF1 E9AD 7ACD 2F76 \
22CA 1197 5BFF 9EDD FA88"

```

複数のオートデスク製品バージョンを結合したパッケージライセンスファイルの例

次に、複数のオートデスク製品バージョンを結合したパッケージライセンスファイルの例を示します。

```
SERVER SINSGH122SGJJ 183da2724cf4
USE_SERVER
VENDOR adskflex port=2080
PACKAGE 64300ACD_F adskflex 1.000 COMPONENTS="85871ACD_2013_OF \
85730ACD_2012_OF 85536ACD_2011_OF 71200ACD_2010_OF" \
OPTIONS=SUI TE SUPERSEDE ISSUED=10-Oct-2012 SIGN="1A36 84F2 \
DEBD 4A0E 8A03 76E8 0977 4F8A 3B83 4FCB C7B5 9EC9 B9D7 EA3A \
FB49 087B 40E7 FD4D 57F3 6667 29EA B81C 866A 4B76 5835 31F0 \
B838 832A D49B 822D" SIGN2="1BF8 DD3A 1D6A 7843 D502 ADDA C9D1 \
BC89 9AB9 700D 72F6 B64A 3646 C088 0F9C 06CE 91E7 83C8 F236 \
2AC1 4EAA 08A2 B8C0 1ED9 3B77 09E6 B947 8D32 9AE7 93BE"
INCREMENT 64300ACD_F adskflex 1.000 permanent 100 \
VENDOR_STRING=nfr:permanent SUPERSEDE DUP_GROUP=UH \
SUITE_DUP_GROUP=UHV ISSUED=10-Oct-2012 BORROW=4320 \
SN=399-99999966 SIGN="095F 0CC1 48BF 7321 3F44 22F7 7A32 708C \
7A61 3D14 DE29 2863 E121 8E16 398F 14F1 ECB2 7155 F271 F77D \
82D3 449D FCC5 E56B AB67 1643 C66A 93C4 7998 693B" SIGN2="0F4B \
DD07 5B6D 7402 60E8 7DA6 E651 8F71 BBC3 7E3F CA01 4DA4 7369 \
0561 18C1 1721 2736 E383 8D1F 43AF 8150 59E8 6AE5 8D63 785D \
BD33 302A EB8C B8B1 EFBF"
PACKAGE 66800REVIT_F adskflex 1.000 COMPONENTS="85862REVIT_2013_OF \
85747REVIT_2012_OF 85587REVIT_2011_OF 74100REVIT_2010_OF" \
OPTIONS=SUI TE SUPERSEDE ISSUED=29-Nov-2012 SIGN="1E2B 1C36 \
EC18 1B8F 1278 7DAA 2028 794B D267 2AD2 06D0 B53D F2EF A548 \
5875 0E33 80B0 79C9 0727 5969 1FDA 9470 82AE 3436 9E88 F7B7 \
73F2 21A4 6ECC 0A7B" SIGN2="1484 1D14 FDD0 CCC5 ABC7 8175 9BFA \
56B6 EB0A B1FA F032 1A51 7A37 420A C411 16AE BE57 0198 990C \
673C AFF4 E0EE 03D9 E4DD 4CCB B5DF CCB7 D839 083E 22D6"
INCREMENT 66800REVIT_F adskflex 1.000 permanent 1 \
VENDOR_STRING=nfr:permanent SUPERSEDE DUP_GROUP=UH \
SUITE_DUP_GROUP=UHV ISSUED=29-Nov-2012 BORROW=4320 \
SN=399-99999966 SIGN="14BF 7CC1 69C5 152A 7F1C 8D2A BEBD A1B9 \
A1BA A535 358B 1ADF 4AB8 9D83 2304 1373 0CD7 917F 082B C214 \
B5D9 B475 2B9A 394B 2315 E9AA 6115 FF79 E1B6 CB29" SIGN2="047B \
CCC2 1BFD 09B7 C349 F26A 86B5 4C1F 433E BA3B A03C 4552 8E5F \
6D29 4843 0A5D 5220 D503 F77C 316F 0049 37B8 E996 EDB9 C99A \
560F B014 D558 969B 7818"
```

ライセンスサーバへの接続の消失

オートデスク製品の実行中、製品は「ハートビート」信号と呼ばれる方式を使用して、ライセンスサーバと定期的に通信します。ハートビート信号が消失すると、ライセンスサーバは再度接続しようとします。再度接続できない場合、ユーザはライセンスエラーを受け取ります。

サーバとの接続が切断されたために製品が停止した場合は、製品を終了して再起動する必要があります。ほとんどのオートデスク製品では、終了する前に、開いているドキュメントを保存する機会があります。ハートビート信号消失の原因となっている問題が解決され、サーバでライセンスが使用可能になれば、オートデ

スク製品を再起動することができます。ライセンス サーバの接続が失われたときにいくつかのオートデスク製品が実行されていた場合、通常は製品の設定に基づいて、製品ごとにエラーメッセージがそれぞれの遅延時間後に表示されます。

Network License Manager を実行する

Network License Manager は、ライセンス サーバを環境設定し管理するために使用します。配置を作成するとき、インストーラからライセンス サーバ モデルとサーバ名など、ライセンス管理に関する情報を尋ねられます。

Network License Manager をインストールする

重要: リモート ドライブに Network License Manager をインストールしないでください。Network License Manager ファイルをインストールする場合は、ローカル ドライブ上のパスを指定する必要があります。UNC(Universal Naming Convention)は使用できません。 ドライブ名を指定してください。

Network License Manager は、それを使用する製品のインストール前、またはインストール後にインストールすることができます。Network License Manager は、起動して製品がライセンスを取得できるようにする前に、ライセンス サーバを環境設定する必要があります。

旧バージョンの Network License Manager がコンピュータにインストールされている場合は、まずそれをアンインストールした後に新しい Autodesk Network License Manager をインストールしてください。

Windows での操作手順

- Autodesk インストーラの[ツールとユーティリティ]パネルから Network License Manager をインストールします。

Mac OS X での操作手順

- 1 製品のインストール メディア、またはダウンロードしたパッケージの NetworkLicenseManager フォルダに移動します。

2 次のいずれかの操作を行います。

- (DVD または USB) Network License Manager パッケージ アイコンをダブルクリックします。
- (ダウンロード) Network License Manager .dmg をダブルクリックし、次に Network License Manager パッケージ アイコンをダブルクリックします。

[Autodesk NLM のインストール]ウィザードが表示されます。

- 3 **[続ける]**をクリックしてインストールを開始し、次にインストーラの指示に従って Network License Manager ツールをインストールします。
- 4 インストールに成功したというメッセージが表示されたら**[閉じる]**をクリックします。

既定では、Network License Manager ツールは、 /usr/local/flexnetserver フォルダにインストールされます。また、ライセンス サーバの設定に役立つスクリプトが、 /Library/StartupItems/adsknlm フォルダにインストールされます。

Linux での操作手順

- 1 スーパー ユーザとしてシェルを開きます(su - を使用)。
- 2 製品のインストール メディアの NetworkLicenseManager に移動するか、ダウンロードした圧縮ファイルから Network License Manager パッケージを解凍します。
- 3 Network License Manager をインストールするには、次のコマンドを入力します。

```
rpm -ivh adlmflexnetserver-#.rpm
```

ここで # はパッケージ番号です。

サーバのホスト名とホスト ID を取得する

オートデスクはサーバ ホスト名、ホスト ID、製品シリアル番号をもとにライセンス ファイルを作成します。

情報を取得するには、次のいずれかの方法を使用します。

Windows コマンドプロンプトでホスト名とホスト ID を取得するには

- 1 Windows のコマンド プロンプトに対し、**ipconfig /all** と入力します。
- 2 ホスト名と物理アドレス行を記録します。物理アドレスのダッシュは除去してください。このアドレスが 12 文字のホスト ID となります。

注: ご使用のサーバに複数のネットワークアダプタがある場合は、物理ネットワークアダプタに適合するものを1つ選択します。それぞれの物理アドレスの上の[説明]フィールドを確認します。複数の物理ネットワークアダプタがある場合、どのアダプタを使用するかは重要ではありません。VPN アダプタ、PPP アダプタ、モデムなどのデバイスは有効ではありません。

- 3 Windows コマンド プロンプトを終了します。

LMTOOLS ユーティリティを使用してホスト名とホスト ID を取得するには

重要: リモート コンピュータで LMTOOLS を実行しないでください。

LMTOOLS を使用する場合は、管理者の権利でログインする必要があります。

- 1 [スタート] ► [プログラム]または[すべてのプログラム] ► [Autodesk] ► [Network License Manager] ► [LMTOOLS Utility]を選択します。
- 2 LMTOOLS ユーティリティで、[System Settings]タブを選択します。
- 3 [Computer/Hostname]ボックスに移動します。ホスト名をコピーして、テキスト エディタに貼り付けます。
- 4 [Ethernet Address]フィールドに注目します。12 文字のイーサネット アドレスが、ホスト ID です。

注: ご使用のサーバに複数のネットワークアダプタがある場合は、物理ネットワークアダプタに適合するものを1つ選択します。複数のネットワークカードを備えた Mac OS X コンピュータを使用している場合、プライマリネットワークカードのアドレスを使用する必要があります。

- 5 LMTOOLS を閉じます。

Mac OS X または Linux ターミナルウィンドウを使用してホスト名とホスト ID を取得するには

- 1 [ターミナル]ウィンドウを起動します。

- 2 `lmutil` がインストールされているフォルダに移動します。
- 3 [ターミナル]で次のように入力して、ホスト名を取得します。

```
<prompt>./lmutil lmhostid -hostname
```

ホスト名が表示されます。

- 4 [ターミナル]で次のように入力して、ホスト ID を取得します。

```
<prompt>./lmutil lmhostid
```

12 文字のホスト ID が表示されます。

- 5 ターミナル ウィンドウを閉じます。

ライセンス サーバを環境設定する

オートデスク製品のライセンスを管理するには、ライセンス サーバを環境設定します。

重要: ライセンス サーバとクライアント コンピュータの間にファイアウォールが存在する場合は、ライセンス関連の通信のために、いくつかの TCP/IP ポートを開く必要があります。**adskflex** のためにポート 2080 を、**lmgrd** のためにポート 27000 から 27009 を開いてください。

ライセンス サーバの環境設定には、次のいずれかの方法を使用します。

LMTOOLS ユーティリティを使用する場合は、管理者権限でログインする必要があります。

注: ライセンス サーバを実行している場合は、システムのメンテナンスを実行する前に停止する必要があります。詳細は、「[ライセンス サーバを停止して、再起動する \(102 ページ\)](#)」を参照してください。

LMTOOLS でライセンス サーバを環境設定するには

- 1 次のいずれかの操作を行います。
 - **Windows 7 または XP:** [スタート] ➤ [すべてのプログラム] ➤ [Autodesk] ➤ [Network License Manager] ➤ [LMTOOLS ユーティリティ]をクリックします。
 - **Windows 8:** スタート画面を右クリック ➤ [すべてのアプリ] ➤ [LMTOOLS ユーティリティ]。

- 2 LMTOOLS ユーティリティの[Service/License File]タブで、[Configuration using Services]オプションがアクティブであることを確認します。
- 3 [Config Services]タブを選択します。
- 4 サービス名の一覧で、ライセンス管理に使用するサービス名を選択します。
既定のサービス名は、**Flexlm Service 1** です。ご使用のコンピュータでオートデスク製品以外のソフトウェアも FLEXnet® で管理している場合は、名前の衝突を避けるため、サービス名を変更することができます。たとえば、**Flexlm Service 1** を **Autodesk Server1** に変更できます。

注: ライセンス管理に FLEXnet を使用するソフトウェアが複数ある場合は、この[Service Name]リストにも複数のオプションが表示されます。オートデスクのサービスだけがリストされるようにしてください。
- 5 [Path to the lmgrd.exe file]フィールドに、Network License Manager デーモン(**lmgrd.exe**)のパスを入力するか、[Browse]をクリックしてファイルの場所を指定します。
このデーモンは、既定では **C:\Program Files\Autodesk Network License Manager** フォルダにインストールされます。
- 6 [Path to the license file]ボックスで、パスを参照して指定するか入力します。
autodesk.com で取得したライセンス ファイルのパスまたはオフラインで取得したライセンス パスの場所を指定します。
- 7 [Path to the debug log file]ボックスに、デバッグ ログのパスを入力するか、[Browse]をクリックして既存のログ ファイルを指定します。
C:\Program Files\Autodesk Network License Manager フォルダに保存することをお勧めします。ログファイルの拡張子は必ず **.log** にしてください。新しいログ ファイルを指定するときに、拡張子 **.log** を省略することはできません。
- 8 **lmgrd.exe** をサービスとして実行するには、[Use Services]チェック ボックスをオンにします。
- 9 システムの起動時に **lmgrd.exe** を自動的に開始するには、[Start Server at Power Up]チェック ボックスをオンにします。
- 10 [Save Service]ボタンをクリックし、手順 4 で選択したサービス名で新しい環境設定を保存します。サービスの設定を保存しますかという確認に対して、[はい]をクリックします。

- 11 [Start/Stop/Reread]タブをクリックして、次のいずれかの操作を行います。
- オートデスク製品用にサービスがまだ設定されていない場合には、[Start Server]ボタンをクリックして、ライセンス サーバを起動します。
 - オートデスク製品用にサービスが既に設定され、起動している場合は、ライセンス ファイルやオプション ファイルの変更を Network License Manager に反映させるために、[ReRead License File]をクリックしてください。

ライセンス サーバが起動し、クライアント要求に応答できる準備ができます。

12 LMTOOLS を閉じます。

オートデスク製品の中には、この手順の一部を自動化するスクリプトが提供されているものがあります。詳細は、『インストレーション ヘルプ』の「製品の補足」を参照してください。

Mac OS® X のライセンス サーバを環境設定する前に、以下の内容が完了していることを必ず確認してください。

- ファイル **lmgrd**、**adskflex**、**lmutil** を含む Autodesk Network License Manager がインストールされている。
- たとえば **productlicense.lic** というような製品ライセンスを含むネットワーク ライセンスをオートデスクから取得している。

注: ご使用のライセンス サーバのシステム管理を行う前に、「[ライセンス サーバを停止して、再起動する](#) (102 ページ)」を参照してください。

Mac OS X ライセンス サーバの自動スタートアップを環境設定するには

- 1 ホーム フォルダの下に**flexnetserver**とい名前のフォルダを作成します(例: **/usr/local/flexnetserver**)。
- 2 ファイル **lmgrd**、**adskflex**、**lmutil** および使用している製品のライセンス ファイル(.lic)を、手順 1 で作成した **flexnetserver** フォルダに移動します。
- 3 そのフォルダが存在しない場合は、**/Library** の下に **StartupItems** フォルダを、**sudo** コマンドを使用して作成します。たとえば、**sudo mkdir StartupItems** とします。
- 4 たとえば **/Users/<ユーザ ID>/adsknlm** というように、スタートアップ項目フォルダを作成します。
- 5 [ターミナル]で次のように入力して、たとえば **adsknlm** というような実行形式スクリプト ファイルを作成します。

注: 実行形式ファイルの名前は、フォルダ名と同じでなければなりません。

```
#!/bin/sh
./etc/rc.common

StartService() {
  ConsoleMessage "Starting Autodesk Network License
  Manager"
  /usr/local/flexnetserver/lmgrd -c¥
  /usr/local/flexnetserver/productlicense.lic -l¥
  /usr/local/flexnetserver/debug.log
}

StopService() {
  ConsoleMessage "Stopping Autodesk Network License
  Manager"
  /usr/local/flexnetserver/lmutil lmdown -q -all -force
}

RestartService() {
  ConsoleMessage "Restarting Autodesk Network License
  Manager"
  /usr/local/flexnetserver/lmutil lmreread -c
  /usr/local/flexnetserver/productlicense.lic
}

RunService "$1"
```

- 6 スクリプトの実行権を承認するために、[ターミナル]に次のように入力します。

```
chmod +x adsknlm
```

- 7 **StartupParameters.plist** という名前のプロパティ リスト ファイルを作成し、[ターミナル]に次のように入力して、直接追加します。

```
{
  Description="Autodesk Network License Manager";
  Provides=("adsknlm")OrderPreference    ="None";
  Messages={start=
    "Starting Autodesk Network Manager Service";
  stop=
    "Stopping Autodesk Network Manager Service";
};}
```

- 8 スタートアップ項目を **/Library/StartupItems/** に移動し、[ターミナル]に次のように入力してフォルダのアクセス権(パーミッション)を変更します。

注: セキュリティの理由により、スタートアップ項目は、ルートがオーナーでなければならず、グループは **wheel** に設定されていなければなりません。また、フォルダのアクセス権は **755** でなければなりません。

```
sudo mv /Users/<user id>/adsknlm/  
/Library/StartupItems/  
sudo chown root /Library/StartupItems/adsknlm/  
sudo chgrp wheel /Library/StartupItems/adsknlm/  
sudo chmod 755 /Library/StartupItems/adsknlm/  
sudo chown root /Library/StartupItems/adsknlm/*  
sudo chgrp wheel /Library/StartupItems/adsknlm/*
```

- 9 生成されたフォルダは次のようになります。

```
drwxr-xr-x  
4 root wheel 136 Jul 31 01:50drwxr-xr-x  
3 root wheel 102 Jul 30 01:21:59-rw-r--r--  
1 root wheel 204 Jul 30 20:16  
StartupParameters.plist-rwxr-xr-x  
1 root wheel 417 Jul 31 00:45 adsknlm
```

- 10 ご使用の Mac を再起動し、**debug.log** ファイル (**/Users/<ユーザ ID>/NLG/Imgrd** と **adskflex** が正常に起動されることを確認します。

注: ご使用のライセンス サーバのシステム管理を行う前に、「[ライセンス サーバを停止して、再起動する \(102 ページ\)](#)」を参照してください。

Linux のライセンス サーバを環境設定する前に、以下の内容が完了していることを必ず確認してください。

- ファイル **Imgrd**、**adskflex**、**Imutil** を含む Autodesk Network License Manager がインストールされている。
- たとえば **productlicense.lic** というような製品ライセンスを含むネットワーク ライセンスをオートデスクから取得している。

Linux ライセンス サーバの自動スタートアップを環境設定するには

- 1 FLEXnet IPv4 サーバー ファイルを、**/opt/flexnetserver** フォルダに解凍します。
- 2 **.lic** ファイルを、手順 1 で作成した **flexlm1** フォルダにコピーします。

- 3 ターミナル ウィンドウをルート モードで開きます。
- 4 **/etc/**ディレクトリに移動します。
- 5 **rc.local** ファイルを探します。
- 6 ターミナル ウィンドウに次のコマンドを入力して、**rc.local** ファイルを編集し、**lmgrd** を起動します。

注: **acad.lic** は、自身のライセンス ファイル名に置き換えてください。

```
/bin/su <user id> -c 'echo starting lmgrd>¥  
/opt/flexnetserver/boot.log'  
  
/usr/bin/nohup/bin/su <user id> -c 'umask 022;¥  
/opt/flexnetserver/lmgrd -c¥  
/opt/flexnetserver/acad.lic >> ¥  
/opt/flexnetserver/boot.log `  
/bin/su <user id> -c 'echo sleep 5 >> ¥  
/opt/flexnetserver/boot.log `  
  
/bin/sleep 5  
  
/bin/su <user id> -c 'echo lmdiag >>¥  
/opt/flexnetserver/boot.log `  
/bin/su <user id> -c '/opt/flexlm11.11/lmutil lmdiag  
-n -c¥  
/opt/flexnetserver/acad.lic >> ¥  
/opt/flexnetserver/boot.log `  
/bin/su <user id> -c 'echo exiting >>¥  
/opt/flexnetserver/boot.log `
```

- 7 編集した **rc.local** ファイルを保存します。
- 8 コンピュータを再起動し、**lmgrd** と **adskflex** が開始されたことを、次のいずれかによって確認します。
 - 再起動の間に、ライセンス サーバが開始されたことを示すメッセージを確認する。
 - **/opt/flexnetserver/** に作成された **boot.log** ファイルを調べ、**lmgrd** と **adskflex** が開始されたことを確認する。

Network License Manager をアンインストールする

Network License Manager をアンインストールする前に、ライセンス サーバを停止しなければなりません。詳細は、「[ライセンス サーバを停止、再起動する](#) (102 ページ)」を参照してください。

アンインストールの前または後で、ログ ファイル、ライセンス ファイル、オプション ファイルなど、Network License Manager が使用したファイルを手動で削除してください。Network License Manager をアンインストールしても、これらのファイルは自動的に削除されません。

Windows での操作手順

- 1 次のいずれかの操作を行います。
 - **Windows 7 または XP:** [スタート] ➤ [すべてのプログラム] ➤ [Autodesk] ➤ [Network License Manager] ➤ [LMTOOLS ユーティリティ]をクリックします。
 - **Windows 8:** スタート画面を右クリック ➤ [すべてのアプリ] ➤ [LMTOOLS ユーティリティ]。
- 2 LMTOOLS ユーティリティで、[Start/Stop/Reread]タブを選択して、[Stop Server]をクリックします。
- 3 LMTOOLS を閉じます。
- 4 Windows の[コントロール パネル]で、プログラム リストから[Autodesk Network License Manager]を選択し、[削除]または[アンインストール]をクリックします。
- 5 プロンプトが表示されたら、コンピュータを再起動します。

Mac OS X での操作手順

- 1 次のフォルダを削除します。
 - /usr/local/flexnetserver/
 - /Library/StartupItems/adsknlmこれによって、ライセンス サーバの設定に役立つ環境設定スクリプトだけでなく、メイン ライセンス サーバ ツールも削除されます。
- 2 コンピュータを再起動します。

Linux での操作手順

- 1 スーパー ユーザとしてシェルを開きます。
- 2 次のコマンドを実行して、インストールした Network License Manager のパッケージ番号を確認します。

```
rpm -qa |grep adlm
```

- 3 次のコマンドを実行して、Network License Manager パッケージをアンインストールします。

```
rpm -e adlmflexnetserver-#.rpm
```

ここで # はパッケージ番号です。

- 4 ライセンス サーバを環境設定するために rc.local ファイルを編集した場合 (たとえば、lmgrd を起動するなど)、それらのコマンドは rc.local ファイルから削除します。

ネットワークライセンスの他の機能を使用する

ライセンスを借用する

ネットワーク ライセンス バージョンのオートデスク製品を使用し、ネットワーク管理者がライセンス借用機能を提供している場合に、ネットワーク環境の外でオートデスク製品を使用するために、指定された期間、ネットワーク ライセンス サーバから製品のライセンスを借用することができます。ライセンスを借用するときに設定した借用期限になると、ライセンスは自動的にライセンス サーバに返却されます。期限前にライセンスを返却することもできます。最大借用期間は 6 カ月です。

注: ライセンス借用は、スタンドアロン ライセンスには適用されません。

注: ライセンスの最大数まで借用することができます。ライセンスを借用しようとして使用可能なライセンスがないと表示された場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

ライセンスを借用

ネットワークに接続されていなくても、借用したライセンスを使用して、指定された期間オートデスク製品を実行することができます。借用ライセンスの期限を覚えていなくても、次の2つの方法で日付を調べることができます。[ヘルプ]

▶ [バージョン情報]をクリックして[製品のライセンス情報]ダイアログ ボックスを調べるか、製品によっては、ステータス トレイ(画面の右下コーナー)の[借用]アイコン上にカーソルを移動します。

借用期限になると、借用ライセンスは自動的にライセンス サーバに返却されます。コンピュータを再びネットワークに接続すると、オートデスク製品をネットワークで実行したり、ライセンスを再び借用することができます。

他のライセンス借用ツールとの関係

ライセンスを借用する方法として、オートデスク製品のライセンス借用機能の使用をお勧めします。一部のサードパーティの借用ツールも使用できますが、それらのツールは、ご使用のオートデスク製品のライセンス借用に対応していなかったり、互換性がない可能性があります。その他のサポートされているライセンス借用ツールには、オートデスク ライセンス借用ユーティリティ(オートデスク製品に同梱)と、Windows サーバの Autodesk Network License Manager のコンポーネントである LMTOOLS ユーティリティのライセンス借用機能があります。

他のライセンス借用ツールがアクティブなときにライセンス借用機能を使用するには、次の手順でオートデスク製品のライセンスを借用する必要があります。

- オートデスク製品に同梱されているオートデスク ライセンス借用ユーティリティを実行し、借用フラグ オプションとして[Adeskflex]か[All]を選択した場合には、オートデスク製品の起動時にライセンスを借用することができます。しかし、オートデスク製品を終了して再起動するまで、ライセンスを返却することはできません。
- Windows サーバで、LMTOOLS ユーティリティで借用がすべての製品向けに設定されている場合、オートデスク製品のライセンス借用に他のツールを使用するか、LMTOOLS ユーティリティの借用処理を停止して、オートデスク製品のライセンス借用機能を使用します。
- オートデスク以外の製品のみに対して LMTOOLS ユーティリティが設定されている場合は、LMTOOLS ユーティリティの借用処理を停止してください。これにより、ライセンス借用機能を使用して、オートデスク製品のライセンスを借用できるようになります。LMTOOLS ユーティリティの借用処理を停止しなければ、ライセンス借用機能は機能しません。

[ツール]メニューを使用してライセンスを借用するには

このオプションは、すべてのオートデスク製品で使用できるとは限りません。

- 1 [ツール]メニュー ► [ライセンスを確認] ► [ライセンスを借用]を選択します。
- 2 [ライセンスを借用]ウィンドウのカレンダー上でライセンス返却日をクリックします。
ネットワーク管理者が設定した有効な期間内で日付を指定する必要があります。有効期間はこのウィンドウに表示されます。
- 3 [ライセンスを借用]ボタンをクリックします。
- 4 [ライセンスは借用されました]メッセージ ボックスで[閉じる]をクリックします。これでライセンスが借用され、ネットワークに接続していなくてもオートデスク製品を使用できるようになります。

注: 一部の製品では、オートデスク製品の右下隅にあるステータス トレイの借用アイコンにカーソルを合わせることで、ライセンスが借用されていることを確認できます。

[ヘルプ]メニューを使用してライセンスを借用するには

- 1 [ヘルプ] ► [バージョン情報] ► [製品情報]または[製品ライセンス情報]を選択します。
- 2 [製品のライセンス情報]ダイアログ ボックスで、[ライセンスを借用]ボタンをクリックします。
- 3 [ライセンスを借用]ウィンドウのカレンダー上でライセンス返却日をクリックします。
ネットワーク管理者が設定した有効な期間内で日付を指定する必要があります。有効期間はこのウィンドウに表示されます。
- 4 [ライセンスを借用]ボタンをクリックします。
- 5 [ライセンスは借用されました]メッセージ ボックスで[閉じる]をクリックします。これでライセンスが借用され、ネットワークに接続していなくてもオートデスク製品を使用できるようになります。

BORROWLICENSE[ライセンス借用]コマンド

このコマンドを使用して、ネットワーク ライセンス サーバから製品のライセンスを借用します。借用したライセンスを使用して、ネットワークに接続されていなくても、オートデスク製品を実行することができます。このコマンドへのアクセス方法は製品ごとに異なり、次の 1 つまたは複数のアクセス オプションが利用できます。

[ツール]メニュー: [ライセンス確認] ➤ [ライセンスを借用]

[ヘルプ]メニュー: [バージョン情報] ➤ [製品情報]または[製品ライセンス情報]
➤ [ライセンスを借用]

コマンド ライン: borrowlicense

次のオプションが配置された[ライセンスを借用]ウィンドウが表示されます。

カレンダー ライセンス返却予定日を設定します。ネットワーク管理者が設定した有効な期間内で返却日を指定する必要があります。

ライセンスを借用 指定した返却日に基づいて、ネットワーク ライセンス サーバからライセンスを借用します。

[キャンセル] 借用操作をキャンセルします。ライセンスは借用しません。

ライセンスを返却する

借用されたライセンスの借用期限になると、ネットワーク ライセンスは自動的にネットワーク ライセンス サーバに返却されます。期限前にライセンスを返却することもできますが、これを行うには、ご使用のコンピュータがネットワーク ライセンス サーバに接続されている必要があります。

借用ライセンスを返却すると、ネットワーク ライセンス サーバに接続しているときにライセンスを再び借用できるようになり、サーバ上のライセンスが有効になります。

借用したライセンスを期限前に返却するには

このコマンドへのアクセス方法は製品ごとに異なり、次の 1 つまたは複数のアクセス オプションが利用できます。

■ [ツール]メニュー ➤ [ライセンスを確認] ➤ [ライセンスを期限前に返却]を選択します。

- [ヘルプ]メニュー ➤ [バージョン情報] ➤ [製品情報]または[製品ライセンス情報]を選択します。[製品のライセンス情報]ダイアログ ボックスで、[ライセンスを返却]ボタンをクリックし、[はい]をクリックします。
- ステータス トレイで、ライセンス借用アイコンを右クリックし、[ライセンスを期限前に返却]を選択します。

注: 製品でステータス トレイのライセンス借用コマンドへのアクセスがサポートされている場合は、この方法で借用したライセンスを期限前に返却できますが、ステータス トレイの表示設定をオンにしておく必要があります。表示設定をオンにするには、ステータス バーの空き領域を右クリックし、[トレイの設定]を選択します。

ライセンスがネットワーク ライセンス サーバに返却されます。

ライセンス期限を確認するには

このコマンドへのアクセス方法は製品ごとに異なり、次の 1 つまたは複数のアクセス オプションが利用できます。

- ステータス トレイで、[ライセンス借用]アイコンを右クリックします。
- [ヘルプ]メニュー ➤ [バージョン情報] ➤ [製品情報]または[製品ライセンス情報]を選択します。[製品のライセンス情報]ダイアログ ボックスで、[ライセンスの期限]を確認します。

RETURNLICENSE[ライセンス返却]コマンド

このコマンドは、借用したオートデスク製品のライセンスを、ライセンスを借用するときに指定した返却日の前に返却するときに使用します。このコマンドへのアクセス方法は製品ごとに異なり、次の 1 つまたは複数のアクセス オプションが利用できます。

[ツール]メニュー: [ライセンス確認] ➤ [ライセンスを期限前に返却]

[ヘルプ]メニュー: [バージョン情報] ➤ [製品情報]または[製品ライセンス情報] ➤ [ライセンスを返却]

ステータス トレイ: ライセンス借用アイコンを右クリックし、[ライセンスを期限前に返却]を選択します。

コマンド ライン: returnlicense

FLEXnet 環境設定ツール

Network License Manager は、Flexera Software™ の FLEXnet® ライセンス管理テクノロジーを使用しています。FLEXnet はネットワーク ライセンスの管理を簡単に行うための管理用ツールを提供します。FLEXnet ツールを使用すると、ネットワーク ライセンスの状態を監視したり、システム障害の発生で失われたライセンスをリセットしたり、ライセンス サーバのトラブルシューティングを行ったり、既存のライセンス ファイルを更新することができます。

FLEXnet 環境設定ツールの使用に関する詳細な情報は、次のフォルダ内の「**ライセンス管理ガイド**」を参照してください。

- **Windows:** C:\Program Files\Autodesk Network License Manager\Docs\FlexUser\LicenseAdministration.pdf
- **Mac OS X:** /usr/local/flexnetserver/LicenseAdministration.pdf
- **Linux:** /opt/flexnetserver/LicenseAdministration.pdf

Windows ライセンス サーバ管理ユーティリティ

FLEXnet はライセンス サーバを管理する 2 つのユーティリティを提供します。これらのツールの既定の場所は、次のフォルダ内です。 **C:\Program Files\Autodesk\Autodesk Network License Manager**

LMTOOLS ユーティリティ (lmtools.exe) Microsoft® Windows のグラフィカル ユーザ インタフェースを使用してライセンス サーバの管理を行います。

lmutil.exe コマンド ライン オプションを使用してライセンス サーバの管理を行います。

LMTOOLS または **lmutil.exe** を使用して、次のサーバ管理作業を行うことができます。

- サーバを起動、停止、再起動する。
- ライセンス ファイルの設定、更新、再読み込みを行う。
- システムまたはライセンスの問題を診断する。
- アクティブなライセンスの状態など、サーバの状態を表示する。

ライセンスサーバを停止して、再起動する

ライセンスサーバのシステム管理(Autodesk License Manager のアンインストールを含む)を行う前に、ライセンスサーバを停止しなければなりません。システム管理が完了したら、ライセンスサーバを再起動します。

LMTOOLS ユーティリティを使用する場合は、管理者権限でログインする必要があります。

Windows ライセンスサーバを停止するには

- 1 次のいずれかの操作を行います。
 - **Windows 7 または XP:** [スタート] ➤ [すべてのプログラム] ➤ [Autodesk] ➤ [Network License Manager] ➤ [LMTOOLS ユーティリティ]をクリックします。
 - **Windows 8:** スタート画面を右クリック ➤ [すべてのアプリ] ➤ [LMTOOLS ユーティリティ]。
- 2 LMTOOLS ユーティリティで、[Service/License File]タブを選択します。
- 3 [Configuration using Services]オプションを選択します。
- 4 手動で停止するライセンスサーバのサービス名を選択します。
- 5 [Start/Stop/Reread]タブを選択します。
- 6 [Stop Server]をクリックします。
- 7 LMTOOLS を閉じます。

Windows ライセンスサーバを再起動するには

- 1 次のいずれかの操作を行います。
 - **Windows 7 または XP:** [スタート] ➤ [すべてのプログラム] ➤ [Autodesk] ➤ [Network License Manager] ➤ [LMTOOLS ユーティリティ]をクリックします。
 - **Windows 8:** スタート画面を右クリック ➤ [すべてのアプリ] ➤ [LMTOOLS ユーティリティ]。
- 2 LMTOOLS ユーティリティで、[Service/License File]タブを選択します。
- 3 [Configuration using Services]オプションを選択します。
- 4 手動で開始するライセンスサーバのサービス名を選択します。

5 [Start/Stop/Reread]タブを選択します。

6 [Start Server]をクリックしてライセンス サーバを再起動します。

標準の自動ライセンス サーバには、別の手順が必要です。ここでは、両方のバージョンを示します。

Mac OS ライセンス サーバを停止するには

[ターミナル]で次のように入力します。

```
./lmutil lmdown -q -force
```

Mac OS ライセンス サーバを再起動するには

[ターミナル]で次のように入力します。

```
./lmgrd -c acad.lic -l debug.log
```

自動 Mac OS ライセンス サーバを停止するには

[ターミナル]で次のように入力します。

```
sudo  
/sbin/SystemStarter stop adsknlm
```

自動 Mac OS ライセンス サーバを再起動するには

[ターミナル]で次のように入力します。

```
sudo  
/sbin/SystemStarter restart adsknlm
```

Linux ライセンス サーバを停止するには

[ターミナル]で次のように入力します。

```
./lmutil lmdown -q -force
```

Linux ライセンス サーバを再起動するには

[ターミナル]で次のように入力します。

```
./lmgrd -c acad.lic -l debug.log
```

注: **acad.lic** は自身のライセンス ファイル名に、**debug.log** は自身のログ ファイル名に置き換えてください。

旧バージョンの FLEXnet を更新する

オートデスク 2014 製品では、FLEXnet version 11.11.0.0 以降が必要です。現在 FLEXnet の旧バージョンを使用している場合は、更新する必要があります。

注: Autodesk Network License Manager をインストールする予定のサーバに、他の製品用の FLEXnet が既にインストールされている場合には、**lmgrd.exe** (Windows)または **lmgrd** (Mac または Linux)を最新バージョンに更新しなければなりません。

インストールされている FLEXnet のバージョンを調べるには、次のファイルのバージョンを確認する必要があります。

- **lmgrd.exe**
- **lmtools.exe**
- **lmutil.exe**
- **adskflex.exe**

LMTOOLS ユーティリティを使用する場合は、管理者権限でログインする必要があります。

Windows ツールのファイルバージョンを確認するには

- 1 次のいずれかの操作を行います。
 - **Windows 7 または XP:** [スタート] ➤ [すべてのプログラム] ➤ [Autodesk] ➤ [Network License Manager] ➤ [LMTOOLS ユーティリティ]をクリックします。
 - **Windows 8:** スタート画面を右クリック ➤ [すべてのアプリ] ➤ [LMTOOLS ユーティリティ]。
- 2 LMTOOLS ユーティリティで、[Utilities]タブを選択します。
- 3 ファイルの場所を入力するか、[Browse]ボタンでファイルを検索して、[開く]をクリックします。既定のファイルの場所は、次のとおりです。

C:\Program Files\Autodesk\Autodesk Network License Manager\lmutil.exe

- 4 [Find Version]をクリックします。

選択したファイルのバージョン番号が表示されます。必要な場合は、次の手順に従って FLEXnet のバージョンを更新してください。

Windows で FLEXnet を更新するには

- 1 ライセンス ファイルをバックアップします。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - **Windows 7 または XP:** [スタート] ➤ [すべてのプログラム] ➤ [Autodesk] ➤ [Network License Manager] ➤ [LMTOOLS ユーティリティ]をクリックします。
 - **Windows 8:** スタート画面を右クリック ➤ [すべてのアプリ] ➤ [LMTOOLS ユーティリティ]。
- 3 LMTOOLS ユーティリティで、[Start/Stop/Reread]タブを選択します。
- 4 [Stop Server]をクリックします。
- 5 LMTOOLS を閉じます。
- 6 Network License Manager がインストールされている場所を記録し、次に Network License Manager をアンインストールします。Network License Manager をアンインストールする方法については、「[Network License Manager をアンインストールする \(95 ページ\)](#)」を参照してください。
- 7 Network License Manager をインストールします。Network License Manager を、旧バージョンと同じ場所にインストールする方法については、「[Network License Manager をインストールする \(86 ページ\)](#)」を参照してください。
- 8 次のいずれかの操作を行います。
 - デスクトップの LMTOOLS アイコンをダブルクリックします。
 - **Windows 7 または XP:** [スタート] ➤ [すべてのプログラム] ➤ [Autodesk] ➤ [Network License Manager] ➤ [LMTOOLS ユーティリティ]をクリックします。
 - **Windows 8:** スタート画面を右クリック ➤ [すべてのアプリ] ➤ [LMTOOLS ユーティリティ]。
- 9 LMTOOLS ユーティリティで、[Start/Stop/Reread]タブを選択します。
- 10 [Start Server]をクリックします。
- 11 LMTOOLS を閉じます。

インストールされている FLEXnet のバージョンを調べるには、次のファイルのバージョンを確認する必要があります。

- **lmgrd**
- **lmutil**
- **adskflex**

注: オートデスク製品に同梱されている FLEXnet ライセンス マネージャ バージョン 11.11.0.0 は下位互換性があり、バージョン 2002 から 2014 までの製品のライセンスも管理できます。バージョン 2005 より古いオートデスク製品はサポートされなくなったことにご注意ください。

Mac OS X または Linux ツールのバージョンを確認するには

FLEXnet ファイルをインストールする場合、ご使用のユーザ ID と同じユーザ ID を使用してログインする必要があります。たとえば、**/Users/<userid>/adsknlm** (Mac OS X) または **/home/<userid>/adsknlm** (Linux)。

ターミナル ウィンドウ/プロンプトで、次のようにコマンドを入力します。

```
<prompt>./lmutil -v
<prompt>./lmgrd -v
<prompt>./adskflex -v
```

それぞれのコマンドの出力は、次の例のようになります。

```
Copyright
© 1989-2010 Macrovision Europe Ltd. And/or Macrovision
Corporation.
All Rights reserved.
lmutil v11.5.0.0 build 56285 i86_mac10
```

Mac OS X で FLEXnet を更新するには

この操作には管理者権限が必要です。FLEXnet は、flexnetserver マージモジュール実行時に **/usr/local/flexnetserver** にインストールされます。

- 1 ライセンス ファイルをバックアップします。
- 2 [ターミナル]で次のように入力して、Autodesk Network License Manager サービスを停止します。

```
sudo ./lmutil lmdown -q -force
```

- 3 Network License Manager がインストールされている場所を記録し、次に、たとえば **rm** などの標準 Mac OS X コマンドを入力して Network License Manager をアンインストールします。
- 4 Network License Manager をインストールします。
- 5 [ターミナル]で次の文字列を入力して、Autodesk Network License Manager サービスを開始します。

注: 文字列内の **product.lic** と **debug.log** は、実際のライセンス ファイル名とログ ファイル名に置き換えてください。

```
sudo ./lmgrd -c product.lic -l debug.log
```

Linux で FLEXnet を更新するには

この操作には管理者権限が必要です。FLEXnet は、flexnetserver マージモジュール実行時に `/opt/flexnetserver` にインストールされます。

- 1 ライセンス ファイルをバックアップします。
- 2 [ターミナル]で次のように入力して、Autodesk Network License Manager サービスを停止します。

```
./lmutil lmdown -q -force
```

- 3 Network License Manager がインストールされている場所を記録し、次に、たとえば **rm** などの標準 Linux コマンドを入力して Network License Manager をアンインストールします。
- 4 Network License Manager をインストールします。新しいバージョンの FLEXnet network license manager ファイル(lmgrd、adskflex、lmutil)を、ライセンス サーバを環境設定したときの推奨場所にコピーします。たとえば、`/home/<ユーザ ID>/adsknlm`。
- 5 [ターミナル]で次の文字列を入力して、Autodesk Network License Manager サービスを開始します。

注: 文字列内の **product.lic** と **debug.log** は、実際のライセンス ファイル名とログ ファイル名に置き換えてください。

```
./lmgrd -c product.lic -l debug.log
```

オプション ファイルをセットアップして使用する

オプション ファイルを使用して、ライセンス サーバのライセンス管理方法を決
定する環境設定オプションを設定します。オプション ファイルには、ライセン
ス ファイルを読み取って **lmgrd** プログラムを実行するパラメータを設定しま
す。

それぞれのサーバ上のオプション ファイルによって、そのサーバのライセンス
処理方法が指定されます。オプション ファイルの内容を管理することにより、
すべてのライセンス サーバが同じ動作を行うように指定したり、サーバ間に特
定の違いを持たせることができます。

注: オプション ファイルを変更してライセンス サーバに反映させる場合は、オ
プション ファイルを保存してから、ライセンス ファイルを再度読み込みます。

オプション ファイルを使用して、次のサーバ関連機能のパラメータを設定しま
す。

- レポート ログ ファイル
- ライセンスを借用する
- ライセンス タイムアウト

ライセンスの予約、ライセンス使用の制限、ユーザ グループの定義などの高度
なパラメータを設定することもできます。これらのオプションは、ライセンス
プールが正しくユーザ間で共有またはカスケードされていないことを発見したと
きに特に便利です。詳細は、オートデスクの[サービス & サポート] Web ページ
「[オプション ファイルを使用してネットワーク ライセンス アクセスをコント
ロールするには](#)」を参照してください。

オプション ファイルの高度なパラメータ設定の詳細は、FLEXnet のドキュメン
ト『[ライセンス管理ガイド](#)』を参照してください。このドキュメントは、ライセ
ンス サーバの Network License Manager フォルダにインストールされていま
す。

オプション ファイルを作成する

注: オプション ファイルを変更してライセンス サーバに反映させる場合は、オ
プション ファイルを保存してから、ライセンス ファイルを再度読み込みます。

Windows プラットフォームでオプション ファイルを作成するには

LMTOOLS ユーティリティを使用する場合は、管理者権限でログインする必要があります。

- 1 テキスト エディタを開き、目的のパラメータを入力します。次に、このドキュメントをファイル名 **adskflex.opt** としてライセンス ファイルが保存されている場所に保存します。

注: 必ず拡張子をつけてファイルを保存してください。**.opt** を付けて保存してください。既定の拡張子 **.txt** は、Network License Manager では認識されません。

- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - **Windows 7 または XP:** [スタート] ➤ [すべてのプログラム] ➤ [Autodesk] ➤ [Network License Manager] ➤ [LMTOOLS ユーティリティ] をクリックします。
 - **Windows 8:** スタート画面を右クリック ➤ [すべてのアプリ] ➤ [LMTOOLS ユーティリティ]。
- 3 LMTOOLS ユーティリティで、[Start/Stop/Reread] タブを選択して、[ReRead License File] をクリックします。
- 4 LMTOOLS を閉じます。

Mac OS X または Linux プラットフォームでオプション ファイルを作成するには

- 1 テキスト エディタを開き、目的のパラメータを入力します。次に、このドキュメントをファイル名 **adskflex.opt** としてライセンス ファイルが保存されている場所に保存します。

注: 必ずファイルに拡張子 **.opt** を付けて保存してください。既定の拡張子 **.txt** は、Network License Manager では認識されません。

- 2 [ターミナル] ウィンドウを起動し、Autodesk Network License Manager フォルダに移動し、次のように文字列を入力します。

```
./lmutil lmreread -c @hostname-all
```

- 3 [ターミナル] ウィンドウを閉じます。

レポート ログを作成する

オプションファイルで、レポート ログ ファイルを作成することができます。レポート ログ ファイルは、ライセンス活動の使用レポートが記載された、圧縮および暗号化されたファイルです。

レポート ログを作成するには

- 1 テキスト エディタで、オプション ファイル(**adskflex.opt**)を開きます。
- 2 オプションファイルに、独立行として次の構文を入力します(REPORTLOG は大文字)。

REPORTLOG [+]*report_log_path*

- **Windows の例:** REPORTLOG +"c:¥My Documents¥report.rl" という構文は、**report.rl** という名前のレポート ログが **c:¥My Documents** フォルダに格納されることを意味します。
- **Mac OS X または Linux の例:** REPORTLOG +"/Users/<user id>/NLM/report.rl" という構文は、**report.rl** という名前のレポート ログが **/Users/<user id>/NLM** フォルダに格納されることを意味します。

注: スペースを含むパス名は、クォーテーションマークで囲んでください。

REPORTLOG 構文内の "[+]" は、作成するログ ファイルへのエントリが、Network License Manager を再起動するたびに置き換えられるのではなく追加されることを意味します。このオプションを使用して、ログ項目の履歴を保持することをお勧めします。

オプションファイルでライセンス借用の環境設定を行う

オートデスク製品がライセンス借用機能をサポートしている場合は、オプションファイルを使用してライセンス借用オプションを環境設定できます。たとえば、ご使用のネットワークから貸し出せるライセンスの最大数をいつでも定義できます。さらに、どのユーザにオートデスク製品のライセンスを貸し出すかを定義します。ライセンスは人間に割り当てられます。コンピュータに割り当てられるものではありません。

ライセンス借用の詳細は、「[ライセンスの借用](#)」(96 ページ)を参照してください。

注: オートデスク製品のライセンスが冗長ライセンス サーバプールから貸し出されている場合は、Network License Manager を停止した後にライセンス サーバを再起動する必要があります。

借用期間が終了すると、借用ライセンスは借用者のコンピュータで自動的に無効になり、再度ライセンス サーバ上で使用可能になります。ライセンスは、借用期間が終了する前に返還することもできます。

ライセンス借用パラメータを設定するには

- 1 オプション ファイルに、独立行として次の構文を入力します (BORROW_LOWWATER は大文字)。

BORROW_LOWWATER feature_code n

BORROW_LOWWATER 構文内の "feature_code" は、ライセンス ファイル内の製品名、"n" はサーバに残っていなければならないライセンスの最低数です。この数に達すると、それ以上ライセンスを借用できなくなります。

たとえば、BORROW_LOWWATER Autodesk_f1 3 という構文は、製品 Autodesk_f1 に対するもので、ライセンス サーバに 3 ライセンスのみが残っている場合、借用できるライセンスはありません。

- 2 後続の行に次の構文を入力します (MAX_BORROW_HOURS は大文字)。

MAX_BORROW_HOURS feature_code n

この構文で、"n" は、ライセンスを貸し出すことができる時間数です。

たとえば、MAX_BORROW_HOURS Autodesk_f1 360 という構文は、Autodesk_f1 という製品に対して、360 時間(15 日)貸し出せることを意味します。

注: ライセンスは、24 時間単位で貸し出されます。24 の倍数ではない数値の場合、最も近い倍数に切り捨てられます。たとえば 125 は、120 時間(5 日)に切り捨てられます。

ライセンス借用機能のセットアップの詳細は、FLEXnet のドキュメントを参照してください。Windows サーバの場合、ドキュメントの既定のインストール場所は、**C:\Program Files\Autodesk\Autodesk Network License Manager** フォルダです。Mac OS X または Linux サーバの場合、ドキュメントは Network License Manager フォルダにインストールされます。

注: オートデスク製品でライセンスを借用するには、[ヘルプ] ► [バージョン情報]または[<製品名> バージョン情報] ► [製品情報]または[製品ライセンス情報] ► [ライセンスを借用]を選択します。または、製品のコマンドラインに **borrowlicense** と入力します。この機能についてのヘルプは、[<製品名>用のライセンスを借用]ウィンドウおよび **C:¥Program Files¥<製品名>¥Help¥adsk_brw.chm** ファイルで利用可能です。

ライセンスタイムアウトをセットアップする

オプション ファイル内でライセンス タイムアウトを設定することで、ライセンス サーバからライセンスの返還を要求される前に、製品のセッションをアイドル状態にしておける時間を決定します。オプション ファイル内にこのフラグを設定すると、定義したタイムアウト時間以上、コンピュータ上で製品がアイドル状態になると、ユーザのライセンスはライセンス サーバから返還を要求されます。

重要: ライセンス タイムアウトは、すべてのオートデスク製品でサポートされているわけではありません。

ユーザのライセンスがアイドル タイムアウトのために失われた場合、ユーザが再度製品を使用すると、製品は新しいライセンスの要求を試みます。ライセンスが使用できない場合、ユーザは製品を終了する前に作業を保存できます。

TIMEOUT パラメータを使用して、ご使用のコンピュータ上のそれぞれのオートデスク製品の個々のライセンス タイムアウトを設定したり、TIMEOUTALL を使用して、ご使用のコンピュータ上のすべてのオートデスク製品の 1 つのライセンス タイムアウトを設定することができます。

ライセンスタイムアウトパラメータを設定するには

- 個々のオートデスク製品に対して設定する場合: オプション ファイルに、独立行として次の構文を入力します(TIMEOUT は大文字)。

TIMEOUT feature_code n

TIMEOUT 構文では、"feature_code" は製品名(ライセンス ファイルの INCREMENT 行で参照されます)で、"n" はライセンス サーバが非アクティブのライセンスを返還要求するまでの秒数です。

たとえば、構文 `TIMEOUT Autodesk_f1 7200` は、製品 `Autodesk_f1` に対して、ライセンス タイムアウト期間を 7200 秒(2 時間)に設定します。

- すべてのオートデスク製品に対して設定する場合: オプション ファイルに、独立行として次の構文を入力します(TIMEOUTALL は大文字)。

TIMEOUTALL n

TIMEOUTALL 構文で、"n" はライセンス サーバから無効になったライセンスの返還を要求されるまでの秒数です。

たとえば、構文 `TIMEOUTALL 7200` は、すべてのオートデスク製品に対して、ライセンス タイムアウト期間を 7200 秒(2 時間)に設定します。

ライセンス タイムアウトの使用法の詳細は、FLEXnet のドキュメント『[ライセンス管理ガイド](#)』を参照してください。Windows サーバの場合、ドキュメントの既定のインストール場所は、**`C:\Program Files\Autodesk\Autodesk Network License Manager`** フォルダです。Mac OS X または Linux サーバの場合、ドキュメントは Network License Manager フォルダにインストールされます。

ネットワークライセンスに関するよくある質問と回答

このセクションでは、ソフトウェアのライセンスと製品のライセンス取得に関する一般的な質問とその解決方法の概要を説明します。より詳細なアドバイスや支援が必要な場合は、[製品サポート情報](#) にアクセスし、ご使用の製品名をクリックして、ご使用の製品の知識ベースで検索してください。

スタンドアロン ライセンスとネットワーク ライセンスの違いは何ですか?

スタンドアロン ライセンスは、個々のユーザの 1 つまたは複数のオートデスク製品をサポートします。同様に、マルチシート スタンドアロン ライセンスは、一定数のユーザをサポートします。ソフトウェアを複数のコンピュータにインストールできますが、ライセンスされたユーザ数を超えることはできません。

ネットワーク ライセンスは、ネットワークに接続されたユーザの指定された最大数をサポートします。ソフトウェア ユーティリティの Network License

Manager(NLM)が、購入ライセンスの最大数までユーザにライセンスを発行します。現時点では、購入ライセンス数を超えるコンピュータでは、ライセンスがNLM に返却されるまではオートデスク製品を実行できません。

ネットワーク ライセンス バージョンのソフトウェアを使用するメリットは何ですか？

ネットワーク ライセンスを使用すると、大きな設計事務所や教室など、多くのユーザに対応しなければならない環境で、ライセンスを容易に管理することができます。Network License Manager でライセンスの登録、アクティベーション、ユーザへの配布など、ライセンスを集中的に管理できます。ネットワーク ライセンスの主な利点の 1 つは、購入したライセンス数以上のコンピュータに製品をインストールできることです。たとえば、25 のライセンスを購入し、利便性をよくするために 40 台のコンピュータにインストールできます。製品は、購入したライセンス数分のコンピュータで同時に実行できます。つまり、本格的なフローティング ライセンスとして使用できます。また、ネットワーク ライセンスシステムでは、ユーザは有効期間中であれば、ネットワークに接続していないコンピュータでライセンスを借用して使用できるように環境設定することもできます。

インターネットを使用してライセンスを取得するには？

ライセンスのアクティベーションプロセスを完了するには、インターネット コミュニケーションが必要です。オートデスク製品のインストール時にインターネットに接続されていない場合、指定された期間、通常は 30 日間、試用モードで操作できます。ソフトウェアのアクティベーションを選択し、登録データを入力すると、ご使用のコンピュータはインターネットを介してオートデスクに接続されます。ユーザのためにアクティベーション コードが提供され、製品のダイアログボックスのフィールドに入力されます。インターネットは、Web サイトへのアクセスのオーソライズ、サービスパックのダウンロード、製品サポートメッセージの送信など、他の目的でのオートデスクとの情報交換にも使用されます。

IPv6でNetwork License Managerを使用できますか?

オートデスク製品と一緒に配布される Network License Manager の標準バージョンは、インターネット プロトコル バージョン 4 (IPv4)を使用しているネットワーク用に設計されています。IPv6 ネットワークでの使用に対応したバージョンは、次のオートデスク Web サイトからダウンロードすることができます。

- www.autodesk.com/licensetools
- www.autodesk.com/nlm-ipv6-windows
- www.autodesk.com/nlm-ipv6-mac
- www.autodesk.com/nlm-ipv6-linux

Autodesk Navisworks 2014 のインストールの 補足情報

4

このセクションでは、次の Autodesk Navisworks ソフトウェアのインストール、環境設定、およびライセンス固有の情報について説明します。

- Autodesk Navisworks Manage
- Autodesk Navisworks Simulate
- Autodesk Navisworks Freedom
- Autodesk Navisworks ファイル エクスポータ

動作環境

ハードウェアとソフトウェアの動作環境については、次のセクションを参照してください。

スタンドアロン環境の動作環境

- Microsoft® Windows® 8 (64 ビット)または Microsoft Windows 7 (32 ビットまたは 64 ビット) (Service Pack 1) Home Basic、Home Premium、Professional、Enterprise、または Ultimate (推奨)
- Intel® Pentium® 4 または AMD Athlon™ 3.0 GHz 以上、SSE2 テクノロジ対応
- 512 MB の RAM (最低)、2 GB 以上の RAM (推奨)
- インストール用として 30 GB 以上のハード ディスク空き容量

- Direct3D 9[®] および OpenGL[®] 対応の、Shader Model 2 をサポートするグラフィックス カード(最小)
- True Color 対応 1,280 × 800 VGA ディスプレイ(1,920 × 1,080 のモニタ、32 ビット ビデオ ディスプレイ アダプタ推奨)
- Microsoft 2 マウス ボタン互換のポインティング デバイス
- Microsoft[®] Internet Explorer[®] 7.0 以降

配置の動作環境

管理イメージ格納場所のハードウェアとソフトウェア要件

- 10 GB 以上のハード ディスク

クライアント コンピュータのハードウェアとソフトウェア要件

- Microsoft[®] Windows[®] 8 (64 ビット)または Microsoft Windows 7 (32 ビットまたは 64 ビット)(Service Pack 1) Home Basic、Home Premium、Professional、Enterprise、または Ultimate (推奨)
- Intel[®] Pentium[®] 4 または AMD Athlon™ 3.0 GHz 以上、SSE2 テクノロジー対応
- 512 MB の RAM (最低)、2 GB 以上の RAM (推奨)
- インストール用として 30 GB 以上のハード ディスク空き容量
- Direct3D 9[®] および OpenGL[®] 対応の、Shader Model 2 をサポートするグラフィックス カード(最小)
- True Color 対応 1,280 × 800 VGA ディスプレイ(1,920 × 1,080 のモニタ、32 ビット ビデオ ディスプレイ アダプタ推奨)
- Microsoft 2 マウス ボタン互換のポインティング デバイス
- Microsoft[®] Internet Explorer[®] 7.0 以降

Network License Manager のハードウェアとソフトウェアの動作環境(Windows)

- Microsoft[®] Windows[®] 8 または Microsoft Windows 7 (Service Pack 1)
- Intel[®] Pentium[®] 3 以上、450 MHz (最低)
- 既存のイーサネット ネットワーク インフラストラクチャに準拠するネットワーク インタフェース カード

注: Network License Manager は、イーサネット ネットワーク環境のみに対応しています。

- TCP/IP 通信プロトコル

注: Network License Manager は TCP パケット タイプを使用します。

- FLEXnet 11.10.0.0

概要 - Language Pack

各 Autodesk 製品は既定の言語でインストールされます。Language Pack とは、一部のオートデスク製品で使用される、ユーザ インタフェースおよびドキュメンテーションを別の言語で表示するための仕組みです。各 Language Pack には、指定した言語で作業するユーザをサポートする文字列とドキュメントのみが含まれます。コア製品ソフトウェアは含まれていません。

インストールされている他の言語で Autodesk Navisworks を実行するには、デスクトップ ショートカットに言語選択用の引数を追加する必要があります。これを可能にするには、Autodesk Navisworks のインストールプロセスで、少なくとも 1 つの Language Pack がインストールされている必要があります。

Language Pack のサイズは約 200 MB なので、短時間でインストールとアンインストールを実行できます。インストールされている 1 つの製品で複数の言語に対応しているため、必要なときに言語を切り替えることができます。

注: Microsoft Windows 7 は、Language Pack を使用する上で最も安定したプラットフォームです。Windows XP の場合、表示の問題が発生することがあります。最良の結果を得るには、Windows の言語設定と、オートデスク製品の Language Pack を一致させる必要があります。

Autodesk Navisworks を別の言語で実行するには

- 1 Autodesk Navisworks のデスクトップ ショートカットを右クリックし、ショートカット メニューの[プロパティ]を選択して Autodesk Navisworks の[プロパティ]ダイアログ ボックスを開きます。
- 2 [ショートカット]タブで、[ターゲット]フィールドの ***roamer.exe** の後にスペースを入力し、次の引数のいずれかを入力してください。
 - **-lang en-US**: 英語表示にする場合
 - **-lang de-DE**: ドイツ語表示にする場合
 - **-lang es-ES**: スペイン語表示にする場合
 - **-lang fr-FR**: フランス語表示にする場合

- **-lang it-IT:** イタリア語表示にする場合
- **-lang ja-JP:** 日本語表示にする場合
- **-lang ko-KR:** 韓国語表示にする場合
- **-lang pt-BR:** ブラジル ポルトガル語表示にする場合
- **-lang ru-RU:** ロシア語表示にする場合
- **-lang zh-CN:** 中国語(簡体字)表示にする場合

ショートカットの構文は、"drive:pathname¥roamer.exe" -lang [language pack] になります。たとえば、次のように入力すると、プログラムが Autodesk Navisworks というフォルダからイタリア語で起動します。"C:¥Autodesk Navisworks¥roamer.exe" -lang it-IT

注: 製品を別の言語で実行するには、その言語に対応する Language Pack が既にインストールされている必要があります。

3 **[OK]**をクリックして変更を保存します。

Language Pack をアンインストールする

Language Pack は、メインの製品をアンインストールせずにアンインストールできます。ただし、製品と一緒にインストールされた既定の言語は、個別にアンインストールすることはできません。

Language Pack は、製品をアンインストールするのと同じ方法でアンインストールできます。Windows の[コントロール パネル]から製品の一覧を表示し、アンインストールする Language Pack を選択します。

ファイルエクスポート

Autodesk Navisworks には、ファイルエクスポートが用意されており、ネイティブ Autodesk Navisworks ファイルを CAD アプリケーションで直接作成することができます。

ファイルエクスポートは、Autodesk Navisworks をインストールしていなくてもインストールまたは配置できます。

注: Autodesk Navisworks Freedom をインストールまたは配置していない場合は、ファイル エクスポートを使用できません。

Autodesk Navisworks のアンインストールに関する情報

Autodesk Navisworks をアンインストールする場合、作成したり編集したファイル(図面やカスタム メニュー)など、一部のファイルがコンピュータに残ります。

製品をアンインストールしても、ライセンス ファイルはご使用のワークステーションに残ります。同じコンピュータに再インストールする場合は、ライセンス情報は有効なままなので、再度製品のアクティベーションを行う必要はありません。インストールおよびライセンスの詳細については、Autodesk Navisworks [サポート サイト](#)を参照してください。

重要: レジストリ クリーニング プログラムを使用したり、レジストリ エントリを独自に変更して、Autodesk Navisworks をアンインストールしないでください。正式なアンインストール手順に従わないと、ソフトウェアを再インストールできなくなることがあります。

索引

記号

.NET 3.5 Framework 17

A

AdLM (Network License Manager) 86

adskflex (オートデスク ベンダー デーモン) 76

Adskflex オプション 97

Autodesk

Network License Manager 86

ライセンス借用ユーティリティ 97

ライセンス転送ユーティリティ 62

B

BORROWLICENSE [ライセンス借用] コマンド 99

D

DirectX 9.0C 37

E

Ethernet アドレス 87

F

FLEXnet ツール 101

オプション ファイル 108, 110

更新 104

ドキュメント 110

I

IPv6 115

L

Linux

Network License Manager の動作環境 74

環境設定, ライセンス サーバを 93

サーバのホスト名と ID を取得 88

lmgrd (ライセンス管理デーモン) 76

LMTOOLS ユーティリティ 89, 97, 101

サーバのホスト名と ID を取得 88

lmtools.exe ユーティリティ 101

lmutil.exe ユーティリティ 101

M

Mac OS X

Network License Manager の動作環境 75

環境設定, ライセンス サーバを 91

サーバのホスト名と ID を取得 88

Microsoft Installer Patch ファイル 20, 50

Microsoft System Center Configuration Manager 37, 39

Microsoft Windows

Network License Manager の動作環境 72

環境設定, ライセンス サーバを 89

MSP ファイル 20, 50

N

Network License Manager

アップグレード 86

アンインストール, Windows 95

インストール 86

概要 86

割り当て, ライセンスを 76
Norton Ghost 44

P

Permanent ライセンス 56

R

RETURNLICENSE [ライセンス返却] コマンド 100

Revit Interoperability 36

S

SAMreport-Lite 48

SATA RAID 環境 44

SCCM (System Center Configuration Manager) 37

SCCM アンインストール 42

SCCM パッケージ 39

Student Portfolio ライセンス 56

T

TCP/IP 名 87

Term Extendable ライセンス 56

Term Non-Extendable ライセンス 56

W

Web ベースのインストール 9

Windows

Network License Manager の動作環境 72

環境設定, ライセンス サーバを 89

サーバのホスト名と ID を取得 88

Windows 8 2, 17

あ

アクティベーション 7, 9

アクティベーション, プログラムを 57, 65

新しいライセンス機能 55

アップグレード, Network License Manager 86

アドバタイズ, 配置を 31

アンインストール, Windows の Network License Manager 95

アンインストール, 製品を 11, 52

い

今すぐインストール 9, 57

インストール, Network License Manager 86

インストール ログ 7

インストール処理の図 1

インストレーション

アドバタイズ, 配置を 31

確認, 配置を 36

カスタマイズ 19

既定の設定 51

グループ ポリシー 31

サービス パック 20

修復, 破損したインストレーションを 46

種類 17

ソフトウェアの配置 15

ツールとユーティリティ 51

ディスク イメージ作成ソフトウェア 44

ネットワーク配置 15

バッチ ファイル 28

復元, オペレーティング システム 46

インストレーションの更新 1

インストレーション パス, 変更 51

インポート, ライセンスを

転送ファイル 65

え

エクスポート, ライセンスを

転送ファイル 64

お

オートデスク

製品

アクティベーション 57

使用, ネットワーク外で 96

オプション ファイル

作成 108

タイムアウトの設定 112

ライセンス借用設定 110

レポート ログの設定 110

オプション ファイル(FLEXnet ツール) 108

オペレーティング システム

復元 46

オペレーティング システム, 再インストール 67

オペレーティング システムの選択 7

か

書き出す, ライセンスを 62

学生版ライセンス 58

確認, グループ ポリシー配置を 36

カスタマイズした配置 19, 23

カスタム設定 6

環境設定 6, 19

既定の 51

ライセンス サーバ 89

Linux 93

Mac OS X 91

Windows 89

オプション ファイル 108

ライセンス借用 110

管理イメージ 7, 49

ショートカット 26

き

期間限定ライセンス エラー 69

既定のインストール ショートカット 51

教育機関限定ライセンス 56

切り替え, ライセンスの種類を 10

く

クライアント コンピュータ

確認, 配置を 36

復元, マスター システム 46

割り当て, 配置を 33

クリーンアップ, ハードディスク 46

グループ ポリシー 31

確認, 配置を 36

グループ ポリシー オブジェクト(GPO) 33

け

結合された製品バージョン

パッケージ ライセンス ファイルの

例 85

ライセンス ファイルの例 82

言語 3, 4

言語パック 15

言語パック, 追加 33

こ

更新, FLEXnet ツール 104

コピー

ライセンス 62, 67

コマーシャル ライセンス 56

さ

サードパーティ ライセンス ツール 97

サーバ

停止と再起動 102

ホスト名と ID 87

ライセンス サーバ 86, 89

Linux 環境設定 93

Mac OS X 環境設定 91

Windows 環境設定 89

サービス パック 20, 50

再アクティベーション, ライセンスの 67
再インストール, オペレーティング システム 67
再インストール, 製品を 52
再起動, Windows ライセンス サーバ
を 102
サイレント モード 7
削除, 配置を 27

し

時刻と日付, システム 68
システム日時 68
システム要件, Network License Manager
Linux 74
Mac OS X 75
Windows 72
実行, バッチ ファイルを 31
借用, ライセンスを 96, 97
環境設定 110
返却, ライセンスを 99
修復, 製品を 11
試用中ライセンス 56
冗長ライセンス サーバ 5, 71
パッケージ ライセンス ファイルの
例 84
ライセンス ファイルの例 82
冗長ライセンス サーバ モデル 18
情報センター 10
使用目的に応じたライセンス 56
ショートカット, 管理イメージの 26
初期化, コンピュータのディスクを 69
シリアル番号 2, 9
シリアル番号, 更新 61
新機能 1
シングル ユーザ ライセンス 56, 59
シングル ライセンス サーバ 5, 70
パッケージ ライセンス ファイルの
例 83
ライセンス ファイルの例 81
シングル ライセンス サーバ モデル 18

す

スイート 9
スタンドアロン インストレーション
選択 17
ディスク イメージ作成ソフトウェア
と 44
バッチ ファイル 28
スタンドアロン ライセンス 3, 47, 56, 59

せ

制限, ライセンスの数 96
製品の設定 6

そ

ソース フォルダ, SCCM の 38
ソフトウェア要件, Network License
Manager
Linux 74
Mac OS X 75
Windows 72

た

タイムアウト, ネットワーク ライセン
ス 112
ダウンロード マネージャ 9, 57

つ

ツールとユーティリティ 3
ツールとユーティリティ, インストール 51

て

ディスク イメージ作成ソフトウェア配
置 44
デーモン
ベンダー デーモン 76

- ライセンス管理デーモン 76
- デュアル プラットフォーム配置 25
- 転送, ライセンスの 62
- 転送, ライセンスを 62
- 転送ファイル
 - インポート 65
 - エクスポート 64

と

- 動作環境 2
- ドキュメントへのリンク 2

な

- 名前の付いたユーザ 56, 62
- ナレッジベース 8, 47

に

- 日時, システム 68

ね

- ネットワーク インストレーション
 - グループ ポリシー 31
 - 種類 17
 - ディスク イメージ作成ソフトウェア配置 45
 - 配置 15
 - パッチ ファイル 28
- ネットワーク管理の新機能 13
- ネットワーク共有
 - 作成 22
 - 場所 48
- ネットワーク ライセンス 3, 47, 48, 56
 - アクセスをコントロール 108
 - 使用レポート 48, 110
 - タイムアウト 112

- ネットワーク ライセンス インストレーション
 - 選択 17
 - ディスク イメージ作成ソフトウェア配置 45
 - ファイアウォール 51
 - ライセンス借用 110
 - ライセンス様式 108
- ネットワーク ライセンス サーバ
 - サードパーティ ライセンス ツール 97
 - 借用, ライセンスを 96, 97
 - 制限, ライセンスの数 96
 - 返却, ライセンスを 99

は

- ハードウェア認定 2
- ハードウェアの変更, ライセンス エラーと 67
- ハードウェア要件, Network License Manager
 - Linux 74
 - Mac OS X 75
 - Windows 72
- ハードディスク, クリーンアップ 46
- ハートビート信号 85
- 配置 68
 - 3ds Max および Max Design 36
 - Inventor 36
 - Showcase 36
 - アドオン 20
- 概要 14
- 確認, インストレーションを 36
- カスタマイズした 19
- グループ ポリシー 31
- 結合 25
- 作成 23
- 修正 26, 49
- 新機能 13
- チェックリスト 15
- ディスク イメージ作成ソフトウェア 44

- 配分 31, 44
- パッチ ファイル 28
- フォルダの場所 48
- 方法 27
- 問題 47
- 割り当て 31, 33
- 配置解除 27
- 配布, ソフトウェア イメージを 68
- パッケージ ライセンス ファイル 83
- パッチ ファイル 15, 27
 - サンプル 28
 - 実行 31
 - 配置, プログラムを 28
- パブリック ライセンス 64

ひ

- 非売品ライセンス 56
- 表示, 製品のライセンス情報を 60
- 標準設定 6

ふ

- ファイアウォール 89
- ファイアウォールとライセンス サーバ 51
- 復元
 - オペレーティング システム 46
 - 破損したインストールを 46
- 物理アドレス 87
- プライベート ライセンス 64
- プロファイル, ユーザ 49
- 分散ライセンス サーバ 5, 70
 - ライセンス ファイルの例 81
- 分散ライセンス サーバ モデル 18

へ

- 返却, 借用したライセンスを 97, 99
- 返却日, ライセンスの 97
- ベンダー デーモン 76

ほ

- ホスト名と ID 87
 - LMTOOLS での手順 88
 - Mac または Linux での手順 88
 - Windows での手順 88

ま

- マスター イメージ 44, 45, 46
- マスター システム 46
- マルチシート スタンドアロン インストレーション 44
- マルチシート スタンドアロン ライセンス 56, 59

ゆ

- 有効期限, ライセンスの 97
- ユーザ プロファイルの設定 49

よ

- 用語集 53
- 読み込む, ライセンスを 62

ら

- ライセンス 56, 96, 108
 - FLEXnet ツール 101
 - Network License Manager 86
 - インポート 65
 - エクスポート 64
 - カスケード 77
 - 機能の概要 76
 - 共有 77
 - サブスクリプション 77
 - 種類 56
 - シングルユーザ 59
 - スタンドアロン 56, 59
 - タイムアウト 108, 112

- ディスク初期化, コンピュータの 69
 - 転送 62, 65, 67
 - 登録 58
 - ネットワーク 56
 - 返却 100
 - マルチシート スタンドアロン 56, 59
 - 問題 113
 - 様式(期限) 108
 - ライセンス サーバ 89
 - ライセンス ファイル 78
 - 割り当て 76
 - ライセンス管理ガイド 101, 112
 - ライセンス管理デモン 76
 - ライセンス期間 62
 - ライセンス サーバ
 - Network License Manager 86
 - Windows 102
 - Windows 管理ユーティリティ 101
 - 環境設定 89
 - Linux 93
 - Mac OS X 91
 - Windows 89
 - オプション ファイル 108
 - サードパーティ ライセンス ツール 97
 - 借用, ライセンスを 96, 97
 - 制限, ライセンスの数 96
 - 接続の消失 85
 - 停止と再起動 102
 - 返却, ライセンスを 99
 - ホスト名と ID 87
 - ライセンス サーバ モデル 5, 18, 70
 - 冗長 71
 - シングル 70
 - 分散 70
 - ライセンス借用 96, 97
 - 環境設定 110
 - サードパーティ ライセンス ツール 97
 - 返却, ライセンスを 99
 - 有効期限 97
 - ライセンス情報を表示 60
 - ライセンス使用レポート 110
 - ライセンス データ 60
 - ライセンス転送ユーティリティ 62
 - ライセンスの更新 55
 - ライセンスの種類 5, 47
 - 変更 10
 - ライセンス ファイル
 - パッケージ ライセンスの概要 83
 - パッケージ ライセンスの例 83
 - 理解 78
 - 例 81
 - ライセンス ファイルの例
 - 一般 81
 - 結合された製品バージョン 82
 - 結合された製品バージョン, パッケージ ライセンス 85
 - 冗長サーバ 82
 - 冗長サーバ, パッケージ ライセンス 84
 - シングルまたは分散サーバ, パッケージ ライセンス 83
 - シングル ライセンス サーバ 81
 - 分散ライセンス サーバ 81
- れ**
- レポート ログ ファイル 110
- ろ**
- ログ ファイル 7, 108, 110
- わ**
- 割り当て, 配置を 31, 33

